

嵐山町

子ども・子育て支援事業計画に係るニーズ調査
結果報告書

令和 6 年 5 月

嵐山町 福祉課

目 次

I 調査概要

1 調査の目的	3
2 調査の設計	3
3 調査方法	3
4 回収結果	3
5 報告書の見方	3

II 調査結果

1 お住まいの地域について	7
(1) 居住地区	7
2 子どもと家族の状況について	8
(1) 年齢	8
(2) きょうだいの人数と末子の年齢	9
(3) 調査票回答者	10
(4) 回答者の配偶関係	10
(5) 子育てを主に行っている人	11
3 子育て環境について	12
(1) 日頃、子どもが遊んでいる場所	12
(2) 子育て（教育を含む）に日常的に関わっている人	13
(3) 子育て（教育を含む）に影響すると思われる環境	13
(4) 日頃、子どもをみてもらえる親族・知人の有無	14
(5) 祖父母等の親族に子どもをみてもらっている状況	15
(6) 友人・知人に子どもをみてもらっている状況	15
(7) 子育てをする上で、気軽に相談できる人や場所の有無	16
(8) 子育て（教育を含む）の相談先	16
4 保護者の就労状況について	17
(1) 母親の就労状況	17
(1) -1 母親の就労日数・就労時間	19
(1) -2 母親の家を出る時刻、帰宅時刻	20
(2) 父親の就労状況	21
(2) -1 父親の就労日数・就労時間	22
(2) -2 父親の家を出る時刻、帰宅時刻	23
(3) フルタイムへの転換希望	24
(4) 就労希望	25
5 平日の定期的な教育・保育事業の利用状況について	28
(1) 定期的な教育・保育事業の利用状況	28
(2) 定期的に利用している教育・保育事業	29
(3) 定期的に利用している教育・保育事業の利用頻度と利用希望	31

(4) 利用している教育・保育事業の実施場所	33
(5) 平日に定期的に教育・保育事業を利用している理由	33
(6) 平日に定期的に教育・保育事業を利用していない理由	34
(7) 平日に、定期的に利用したい教育・保育事業	35
(8) 教育・保育事業を利用したい場所	37
(9) 幼稚園の利用意向	37
6 地域子育て支援事業の利用状況について	38
(1) 地域子育て支援事業の利用状況	38
(2) 地域子育て支援拠点事業の利用意向	39
(3) 各事業の認知度、利用経験、利用意向	40
7 土曜・休日や長期休暇中の定期的な教育・保育事業の利用希望について	46
(1) 土曜日と日曜日・祝日の定期的な教育・保育事業の利用希望	46
(2) 定期的な教育・保育事業をたまに利用したい理由	48
(3) 長期休暇中の教育・保育事業の利用希望	49
(4) 長期休暇中の教育・保育事業をたまに利用したい理由	50
8 子どもの病気の際の対応について	51
(1) 病気やケガで通常の事業が利用できなかった経験	51
(2) 病気やケガで事業が利用できなかった場合の対処方法	52
(3) 父親・母親が休んだ際に病後児のための保育施設等を利用したいと思ったか	54
9 不定期の教育・保育事業や宿泊を伴う一時預かり等の利用について	55
(1) 不定期の教育・保育事業の利用状況	55
(2) 一時預かり等の事業の利用希望と利用目的	56
(3) 子どもを泊りがけで家族以外に預ける必要性	58
10 小学校就学後の放課後の過ごし方について	60
(1) 小学校低学年（1～3年生）のうちの放課後を過ごさせたい場所	60
(2) 小学校高学年時の放課後を過ごさせたい場所	62
(3) 町立小中学校再編後の放課後児童クラブの設置に対する希望	64
11 子ども・子育て全般について	65
(1) 町・県の各サービスの利用状況、満足度	65
(2) 相談窓口・サービス等に関する情報の入手方法	69
(3) ヤングケアラーという言葉の認知度	69
(4) 子育てに関して孤立感を感じた経験	70
(5) 町の子育て環境や支援全般の満足度	71
(6) 子ども・子育て支援で充実を希望すること	73
(7) 教育・保育環境の充実など子育ての環境や支援に関して（自由記述）	74

I 調査概要

1 調査の目的

この調査は、幼稚園・保育所・学童保育室などの教育・保育・子育て支援を計画的に整備するために、町民の利用状況や利用希望を把握することを目的として実施しました。

2 調査の設計

1) 調査対象：557人

2) 調査期間

調査期間：令和6年2月20日（火）～ 令和6年3月12日（火）

3 調査方法

郵送配布郵送回収

4 回収結果

有効回収数：290票

有効回収率：52.1%

5 報告書の見方

- (1) 集計は、小数点第2位を四捨五入しています。そのため、数値の合計が100.0%にならない場合があります。
- (2) 基数となるべき実数（n：number of caseの略）は、質問に対する回答者数です。
- (3) 回答の比率（%）は、その質問の回答者数を基数として算出しています。そのため、複数回答の質問は全ての比率を合計すると100.0%を超えることがあります。
- (4) 本文や図表中の選択肢表記は、場合によって語句を短縮・簡略化しています。
- (5) 図表中では、“－”を用いていることがあります。それは回答者がいないことを表しています。
- (6) クロス集計の図表では、分析の軸（＝表側、年齢や地区などの回答者の基本属性等）に無回答を表示していません。そのため、回答者の基本属性の合計が全体のnと合わない場合があります。
- (7) クロス集計の図表では、分析の軸（＝表側）で回答者数が少ないもの（20人未満を目安）は、誤差が大きくなるため、参考として図示し、分析の対象から除いています。
- (8) 分析の軸（＝表側）が対になっている項目（例 調査年度、年齢など）の比較では、比率の差を中心に記述しています。その表現は%ではなく、ポイントで表すこととし、小数点以下第2位を四捨五入しています。
- (9) 調査結果を回答者の子どもの年齢別でみる場合、教育・保育事業の利用状況等をみる関係上、調査実施時の年齢ではなく、令和5年4月1日時点での満年齢（学齢）を使用しています。「学齢」は子どもの生年月から8ページのように区分しています。また、令和5年4月1日時点で生まれていなかった子ども（0歳未満）については、クロス分析軸では「0歳」に含めています。

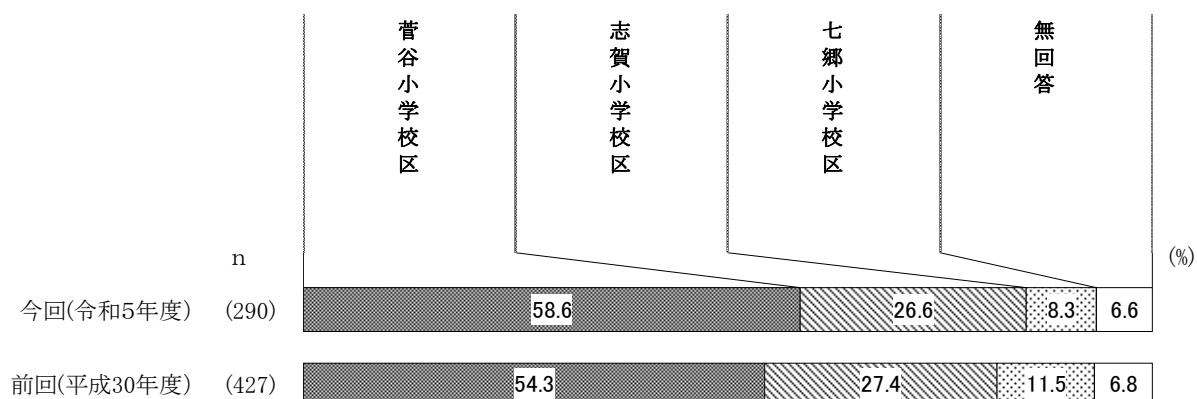
Ⅱ 調査結果

1 お住まいの地域について

(1) 居住地区

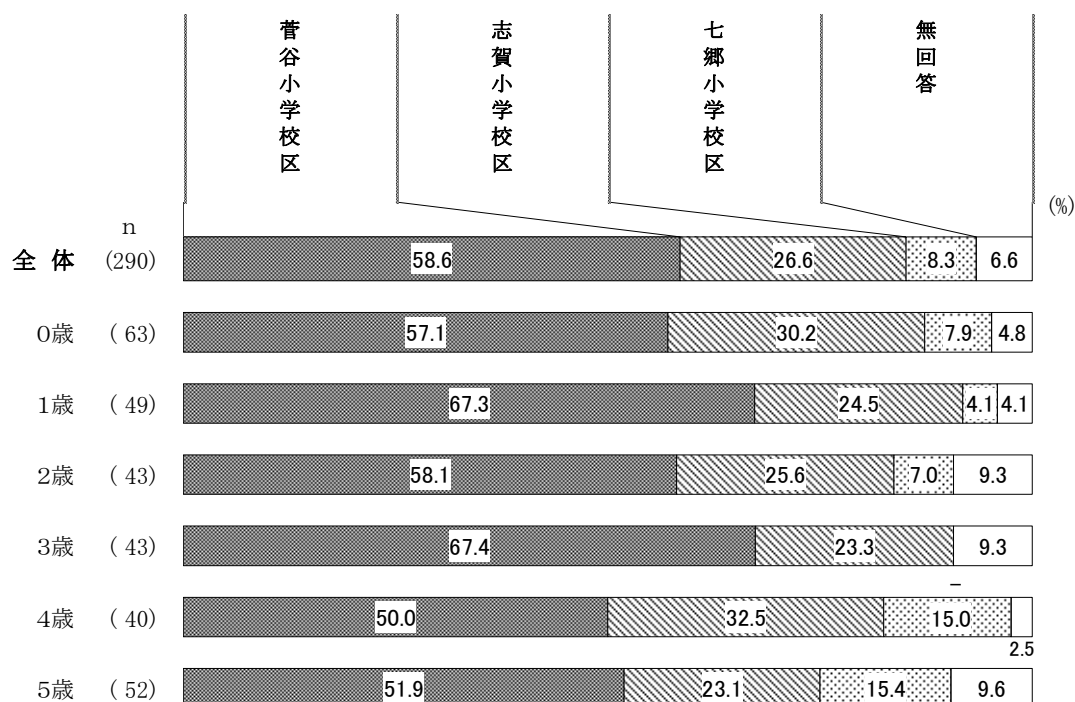
問1 お住まいの地区として当てはまる答えの番号1つに○をつけてください。

居住地区は、「菅谷小学校地区」が58.6%で最も高く、次いで「志賀小学校地区」が26.6%、「七郷小学校地区」が8.3%となっています。



【年齢別】

年齢別の構成をみると、「菅谷小学校区」は“1歳”と“3歳”で全体平均よりも高く、「志賀小学校区」は“0歳”と“4歳”で全体平均よりも高く、「七郷小学校区」は“4歳”と“5歳”で全体平均よりも高くなっています。

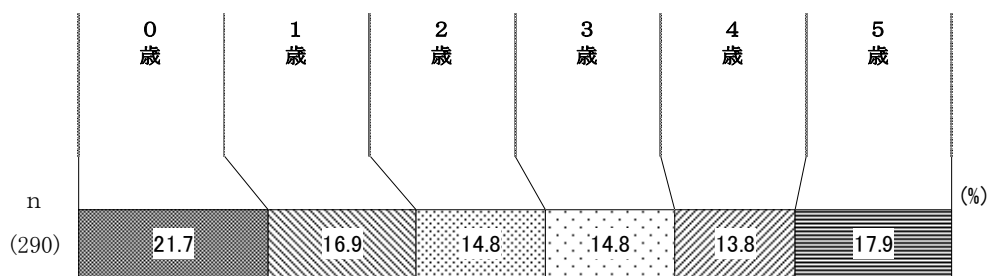


2 子どもと家族の状況について

(1) 年齢

問2 宛名のお子さんの生年月をご記入ください。(□内に数字でご記入ください。数字は一
枠に一字。)

宛名のお子さんの年齢は、「0歳」が21.7%で最も高く、次いで「5歳」(17.9%)、「1歳」
(16.9%)、「2歳」と「3歳」(各14.8%)、「4歳」(13.8%)の順となっています。



年齢（学齢）表記	調査時実年齢	生年月
0歳未満	0歳	令和5（2023）年4月以降生まれ
0歳	0－1歳	令和4（2022）年4月～令和5（2023）年3月
1歳	1－2歳	令和3（2021）年4月～令和4（2022）年3月
2歳	2－3歳	令和2（2020）年4月～令和3（2021）年3月
3歳	3－4歳	平成31（2019）年4月～令和2（2020）年3月
4歳	4－5歳	平成30（2018）年4月～平成31（2019）年3月
5歳	5－6歳	平成29（2017）年4月～平成30（2018）年3月

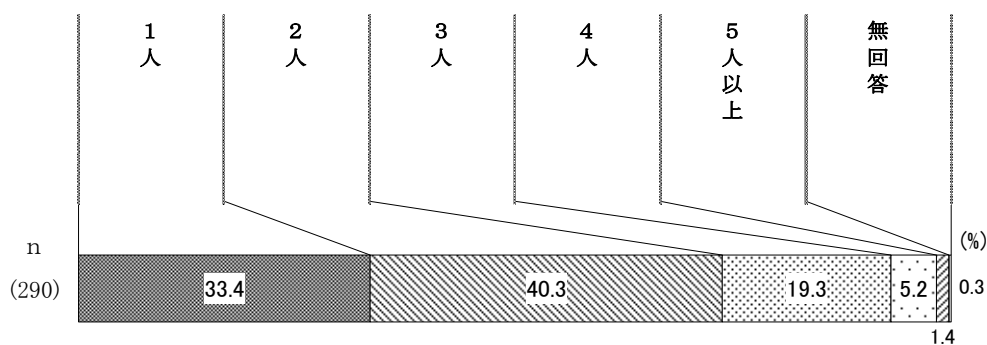
※年齢算出基準日：令和5年4月1日時点

(2) きょうだいの人数と末子の年齢

問3 宛名のお子さんのきょうだいは何人いらっしゃいますか。宛名のお子さんを含めた人数を口内に数字でご記入ください。お2人以上のお子さんがいらっしゃる場合は、末子の方の生年月をご記入ください。

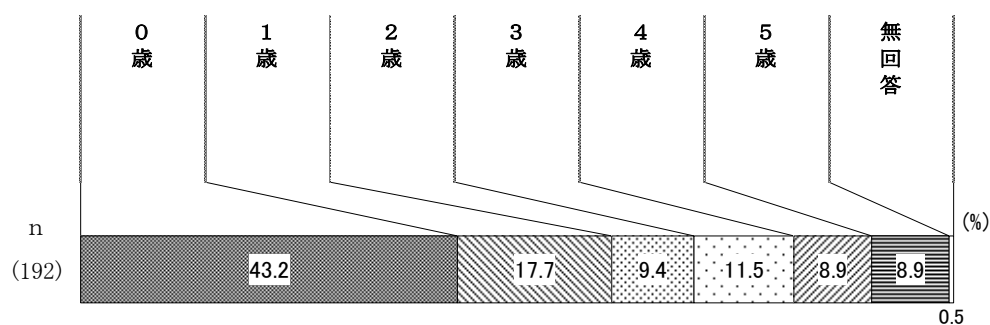
【きょうだいの人数】

きょうだいの人数は、「2人」が40.3%で最も高く、次いで「1人」(33.4%)、「3人」(19.3%)などとなっています。



【末子の年齢】

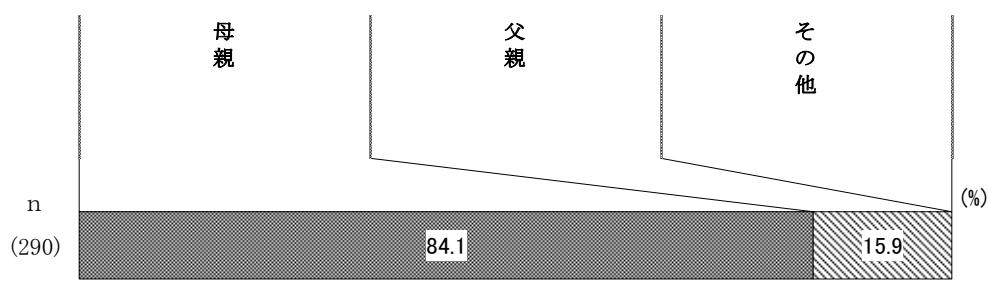
末子の年齢は、「0歳」が43.2%で最も多く、次いで「1歳」(17.7%)、「3歳」(11.5%)、「2歳」(9.4%)、「4歳」と「5歳」(各8.9%)となっています。



(3) 調査票回答者

問4 この調査票にご回答いただく方はどなたですか。宛名のお子さんからみた関係でお答えください。当てはまる番号1つに○をつけてください。

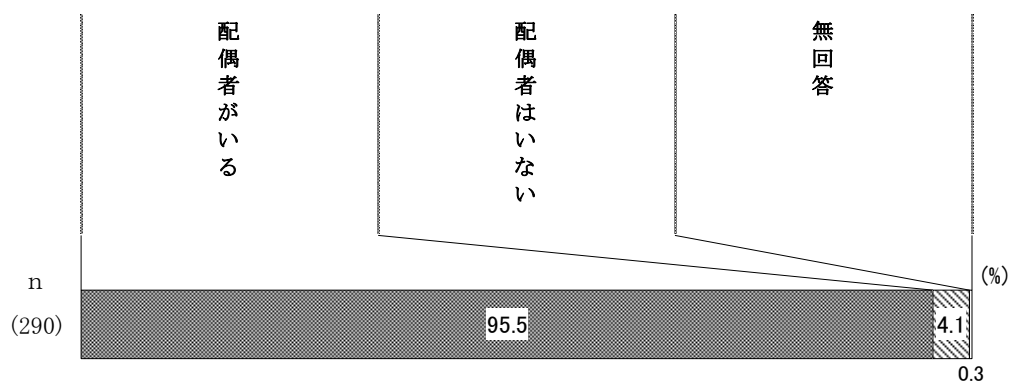
調査の回答者は、「母親」が84.1%に対し、「父親」は15.9%となっています。



(4) 回答者の配偶関係

問5 この調査票に回答いただいている方の配偶関係についてお答えください。当てはまる番号1つに○をつけてください。(問4で「3. その他」と回答した方は回答不要です)

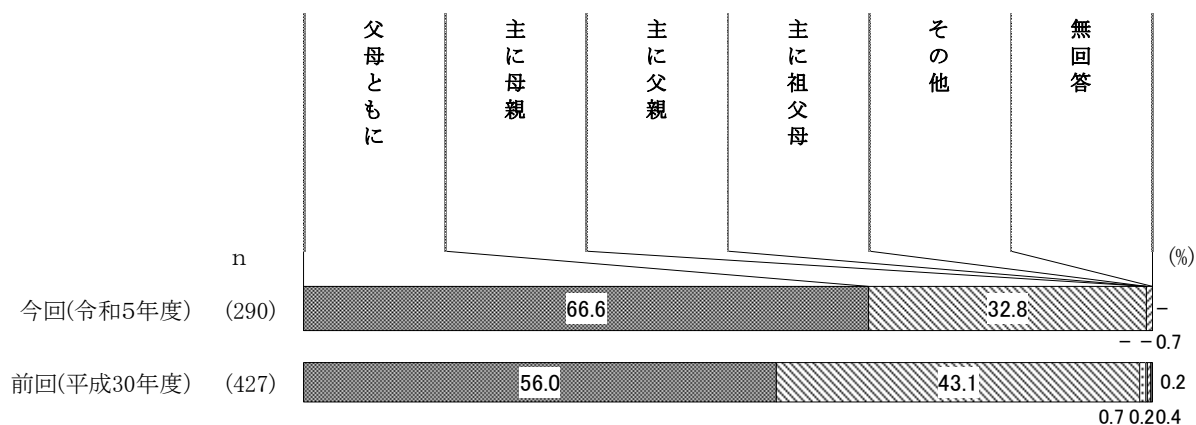
回答者の配偶関係は、「配偶者がいる」が95.5%に対し、「配偶者はいない」が4.1%となっています。



(5) 子育てを主に行っている人

問6 宛名のお子さんの子育て（教育を含む）を主に行っているのはどなたですか。お子さんからみた関係で当てはまる番号1つに○をつけてください。

子どもの子育て（教育を含む）を主に行っている人は、「父母ともに」が66.6%で、「主に母親」が32.8%となっています。

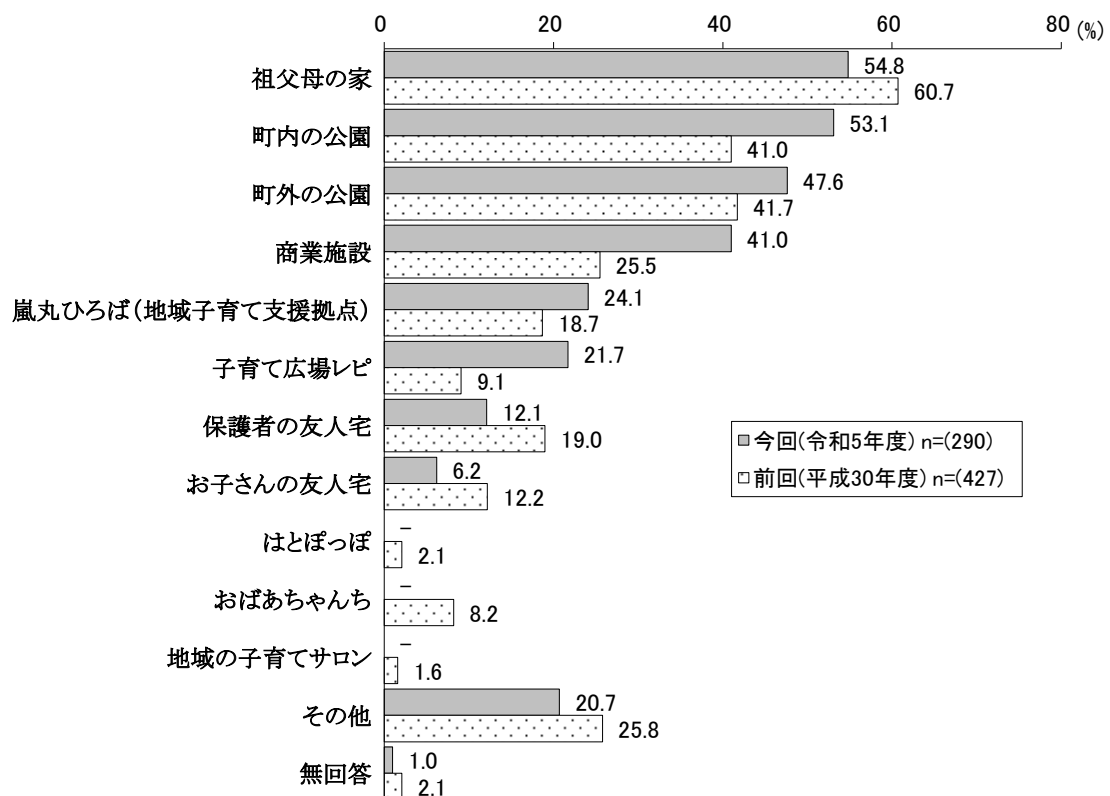


3 子育て環境について

(1) 日頃、子どもが遊んでいる場所

問7 日頃、宛名のお子さんが遊んでいる場所はどこですか。当てはまる番号すべてに○をつけてください。

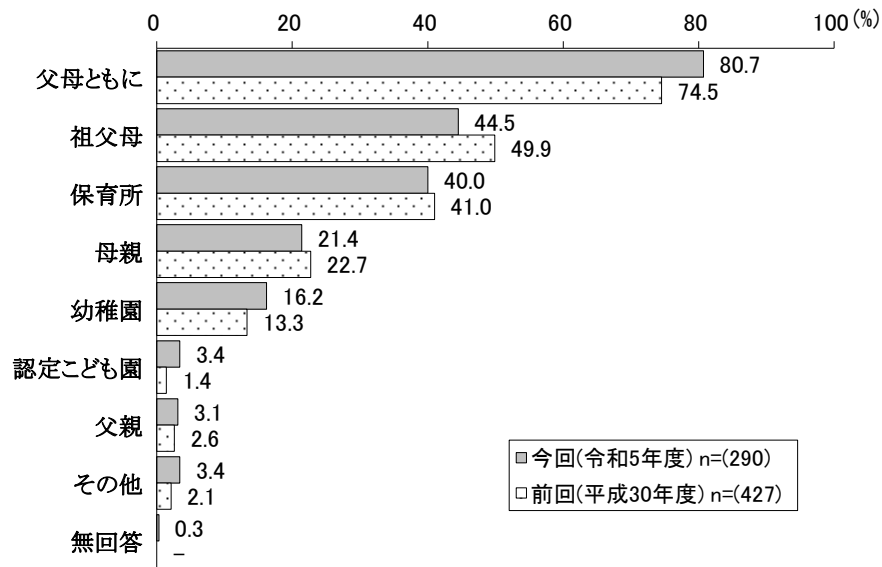
日頃、子どもが遊んでいる場所は、「祖父母の家」が54.8%で最も高く、次いで「町内の公園」(53.1%)、「町外の公園」(47.6%)、「商業施設」(41.0%) などとなっています。



(2) 子育て（教育を含む）に日常的に関わっている人

問8 宛名のお子さんの子育て（教育を含む）に日常的に関わっている方はどなた（施設）ですか。お子さんからみた関係で当てはまる番号すべてに○をつけてください。

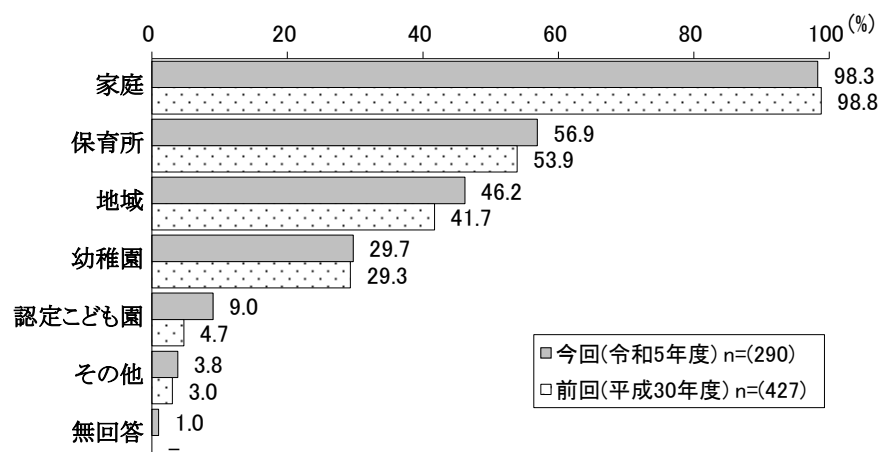
子どもの子育て（教育を含む）に日常的に関わっている方は、「父母ともに」が80.7%で最も高く、次いで「祖父母」（44.5%）、「保育所」（40.0%）、「母親」（21.4%）となっています。



(3) 子育て（教育を含む）に影響すると思われる環境

問9 宛名のお子さんの子育て（教育を含む）に、影響すると思われる環境すべてに○をつけてください。

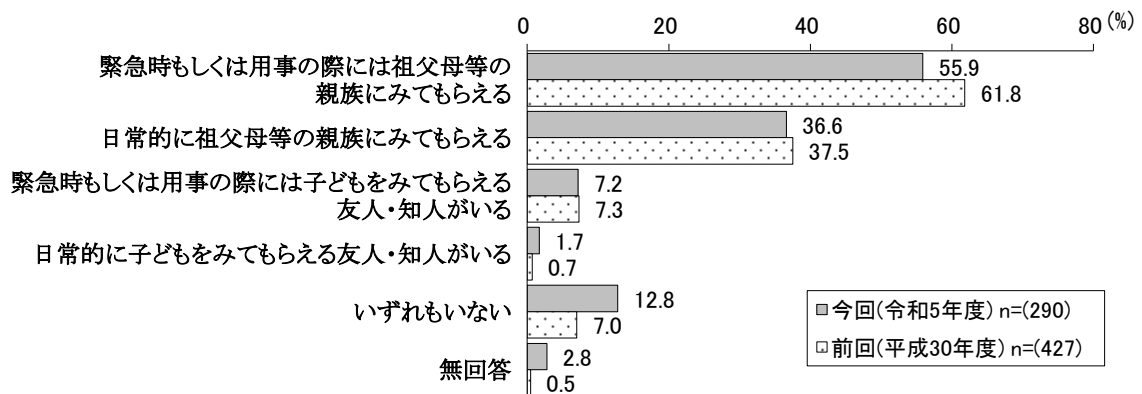
子どもの子育て（教育を含む）に最も影響すると思われる環境は、「家庭」が98.3%と最も高く、次いで「保育所」（56.9%）、「地域」（46.2%）、「幼稚園」（29.7%）の順となっています。



(4) 日頃、子どもをみてもらえる親族・知人の有無

問10 日頃、宛名のお子さんをみてもらえる親族・知人はいますか。当てはまる番号すべてに○をつけてください。

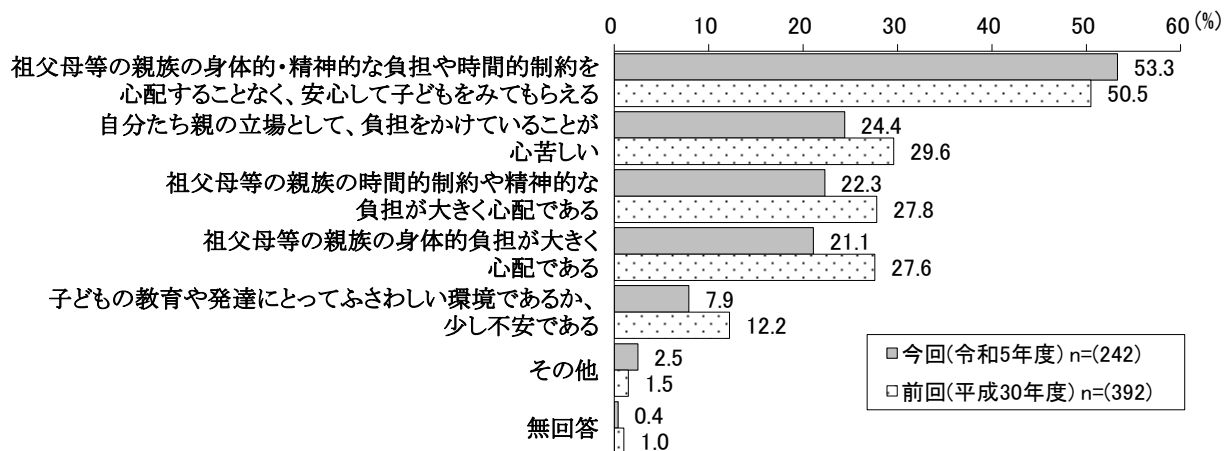
子どもを日頃みてもらえる親族・知人の有無については、「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」が55.9%で最も高く、次いで「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」(36.6%)、「緊急時もしくは用事の際には子どもをみてもらえる友人・知人がいる」(7.2%)の順となっています。一方、「いずれもない」は12.8%となっています。



(5) 祖父母等の親族に子どもをみてもらっている状況

問10-1 問10で「1.」または「2.」に○をつけた方にうかがいます。祖父母等の親族にお子さんをみてもらっている状況についてお答えください。当てはまる番号すべてに○をつけてください。

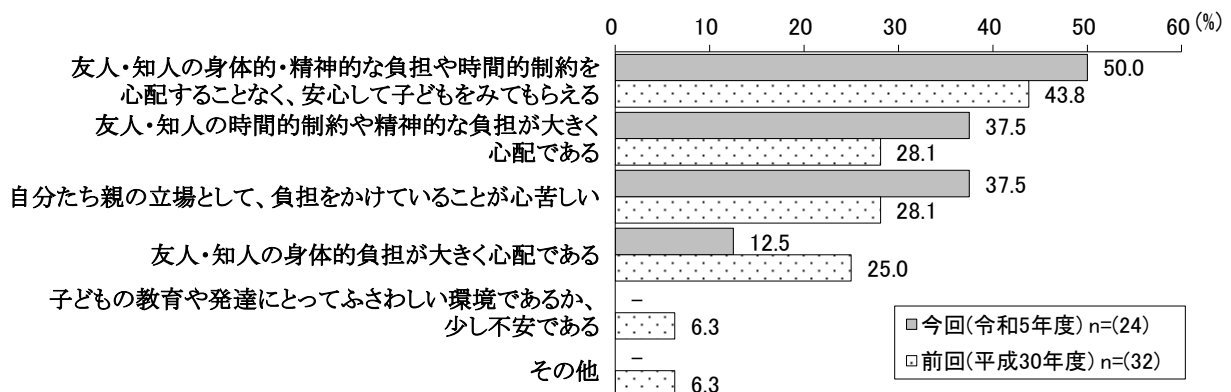
祖父母等の親族に子どもをみてもらっている状況については、「祖父母等の親族の身体的・精神的な負担や時間的制約を心配することなく、安心して子どもをみてもらえる」(53.3%)が過半数となっていますが、一方で、「自分たち親の立場として、負担をかけていることが心苦しい」(24.4%)、「祖父母等の親族の時間的制約や精神的な負担が大きく心配である」(22.3%)、「祖父母等の親族の身体的負担が大きく心配である」(21.1%)などがそれぞれ2割台となっています。



(6) 友人・知人に子どもをみてもらっている状況

問10-2 問10で「3.」または「4.」に○をつけた方にうかがいます。友人・知人にみてもらっている状況についてお答えください。当てはまる番号すべてに○をつけてください。

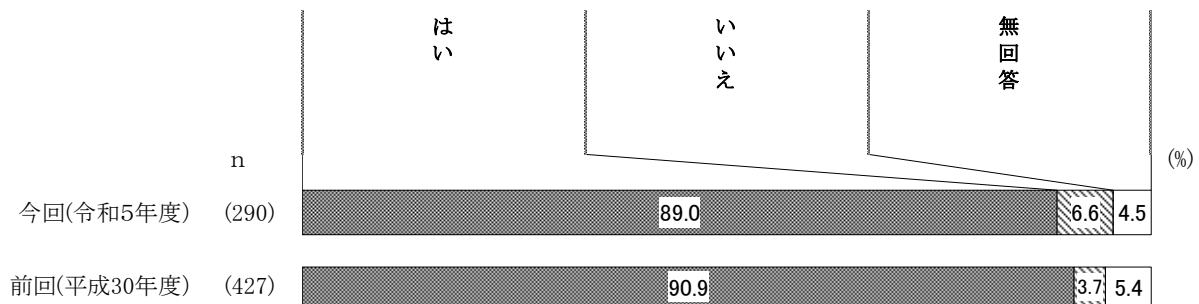
友人・知人に子どもをみてもらっている状況については、「友人・知人の身体的・精神的な負担や時間的制約を心配することなく、安心して子どもをみてもらえる」(50.0%)半数と最も高いものの、一方で、「友人・知人の時間的制約や精神的な負担が大きく心配である」と「自分たち親の立場として、負担をかけていることが心苦しい」がともに31.5%、「友人・知人の身体的負担が大きく心配である」が12.5%となっています。



(7) 子育てをする上で、気軽に相談できる人や場所の有無

問11 宛名のお子さんの子育て（教育を含む）をする上で、気軽に相談できる人はいますか。もしくは、相談できる場所がありますか。当てはまる番号 1 つに○をつけてください。

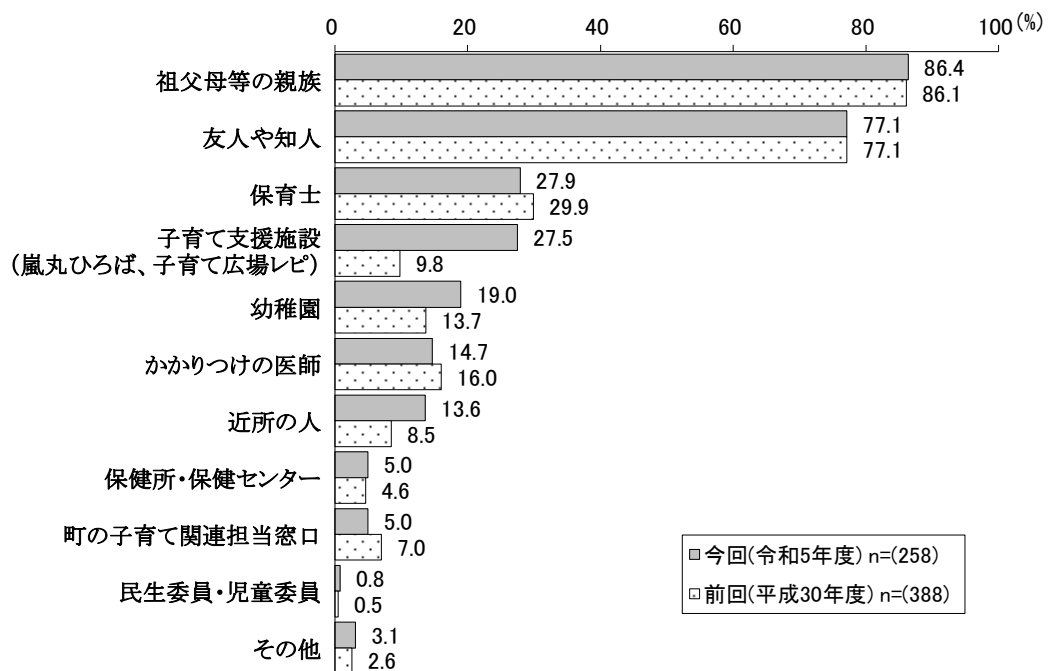
お子さんの子育て（教育を含む）をする上で、気軽に相談できる人の有無は、「はい」が89.0%を占めています。一方、「いいえ」が6.6%となっています。



(8) 子育て（教育を含む）の相談先

問11-1 問11で「1. はい」に○をつけた方にうかがいます。お子さんの子育て（教育を含む）に関して、気軽に相談できる先は、誰（どこ）ですか。当てはまる番号 すべて に○をつけてください。

気軽に相談できる人の相手（先）は、「祖父母等の親族」が86.4%で最も高く、次いで「友人や知人」（77.1%）、「保育士」（27.9%）、「子育て支援施設（嵐丸ひろば、子育て広場レピ）」（27.5%）などの順となっています。



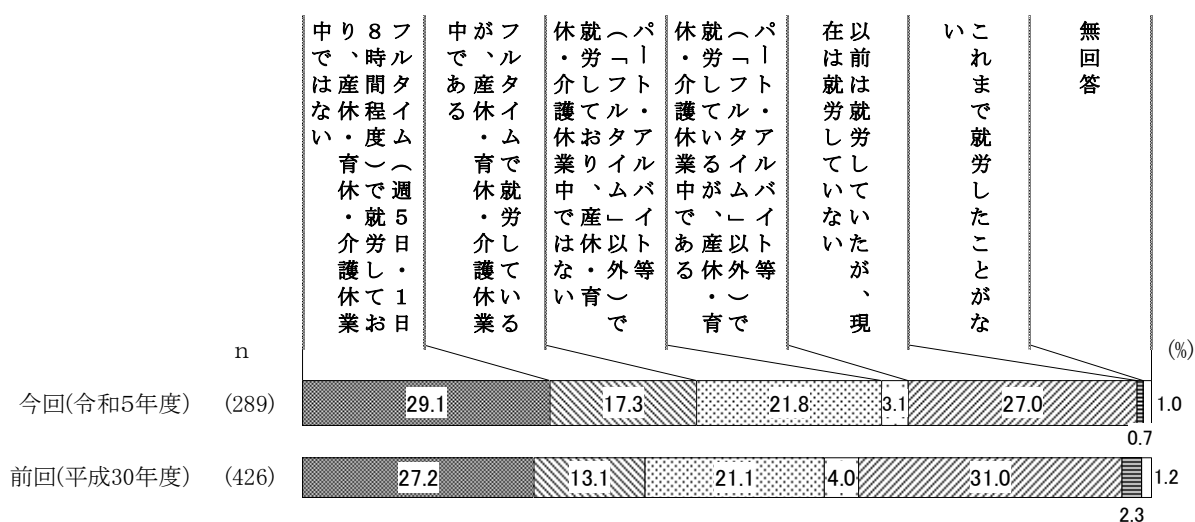
※「保育士」は、前回（平成30年度）調査は「保育所」

4 保護者の就労状況について

(1) 母親の就労状況

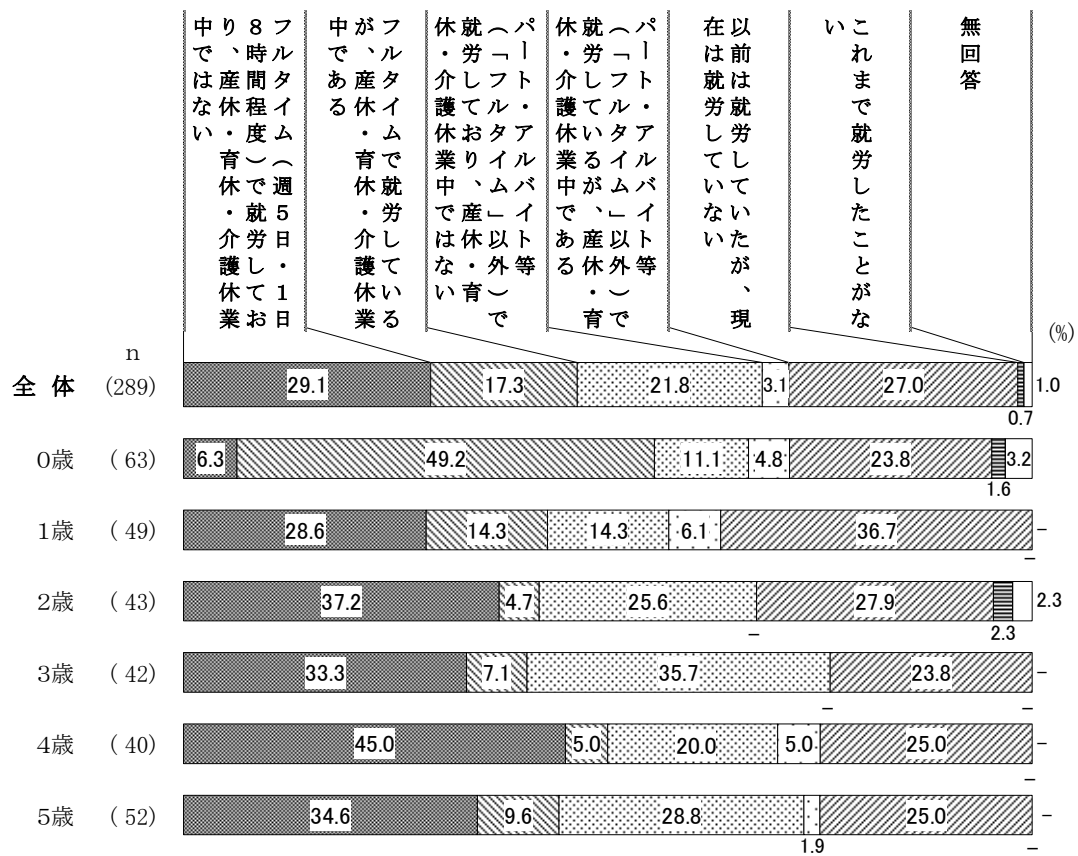
問12 宛名のお子さんの保護者の現在の就労状況（自営業、家族従事者含む）をうかがいます。
 (1) 母親【父子家庭の場合は記入は不要です】当てはまる番号1つに○をつけてください。

母親の現在の就労状況は、「フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」が29.1%で最も高く、これに、「フルタイムで就労しているが、産休・育休・介護休業中である」(17.3%)を合わせた《フルタイムで就労》が46.4%となっています。また、「パート・アルバイト等（「フルタイム」以外）で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」(21.8%)と「パート・アルバイト等（「フルタイム」以外）で就労しているが、産休・育休・介護休業中である」(3.1%)を合わせた《パート・アルバイト等で就労》が24.9%となっています。一方、「以前は就労していたが、現在は就労していない」(27.0%)と「これまで就労したことがない」(0.7%)を合わせた《就労していない》は27.7%となっています。



【年齢別】

年齢別でみると、「フルタイム（週5日・1日8時間程度）で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」と「パート・アルバイト等（「フルタイム」以外）で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」を合わせた《就労しており、産休・育休・介護休業中ではない》は、0歳で17.4%、1歳で42.9%、《2歳以上》で6割台となっています。一方、「フルタイムで就労しているが、産休・育休・介護休業中である」と「パート・アルバイト等（「フルタイム」以外）で就労しているが、産休・育休・介護休業中である」を合わせた《就労しているが、産休・育休・介護休業中である》は、0歳で54.0%、1歳で20.4%、2歳以上で1割前後となっています。



(1) -1 母親の就労日数・就労時間

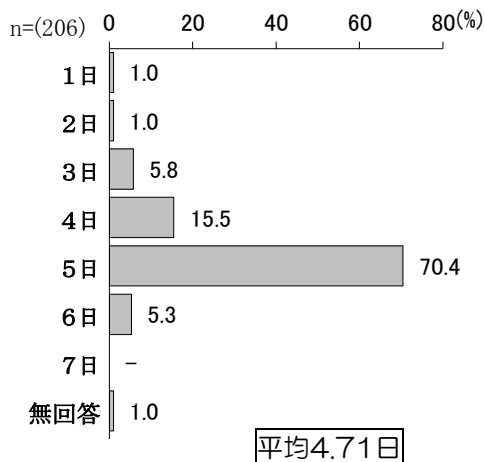
(1) -1 (1)で「1.～4.」(就労している)に○をつけた方にうかがいます。 週当たりの「就労日数」、1日当たりの「就労時間(残業時間を含む)」をお答えください。就労日数や就労時間が一定でない場合は、もっとも多いパターンについてお答えください。産休・育休・介護休業中の方は、休業に入る前の状況についてお答えください。(□内に数字でご記入ください。数字は一桁に一字。)

就労している母親の1週間当たりの就労日数は、「5日」が70.4%を占めており、次いで「4日」(15.5%)、「3日」(5.8%)、「6日」(5.3%)などとなっています。なお、平均は4.71日となっています。

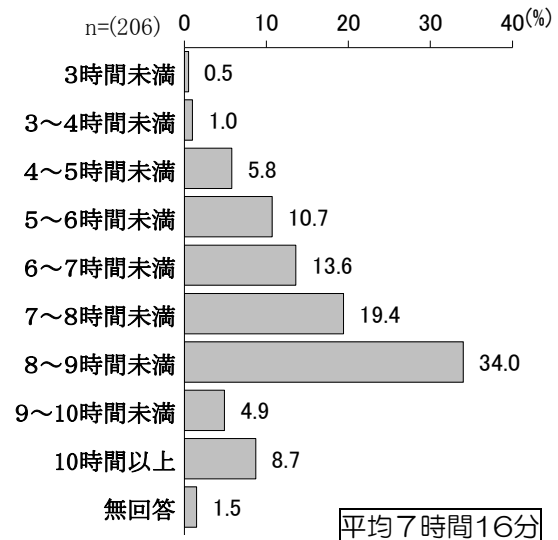
1日当たりの就労時間(残業を含む)は、「8～9時間未満」が34.0%で最も高く、次いで「7～8時間未満」(19.4%)、「6～7時間未満」(13.6%)、「5～6時間未満」(10.7%)などとなっています。なお、平均は7時間16分となっています。

1週間当たりの就労時間は、「40～50時間未満」が48.5%で最も高く、次いで「20～30時間未満」(15.5%)、「30～40時間未満」(14.1%)の順となっています。なお、平均は35.3時間となっています。

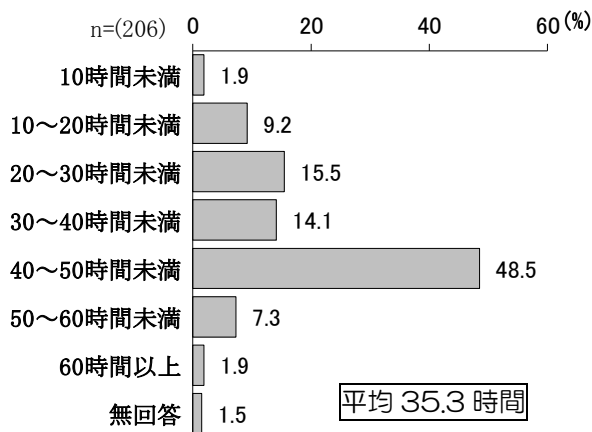
【就労日数(週当たり)】



【就労時間(1日当たり)】



【就労時間(1週間当たり)】

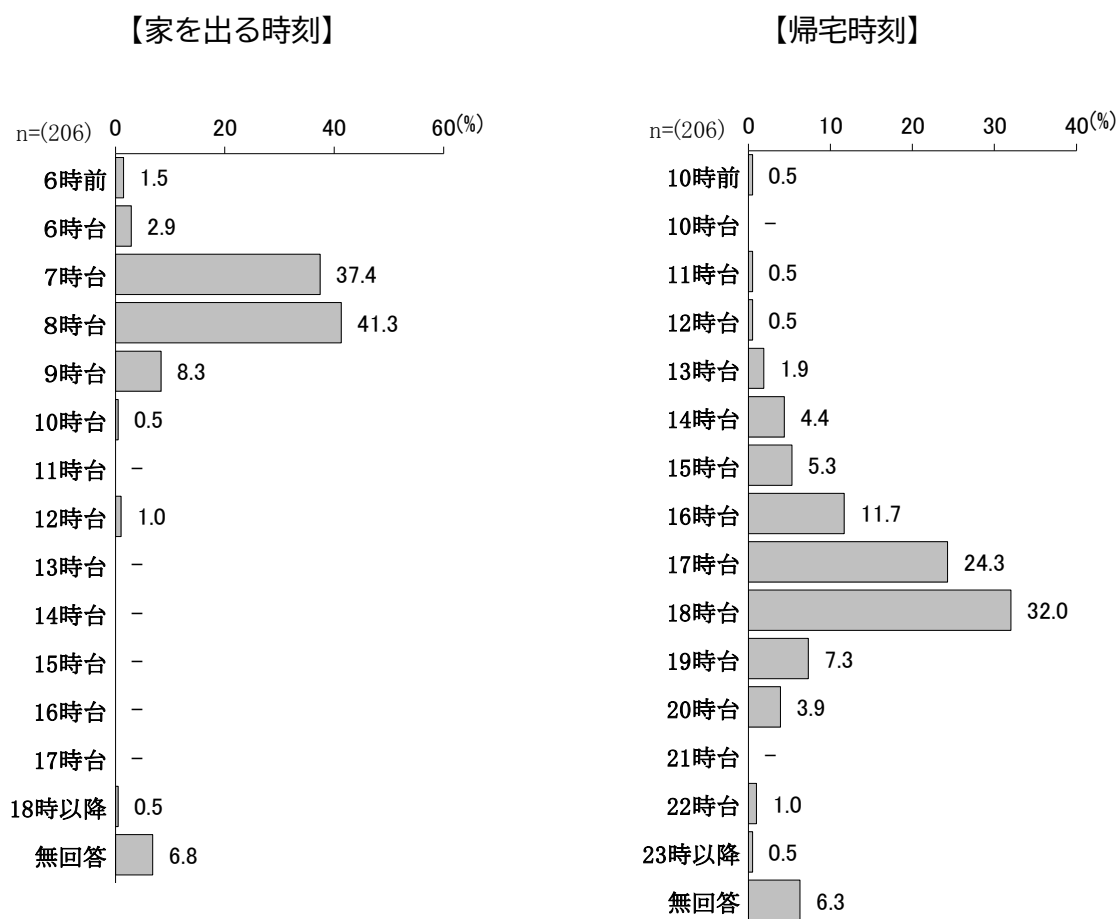


(1) -2 母親の家を出る時刻、帰宅時刻

(1) -2 (1) で「1.~4.」(就労している)に○をつけた方にうかがいます。 家を出る時刻と帰宅時刻をお答えください。時刻が一定でない場合は、もっとも多いパターンについてお答えください。産休・育休・介護休業中の方は、休業に入る前の状況についてお答えください。時刻は、必ず (例) 08時~18時のように、24時間制でお答えください。(□内に数字でご記入ください。数字は一枠に一字。)

就労している母親が家を出る時刻は、「8時台」が41.3%で最も高く、次いで「7時台」(37.4%)、「9時台」(8.3%)となっています。

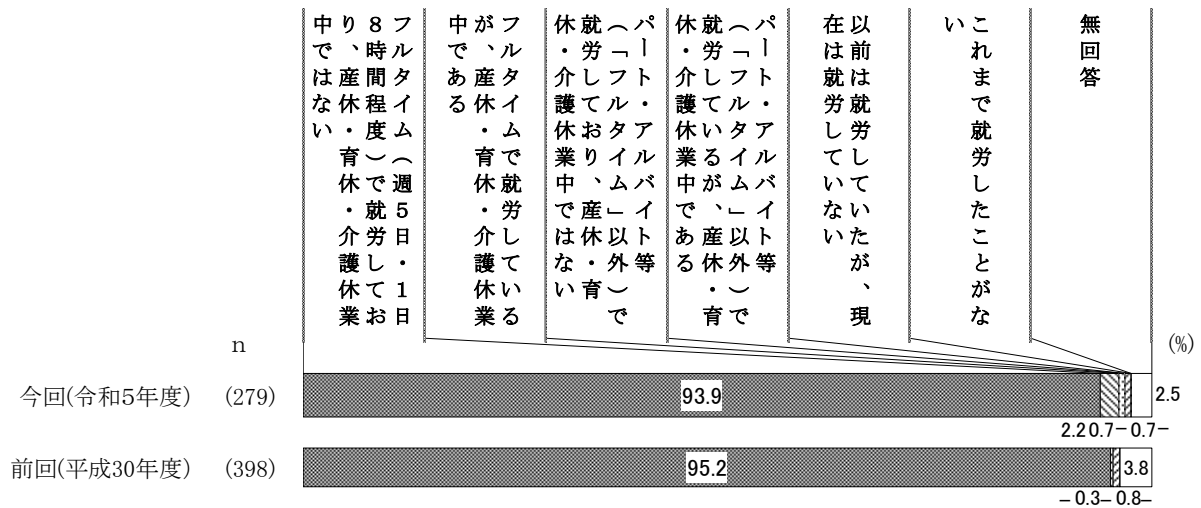
帰宅時刻は、「18時台」が32.0%で最も高く、次いで「17時台」(24.3%)、「16時台」(11.7%)、「19時台」(7.3%)となっています。



(2) 父親の就労状況

(2) 父親【母子家庭の場合は記入は不要です】当てはまる番号1つに○をつけてください。

父親の就労状況は、「フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」が93.9%を占めています。



(2) -1 父親の就労日数・就労時間

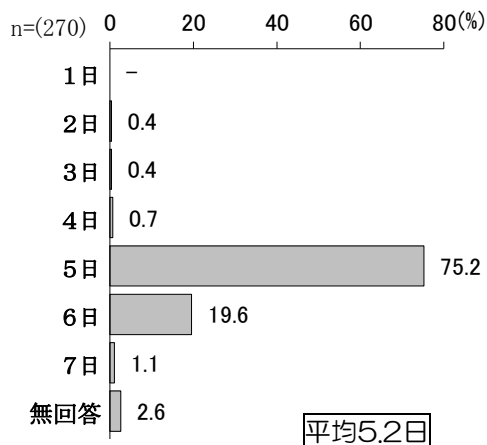
(2) -1 (2)で「1.～4.」(就労している)に○をつけた方にうかがいます。1週当たりの「就労日数」、1日当たりの「就労時間(残業時間を含む)」をお答えください。就労日数や就労時間が、一定でない場合は、もっとも多いパターンについてお答えください。育休・介護休業中の方は、休業に入る前の状況についてお答えください。(□内に数字でご記入ください。数字は一桁に一字。)

就労している父親の1週間当たりの就労日数は、「5日」が75.2%を占めており、次いで「6日」(19.6%)となっています。なお、平均は5.2日となっています。

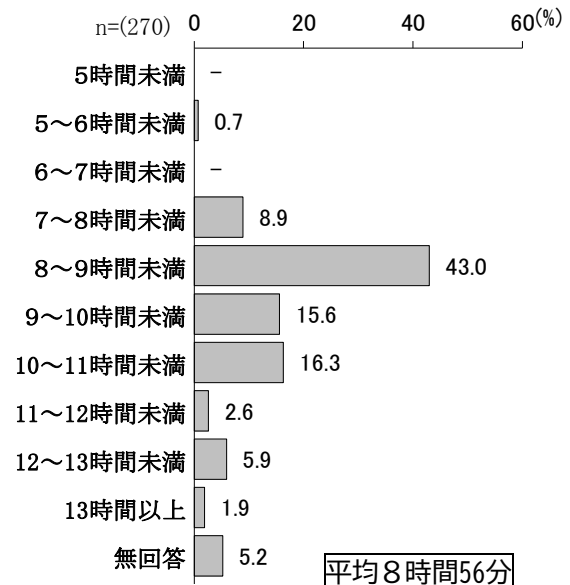
1日当たりの就労時間は、「8～9時間未満」が43.0%で最も高く、次いで「10～11時間未満」(16.3%)、「9～10時間未満」(15.6%)、「7～8時間未満」(8.9%)となっています。なお、平均は8時間56分となっています。

1週当たりの就労時間は、「40～50時間未満」が59.6%で最も多く、次いで「50～60時間未満」(20.4%)、「60時間以上」(13.0%)の順となっています。なお、平均は46.9時間となっています。

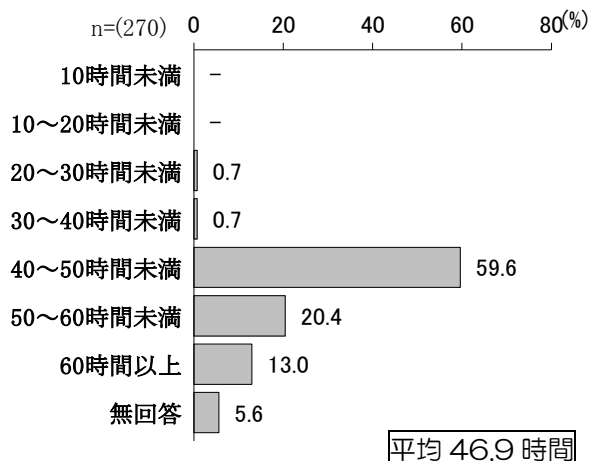
【就労日数(週当たり)】



【就労時間(1日当たり)】



【就労時間(1週当たり)】

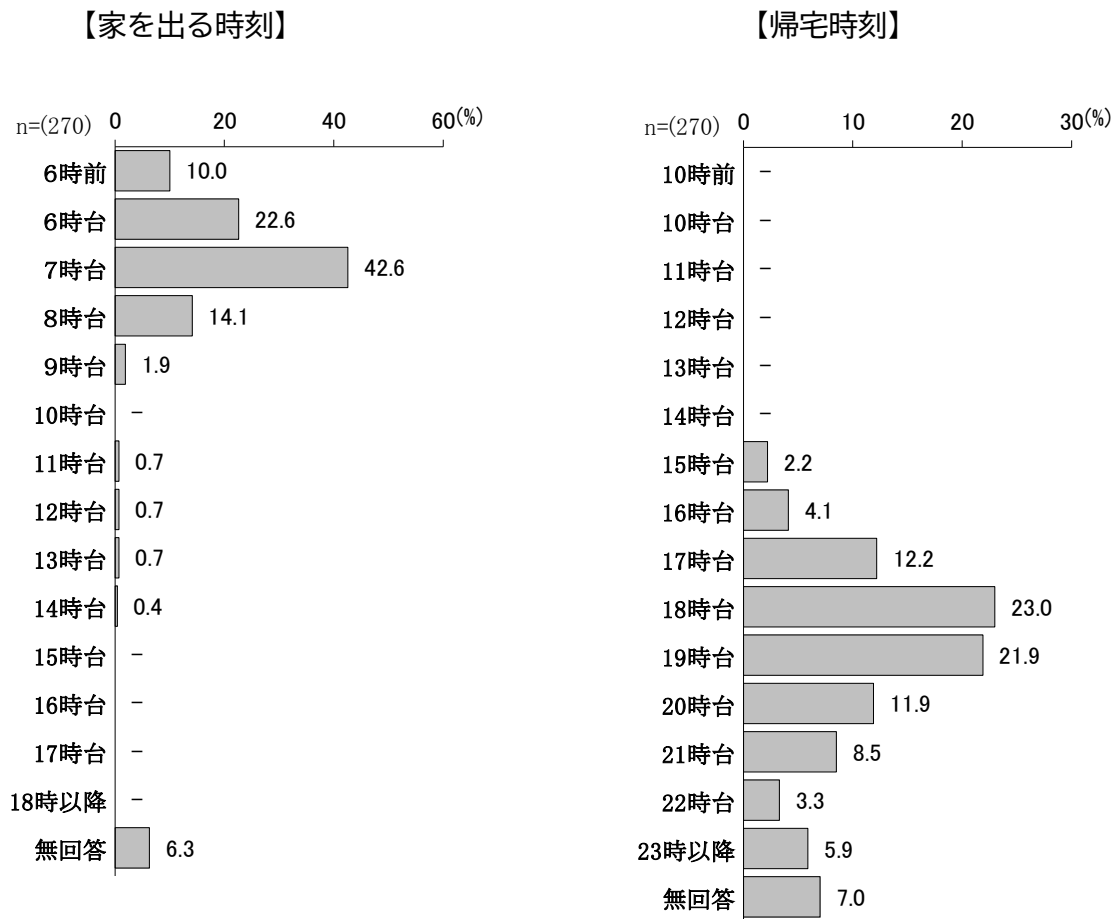


(2) -2 父親の家を出る時刻、帰宅時刻

(2) -2 (2)で「1.~4.」(就労している)に○をつけた方にうかがいます。家を出る時刻と帰宅時刻をお答えください。時刻が一定でない場合は、もっとも多いパターンについてお答えください。育休・介護休業中の方は、休業に入る前の状況についてお答えください。時刻は、必ず(例)08時~18時のように、24時間制でお答えください。(□内に数字でご記入ください。数字は一枠に一字。)

就労している父親の家を出る時刻は、「7時台」が42.6%で最も高く、次いで「6時台」(22.6%)、「8時台」(14.1%)、「6時前」(10.0%)の順となっています。

帰宅時刻は、「18時台」が23.0%で最も高く、次いで「19時台」(21.9%)、「17時台」(12.2%)、「20時台」(11.9%)の順となっています。

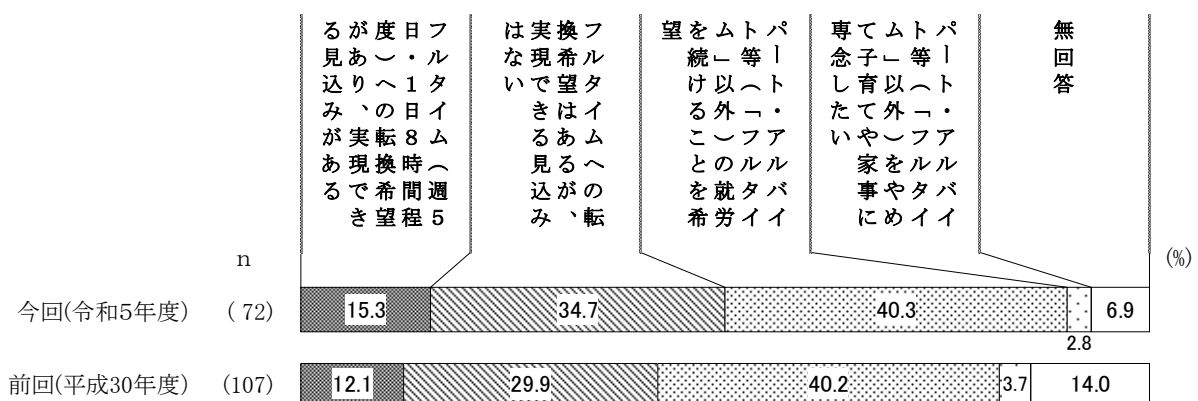


(3) フルタイムへの転換希望

問 13 問 12 の (1) または (2) で「3.4.」(パート・アルバイト等で就労している) に○をつけた方にうかがいます。該当しない方は、問 14 へお進みください。
フルタイムへの転換希望はありますか。当てはまる番号 1 つに○をつけてください。

パート・アルバイト等で就労している母親のフルタイムへの転換希望は、「パート・アルバイト等(「フルタイム」以外)の就労を続けることを希望」が40.3%で最も高くなっている。一方、「フルタイム(週5日・1日8時間程度)への転換希望があり、実現できる見込みがある」(15.3%)と「フルタイムへの転換希望はあるが、実現できる見込みはない」(34.7%)を合わせた《フルタイムの希望がある》は50.0%となっています。また、「パート・アルバイト等(「フルタイム」以外)をやめて子育てや家事に専念したい」が2.8%となっています。

【母親のフルタイムへの転換希望】



【父親のフルタイムへの転換希望】

パート・アルバイト等で就労していると回答いただいた父親は2人で、フルタイムへの転換希望は、「フルタイム(週5日・1日8時間程度)への転換希望はあるが、実現できる見込みはない」と「パート・アルバイト等(「フルタイム」以外)の就労を続けることを希望」が各1人となっています。

(人)

	n	フルタイム(週5日・1日8時間程度)への転換希望があり、実現できる見込みがある	フルタイムへの転換希望はあるが、実現できる見込みはない	パート・アルバイト等(「フルタイム」以外)の就労を続けることを希望	パート・アルバイト等(「フルタイム」以外)をやめて子育てや家事に専念したい
今回(令和5年度)	2	-	1	1	-
前回(平成30年度)	1	-	1	--	

(4) 就労希望

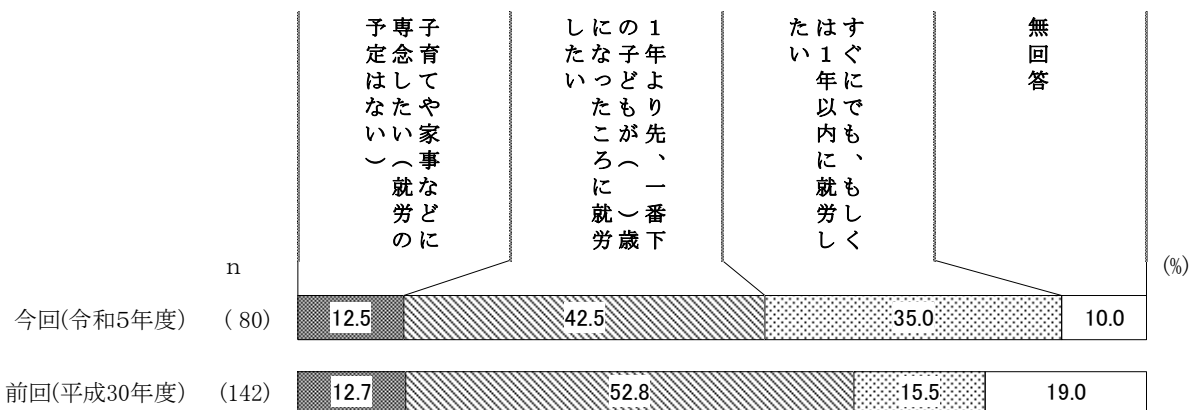
問 14 問 12 の (1) または (2) で「5. 以前は就労していたが、現在は就労していない」または「6. これまで就労したことがない」に○をつけた方にうかがいます。該当しない方は、問 15 へお進みください。

就労したいという希望はありますか。当てはまる番号・記号それぞれ1つに○をつけ、該当する□内には数字をご記入ください（数字は一桁に一字）。

現在就労していない母親の就労希望は、「1 年より先、一番下の子どもが（ ）歳になったところに就労したい」が42.5%で最も多く、これに「すぐにでも、もしくは1 年以内に就労したい」（35.0%）を合わせた《就労を希望している》は77.5%を占めています。

■母親

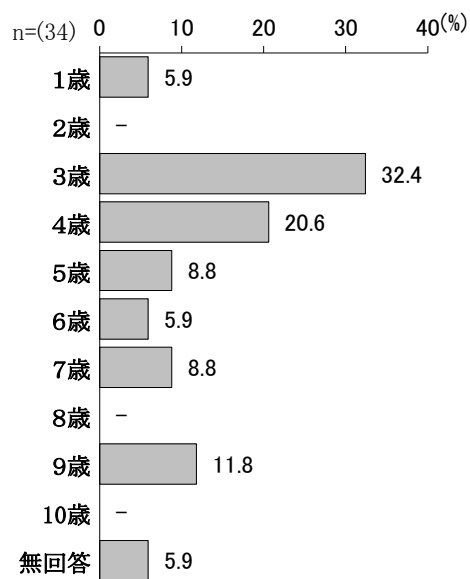
【就労希望】



【就労希望時期の末子年齢】【希望する就労形態】

(就労希望で2と回答した人)

1 年より先に就労を希望すると回答された母親が就労開始時点の末子年齢は、「3 歳」が32.4%で最も高く、次いで「4 歳」(20.6%)、「9 歳」(11.8%)、「5 歳」(8.8%)となっています。

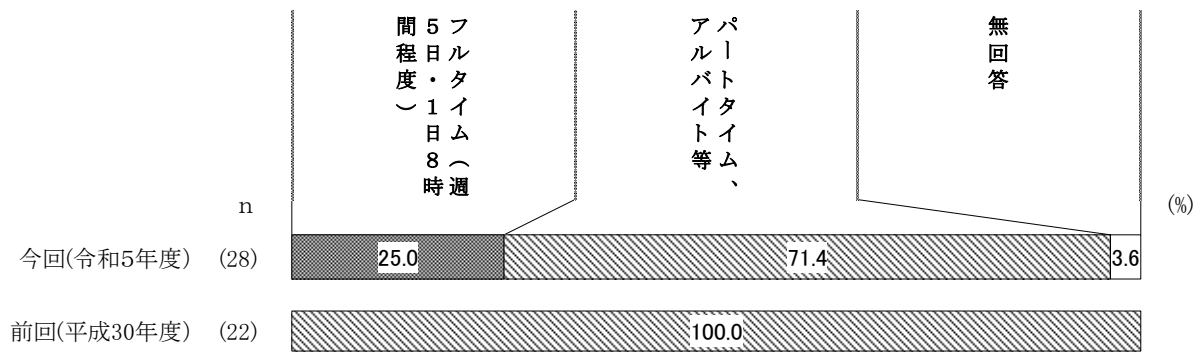


就労したいと回答された母親が希望する就労形態は、「パートタイム、アルバイト等」が71.4%を占めており、「フルタイム（週5日・1日8時間程度）」が25.0%となっています。

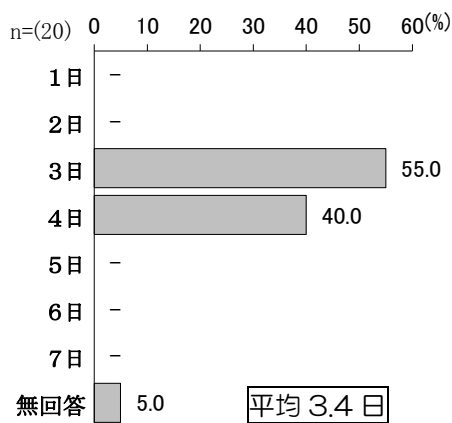
パートタイム、アルバイト等の就労を希望する人の1週間当たりの就労希望日数は、「3日」が55.0%で最も多く、次いで「4日」（40.0%）となっており、平均は、3.4日となっています。

1日当たりの就労希望時間は、「5～6時間未満」が40.0%で最も多く、次いで「4～5時間未満」（30.0%）、「4時間未満」（10.0%）、「6時間以上」（10.0%）の順となっており、平均は、4時間33分となっています。

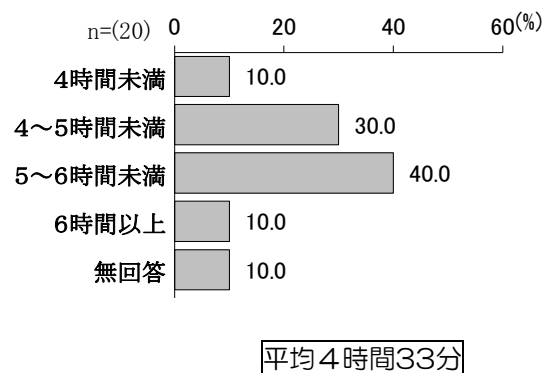
【希望する就労形態】



【就労希望日数（週当たり）】



【就労希望時間（1日当たり）】



※日数・時間は就労希望形態が「パートタイム、アルバイト等」の場合

■父親

現在就労していない父親（該当者 1 人）の就労希望は、「すぐにでも、もしくは 1 年以内に就労したい」となっています。

【就労希望】

(人)

n	子育てや家事などに専念したい (就労の予定はない)	1 年より先、一番下の子どもが () 歳になったころに就労したい	すぐにでも、もしくは 1 年以内に就労したい
1	-	-	1

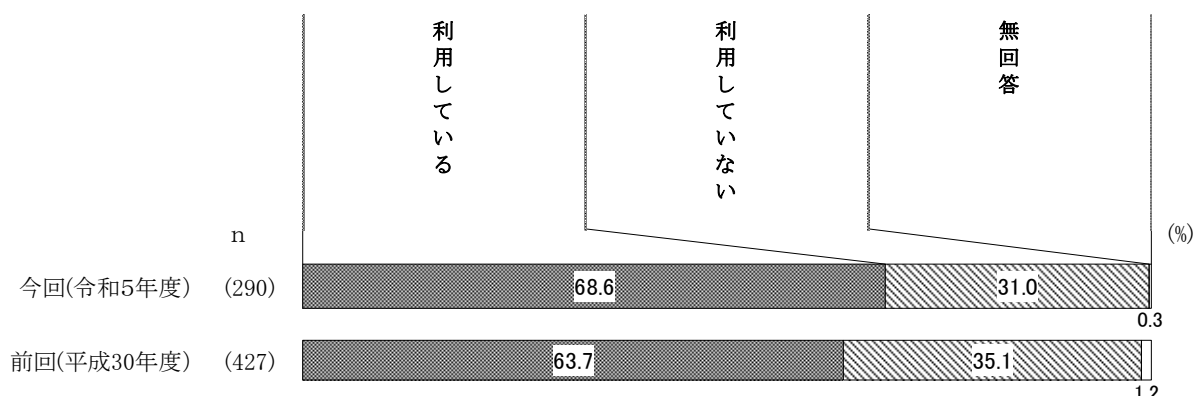
※「就労したい」と答えた人の就労希望時期および就労希望形態はいずれも無回答だった。

5 平日の定期的な教育・保育事業の利用状況について

(1) 定期的な教育・保育事業の利用状況

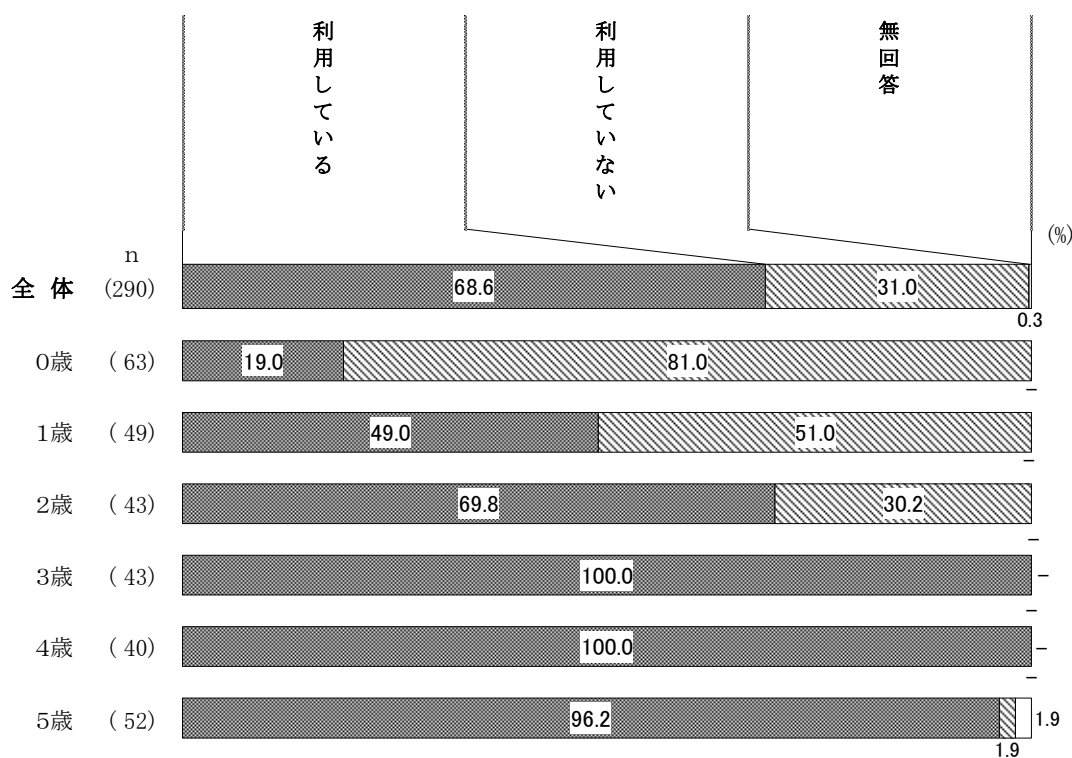
問15 宛名のお子さんは現在、幼稚園や保育所などの「定期的な教育・保育の事業」を利用されていますか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

幼稚園や保育所などの定期的な教育・保育事業の利用状況は、「利用している」が68.6%で、「利用していない」が31.0%となっています。



【年齢別】

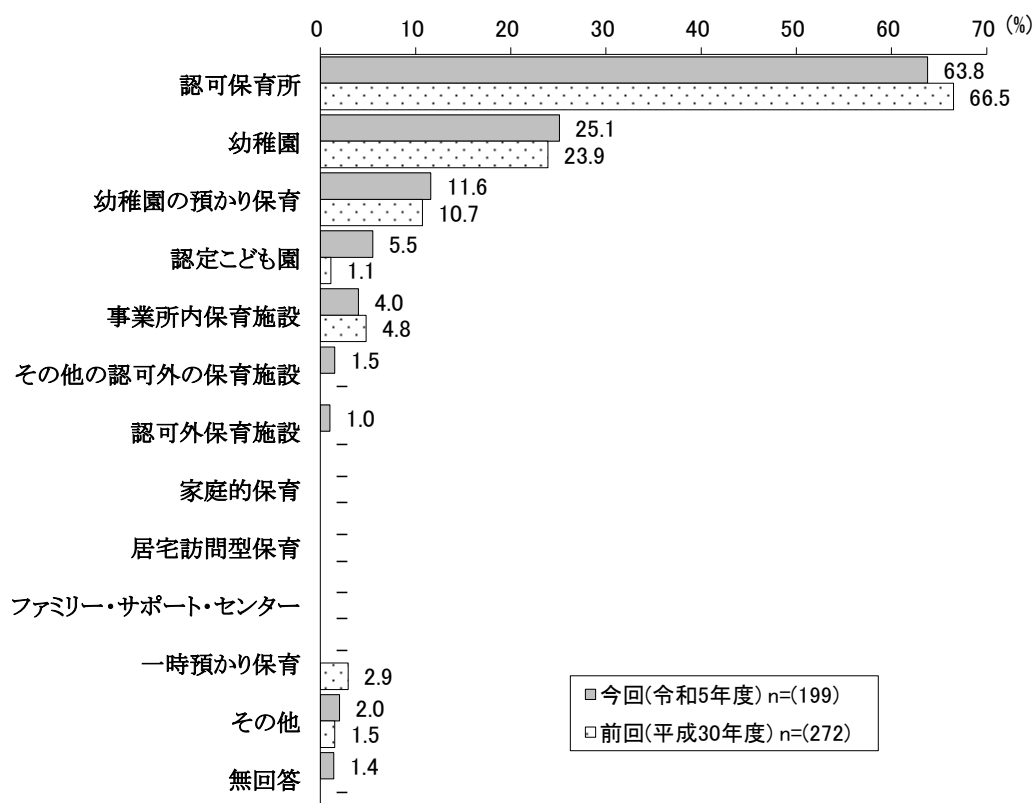
年齢別でみると、「利用している」は年齢が上がるほど高くなり、“0歳”で19.0%、“1歳”で49.0%、“2歳”で69.8%、《3歳以上》でほぼ全数となっています。



(2) 定期的に利用している教育・保育事業

問 15-1 問 15-1～問 15-4 は、問 15 で「1. 利用している」に○をつけた方にかがいます。
宛名のお子さんは、平日どのような教育・保育の事業を利用していますか。年間を通じて「定期的に」利用している事業をお答えください。当てはまる番号すべてに○をつけてください。

利用している教育・保育事業は、「認可保育所」が63.8%で最も高く、次いで「幼稚園」(25.1%)、「幼稚園の預かり保育」(11.6%)、「認定こども園」(5.5%)などの順となっています。



【年齢別】

利用している教育・保育事業を年齢別に見ると、「認可保育所」はすべての年齢で最も高く、概ね年齢が低いほど割合が高くなっています。「幼稚園」は《3歳以上》で3割台、「幼稚園の預かり保育」は年齢が上がるほど割合が高くなっています。

												(%)
	調査数	認可保育所	幼稚園	幼稚園の預かり保育	認定こども園	事業所内保育施設	その他の認可外の保育施設	認可外保育施設	家庭的保育	居宅訪問型保育	ファミリー・サポート・センター	その他
全体	199	63.8	25.1	11.6	5.5	4.0	1.5	1.0	-	-	-	2.0
0歳	12	91.7	8.3	8.3	-	-	-	-	-	-	-	-
1歳	24	79.2	4.2	-	-	12.5	-	-	-	-	-	4.2
2歳	30	76.7	3.3	-	3.3	6.7	3.3	-	-	-	-	10.0
3歳	43	55.8	37.2	14.0	4.7	-	2.3	4.7	-	-	-	-
4歳	40	57.5	37.5	17.5	5.0	5.0	-	-	-	-	-	-
5歳	50	54.0	32.0	18.0	12.0	2.0	2.0	-	-	-	-	-

(3) 定期的に利用している教育・保育事業の利用頻度と利用希望

問15-2 平日に定期的に利用している教育・保育の事業（一時的な利用は除きます）について、どのくらい利用していますか。また、希望としてはどのくらい利用したいですか。1週当たり何日、1日当たり何時間（何時から何時まで）かを、□内に具体的な数字でご記入ください（一枠内に数字は一字）。時間は、必ず（例）09時～18時のように24時間制でご記入ください。

教育・保育事業の1週間当たりの利用日数は、「5日」が95.5%を占めています。

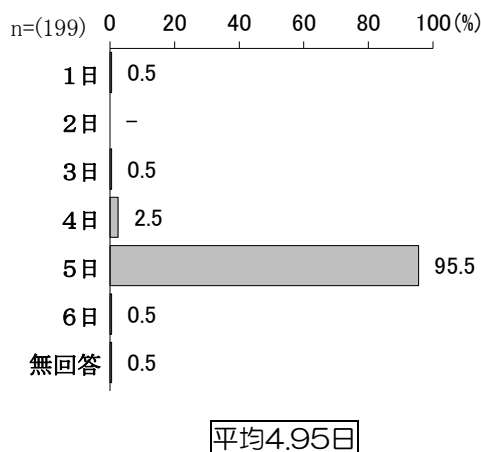
1日当たりの利用時間は、「9～10時間未満」が22.1%で最も高く、次いで「8～9時間未満」（21.6%）、「11時間以上」（18.6%）、「7～8時間未満」（11.1%）などとなっています。

利用開始時間は、「8時台」が51.3%で最も高く、次いで「9時台」（29.1%）、「7時台」（17.6%）の順となっています。

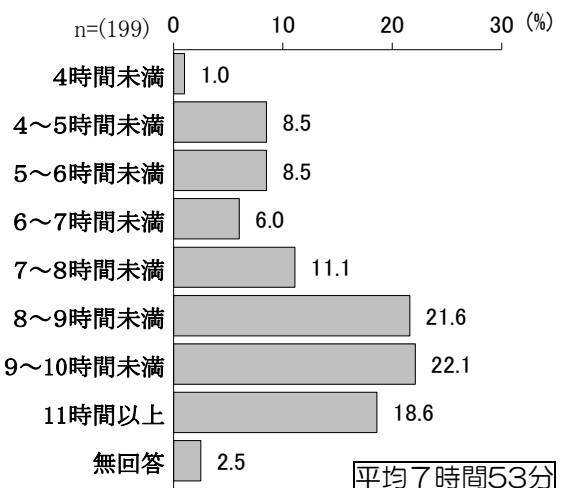
利用終了時間は、「17時台」が29.6%で最も高く、次いで「16時台」（26.6%）、「18時台」（19.6%）、「13時台」（10.6%）などとなっています。

■現在の利用状況

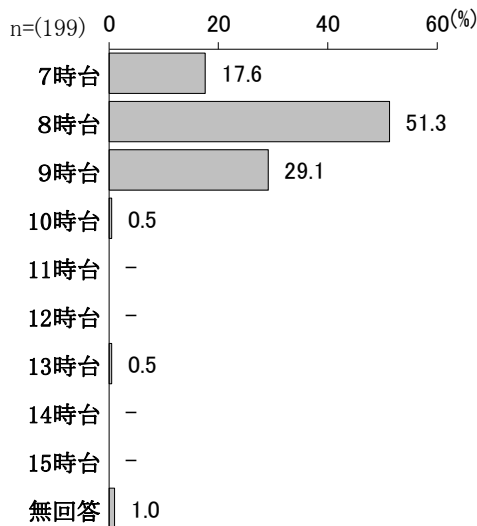
【利用日数（週当たり）】



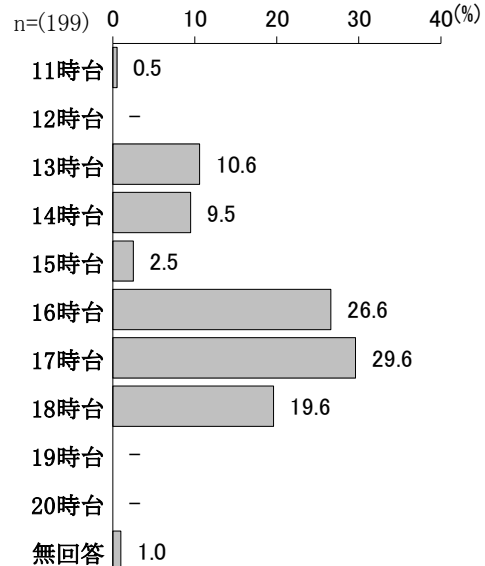
【利用時間（1日当たり）】



【利用開始時刻（登園時刻）】



【利用終了時刻（帰園時刻）】



■希望する日数・時間

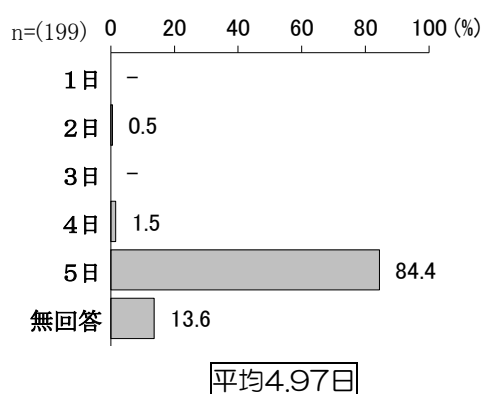
今後希望する1週間当たりの利用日数は、「5日」が84.4%を占めています。

1日当たりの利用時間は、「11時間以上」が22.6%で最も高く、次いで「8～9時間未満」(19.6%)、「9～10時間未満」(19.1%)の順となっています。

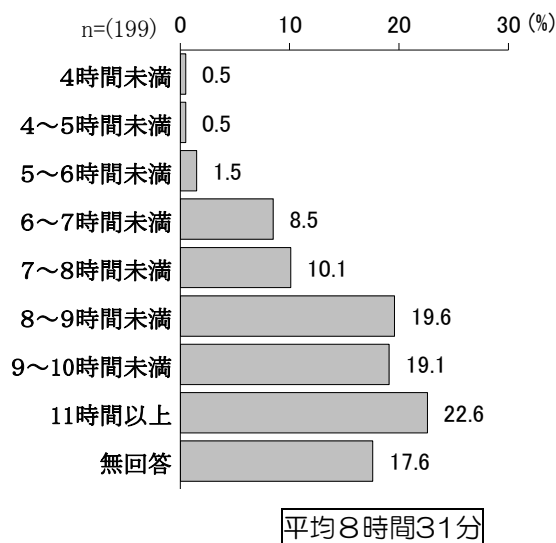
希望する利用開始時刻は、「8時台」が47.7%で最も高く、次いで「9時台」(20.6%)、「7時台」(16.1%)の順となっています。

利用希望終了時刻は、「17時台」が29.1%で最も高く、次いで「18時台」(20.6%)、「16時台」(18.1%)の順となっています。

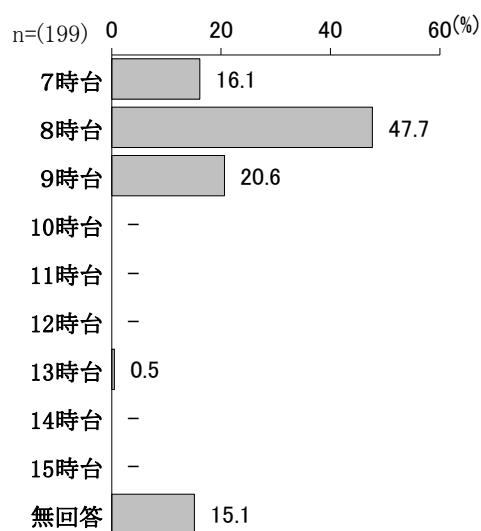
【利用日数（週当たり）】



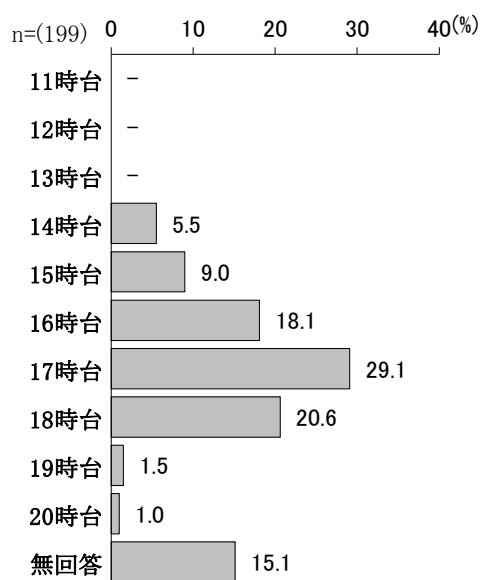
【利用時間（1日当たり）】



【利用開始時刻（登園時刻）】



【利用終了時刻（帰園時刻）】

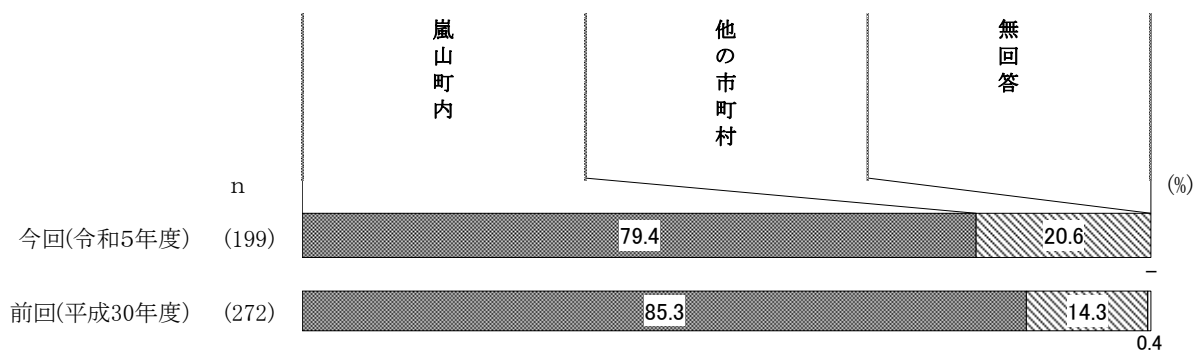


(4) 利用している教育・保育事業の実施場所

問15-3 現在、利用している教育・保育事業の実施場所についてうかがいます。「1.」「2.」のいずれかに○をつけてください。「2. 他の市町村」を選んだ場合は、実施場所の市町村名を記入してください。

現在利用している教育・保育事業の実施場所は、「嵐山町内」が79.4%を占めています。

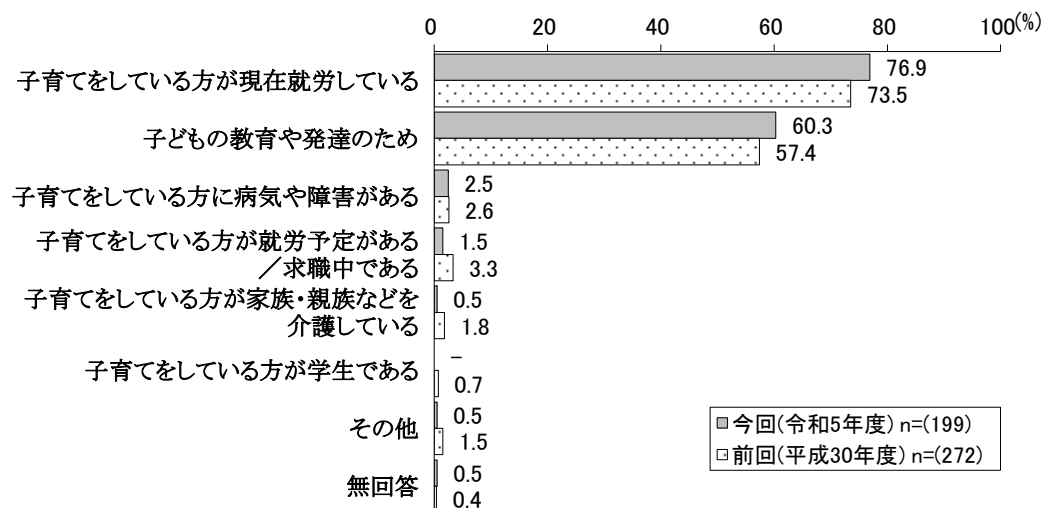
他の市町村の内訳としては、「東松山市」が16件で最も多く、次いで「小川町」(14件)、「ときがわ町」(5件)、「熊谷市」(2件)、「毛呂山町」「滑川町」「川越市」「行田市」(各1件)となっています。



(5) 平日に定期的に教育・保育事業を利用している理由

問15-4 平日に定期的に教育・保育の事業を利用されている理由についてうかがいます。主な理由として当てはまる番号すべてに○をつけてください。

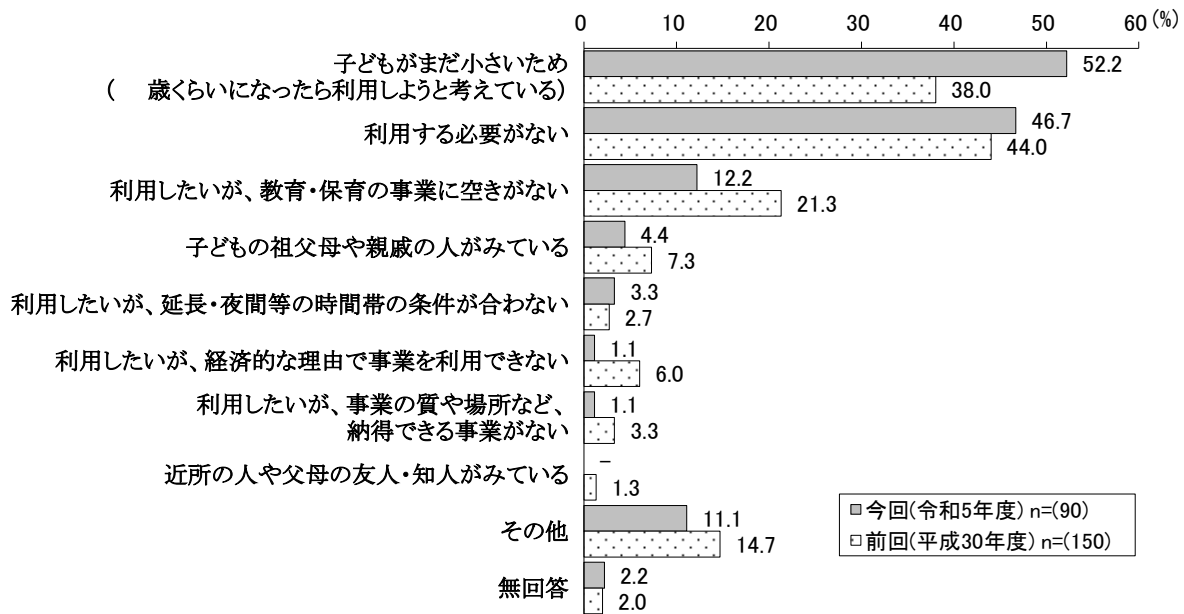
平日に定期的に教育・保育事業を利用している理由は、「子育てをしている方が現在就労している」が76.9%で最も高く、次いで「子どもの教育や発達のため」が60.3%となっており、それ以外の理由はわずかとなっています。



(6) 平日に定期的に教育・保育事業を利用していない理由

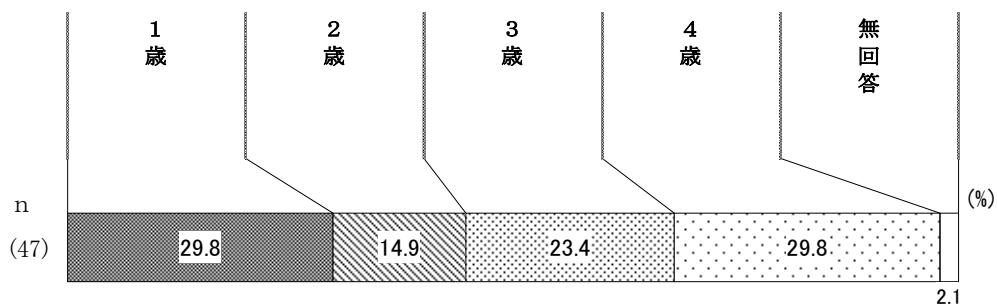
問15-5 問15で「2. 利用していない」に○をつけた方にうかがいます。利用していない理由は何ですか。理由としてもっとも当てはまる番号すべてに○をつけてください

現在、教育・保育事業を利用していない理由は、「子どもがまだ小さいため（ 歳くらいになったら利用しようと考えている）」が52.2%で最も多く、次いで「利用する必要がない」（46.7%）、「利用したいが、教育・保育の事業に空きがない」（12.2%）などの順となっています。



【利用したい年齢】

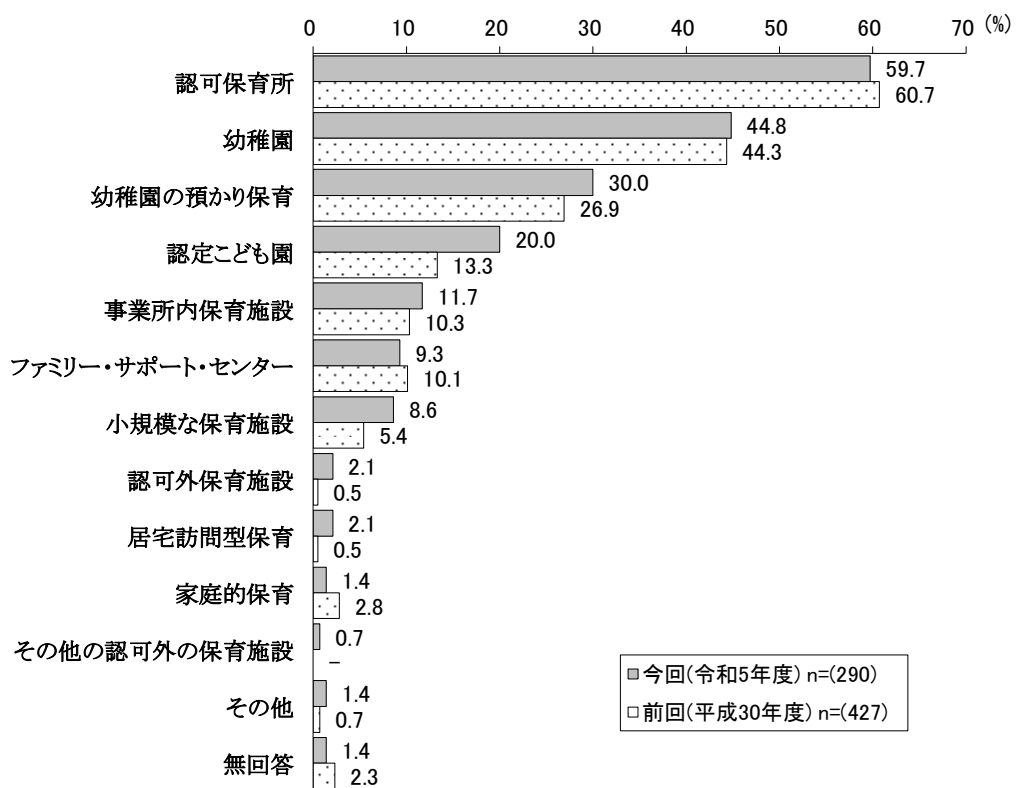
「子どもがまだ小さいため（ 歳くらいになったら利用しようと考えている）」と回答した人に、子どもが何歳になったら利用しようと考えているかうかがったところ、「1歳」と「4歳」がともに29.8%で最も高く、以下、「3歳」（23.4%）、「2歳」（14.9%）の順となっています。



(7) 平日に、定期的に利用したい教育・保育事業

問16 すべての方にうかがいます。現在、利用している、利用していないにかかわらず、宛名のお子さんの平日の教育・保育の事業として、「定期的に」利用したいと考える事業をお答えください。当てはまる番号すべてに○をつけてください。なお、これらの事業の利用には、一定の利用者負担が発生します。認可保育所の場合、世帯収入に応じた利用料が設定されています。

現在、利用している利用していないにかかわらず、教育・保育事業で定期的に利用したいと考えている事業は、「認可保育所」が59.7%で最も高く、次いで「幼稚園」(44.8%)、「幼稚園の預かり保育」(30.0%)、「認定こども園」(20.0%)の順となっています。



【年齢別】

定期的に利用したい教育・保育事業を年齢別に見ると、「認可保育所」は“１歳”を除くすべての年齢で最も高く、特に「０歳」で７割台と高くなっています。「幼稚園」は「１歳」で５６．３％と最も高く、「ファミリー・サポート・センター」は「３歳」で１６．７％、「小規模な保育施設」は「０歳」で１７．５％とそれぞれ最も高くなっています。

(%)

	調査数	認可保育所	幼稚園	幼稚園の預かり保育	認定こども園	事業所内保育施設	ファミリー・サポート・センター	小規模な保育施設	認可外保育施設	居宅訪問型保育	家庭的保育	その他の認可外の保育施設
全体	290	59.7	44.8	30.0	20.0	11.7	9.3	8.6	2.1	2.1	1.4	0.7
0歳	63	76.2	36.5	23.8	25.4	14.3	11.1	17.5	4.8	4.8	3.2	1.6
1歳	48	54.2	56.3	22.9	25.0	14.6	6.3	6.3	－	4.2	－	－
2歳	44	56.8	47.7	34.1	11.4	15.9	9.1	4.5	2.3	－	－	－
3歳	42	54.8	45.2	33.3	9.5	4.8	16.7	9.5	4.8	－	4.8	－
4歳	41	56.1	43.9	29.3	17.1	12.2	7.3	2.4	－	－	－	－
5歳	52	53.8	42.3	38.5	26.9	7.7	5.8	7.7	－	1.9	－	1.9

(%)

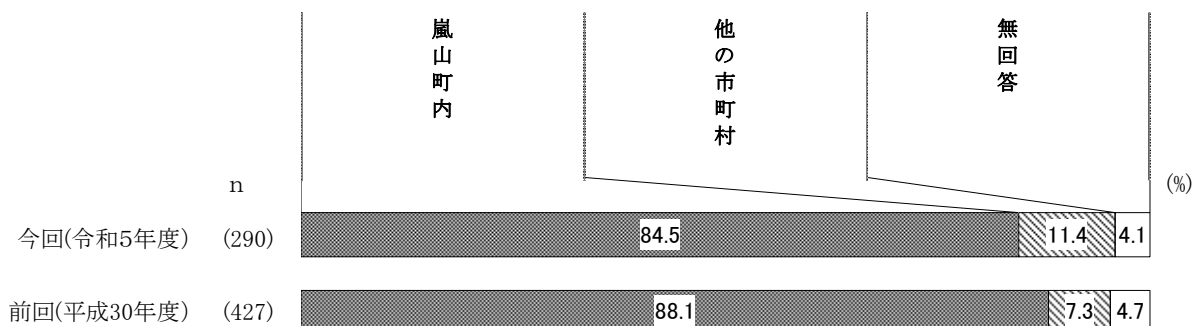
	調査数	その他	無回答
全体	290	1.4	1.4
0歳	63	－	1.6
1歳	48	－	－
2歳	44	6.8	2.3
3歳	42	－	2.4
4歳	41	－	－
5歳	52	1.9	1.9

(8) 教育・保育事業を利用したい場所

問16-1 教育・保育事業を利用したい場所についてうかがいます。「1.」「2.」のいずれかに○をつけてください。「2. 他の市町村」を選んだ場合は、実施場所の市町村名を記入してください。

平日の教育・保育事業を利用したい場所は、「嵐山町内」が84.5%を占めています。

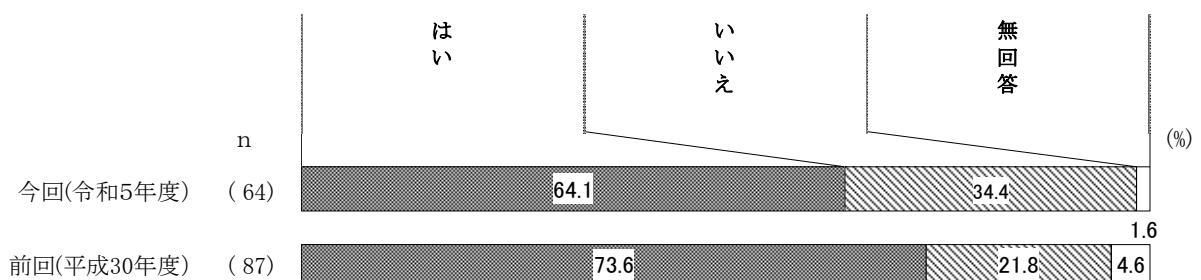
他の市町村の内訳としては、「小川町」が17件で最も多く、次いで「東松山市」（13件）、「ときがわ町」（3件）、「熊谷市」「行田市」「川越市」「坂戸市」（各1件）となっています。



(9) 幼稚園の利用意向

問16-2 問16で「1. 幼稚園（通常の就園時間の利用）」または「2. 幼稚園の預かり保育」に○をつけ、かつ3～12にも○をつけた方にうかがいます。特に幼稚園（幼稚園の預かり保育をあわせて利用する場合を含む）の利用を強く希望しますか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

幼稚園（「1. 幼稚園」または「2. 幼稚園の預かり保育」）を利用しており、かつ、他の教育・保育事業の利用意向がある人に、特に幼稚園（幼稚園の預かり保育をあわせて利用する場合を含む）の利用を強く希望するかたずねたところ、「はい」が64.1%で「いいえ」（34.4%）を大きく上回っています。

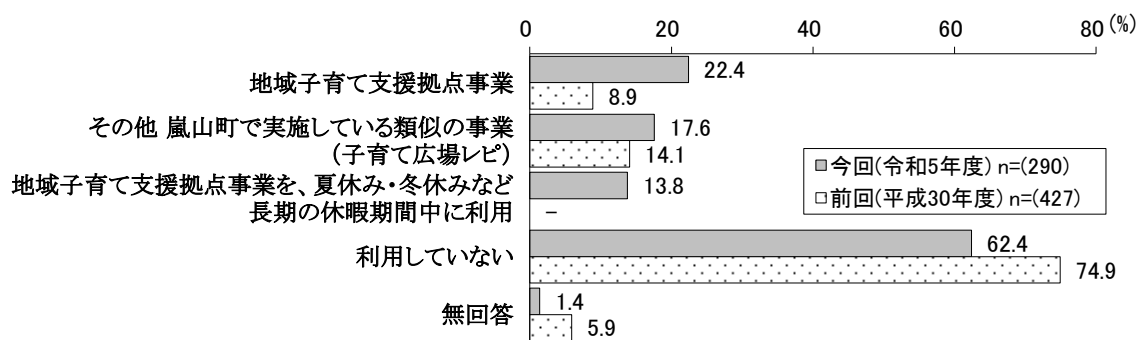


6 地域子育て支援事業の利用状況について

(1) 地域子育て支援事業の利用状況

問17 宛名のお子さんは、現在、地域子育て支援拠点事業（親子が集まって過ごしたり、相談をしたり、情報提供を受けたりする場で、「つどいの広場」「子育て支援センター」等と呼ばれています）を利用していますか。次の中から、利用されているものすべてに○をつけてください。また、おおよその利用回数（頻度）を□内に数字でご記入ください（一枠内に数字は一字）。

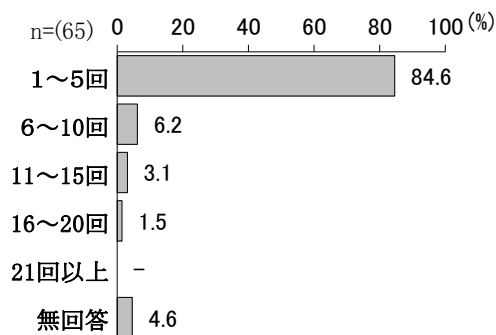
地域子育て支援拠点事業の利用状況は、「利用していない」が62.4%で最も高くなっていますが、利用している中では、「地域子育て支援拠点事業」が22.4%、「その他嵐山町で実施している類似の事業（子育て広場レピ）」が17.6%、「地域子育て支援拠点事業を、夏休み・冬休みなど長期の休暇期間中に利用」が13.8%となっています。



地域子育て支援拠点事業の利用頻度は、1ヶ月当たり「1～5回」が84.6%を占めており、1ヶ月当たりの平均利用回数は2.73回となっています。

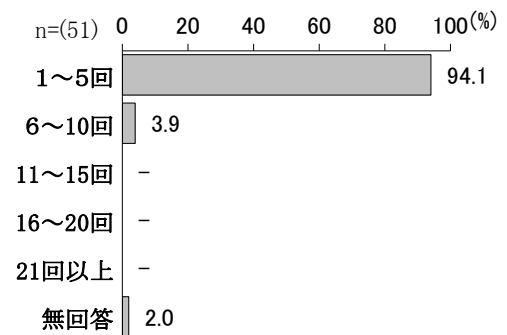
「その他嵐山町で実施している類似の事業（子育て広場レピ）」は、1ヶ月当たり「1～5回」が94.1%を占めており、1ヶ月当たりの平均利用回数は2.5回となっています。

■地域子育て支援拠点事業の利用 【利用回数（1ヶ月当たり）】



平均2.73回

■その他 嵐山町で実施している類似の事業の利用 【利用回数（1ヶ月当たり）】

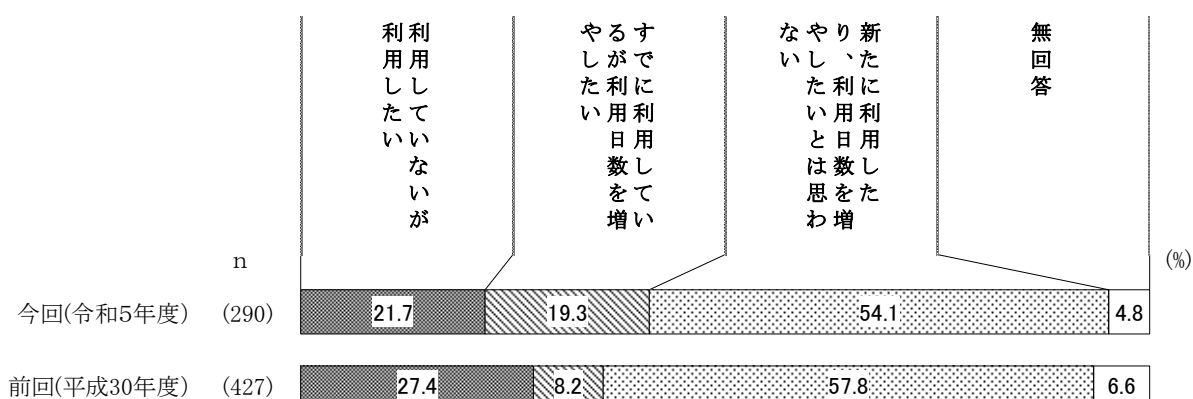


平均2.5回

(2) 地域子育て支援拠点事業の利用意向

問18 問17のような地域子育て支援拠点事業について、今は利用していないができれば利用したい、あるいは、利用日数を増やしたいと思いますか。当てはまる番号1つに○をつけて、おおよその利用回数（頻度）を□内に数字でご記入ください（数字は一桁に一字）。

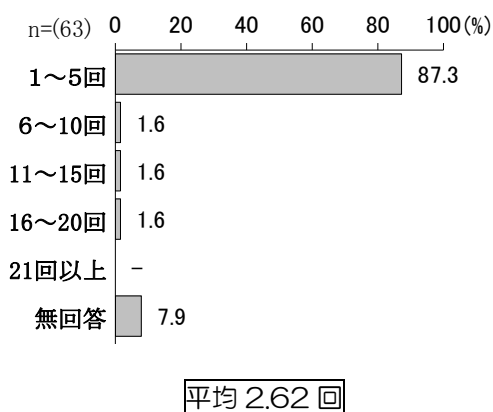
地域子育て支援拠点事業の利用意向は、「新たに利用したり、利用日数を増やしたいとは思わない」が54.1%と過半数を占めており、「利用していないが利用したい」が21.7%、「すでに利用しているが利用日数を増やしたい」が19.3%となっています。



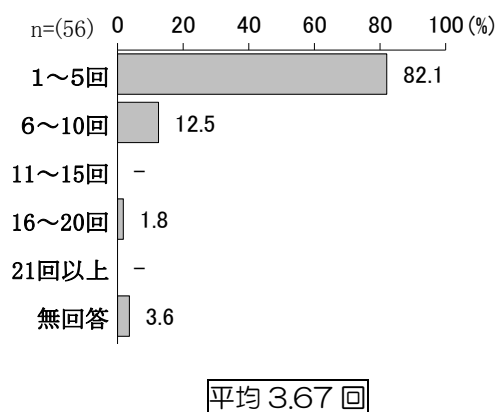
地域子育て支援拠点事業を「利用していないが利用したい」と答えた人の、1ヶ月当たりの利用希望回数は「1～5回」が87.3%を占めており、1ヶ月当たりの平均利用希望回数は2.62回となっています。

また、「すでに利用しているが利用日数を増やしたい」と答えた人の、1ヶ月当たりの利用希望回数は「1～5回」が82.1%で、「6～10回」が12.5%となっています。1ヶ月当たりの平均利用希望回数は3.67回となっています。

■利用していないが今後利用したい 【希望回数（1ヶ月当たり）】



■利用回数を更に増やしたい 【希望回数（1ヶ月当たり）】

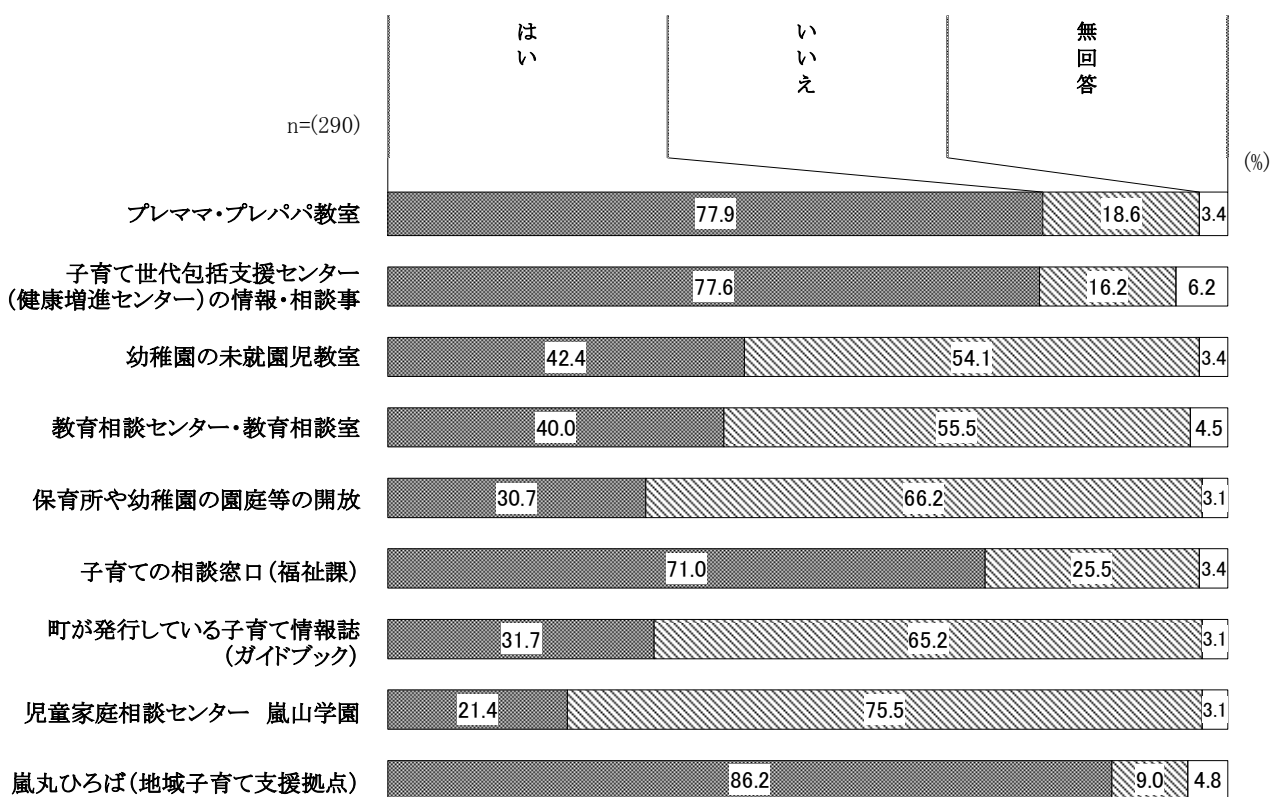


(3) 各事業の認知度、利用経験、利用意向

問19 下記の事業で知っているものや、これまでに利用したことがあるもの、今後、利用したいと思うものをお答えください。①～⑨の事業ごとに、A～Cのそれぞれについて、「はい」「いいえ」のいずれかに○をつけてください。

子育て関連事業の認知度は、「嵐山ひろば（地域子育て支援拠点）」が86.2%で最も高く、次いで「プレママ・プレパパ教室」（77.9%）、「子育て世代包括支援センター（健康増進センター）の情報・相談事」（77.6%）、「子育て相談窓口（福祉課）」（71.0%）が7割台で続いています。

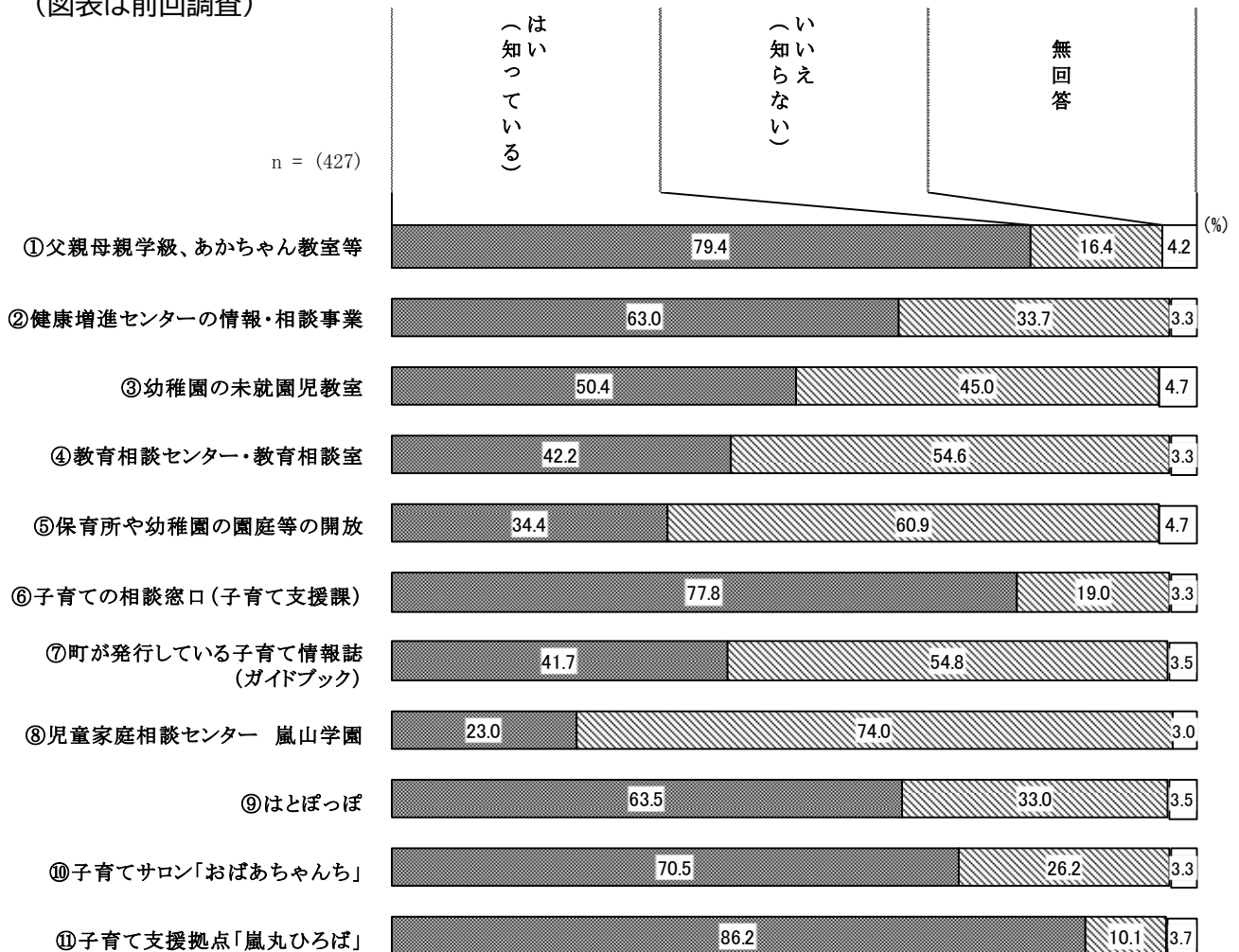
A【認知度】



A【認知度の前回調査との比較】

子育て関連事業の認知度を前回調査と比べてみると、ほとんどの事業で認知度が同様、または下降していますが、「子育て世代包括支援センター（健康増進センター）の情報・相談事」（63.0%→77.6%）が唯一14.6ポイント上昇しています。

（図表は前回調査）

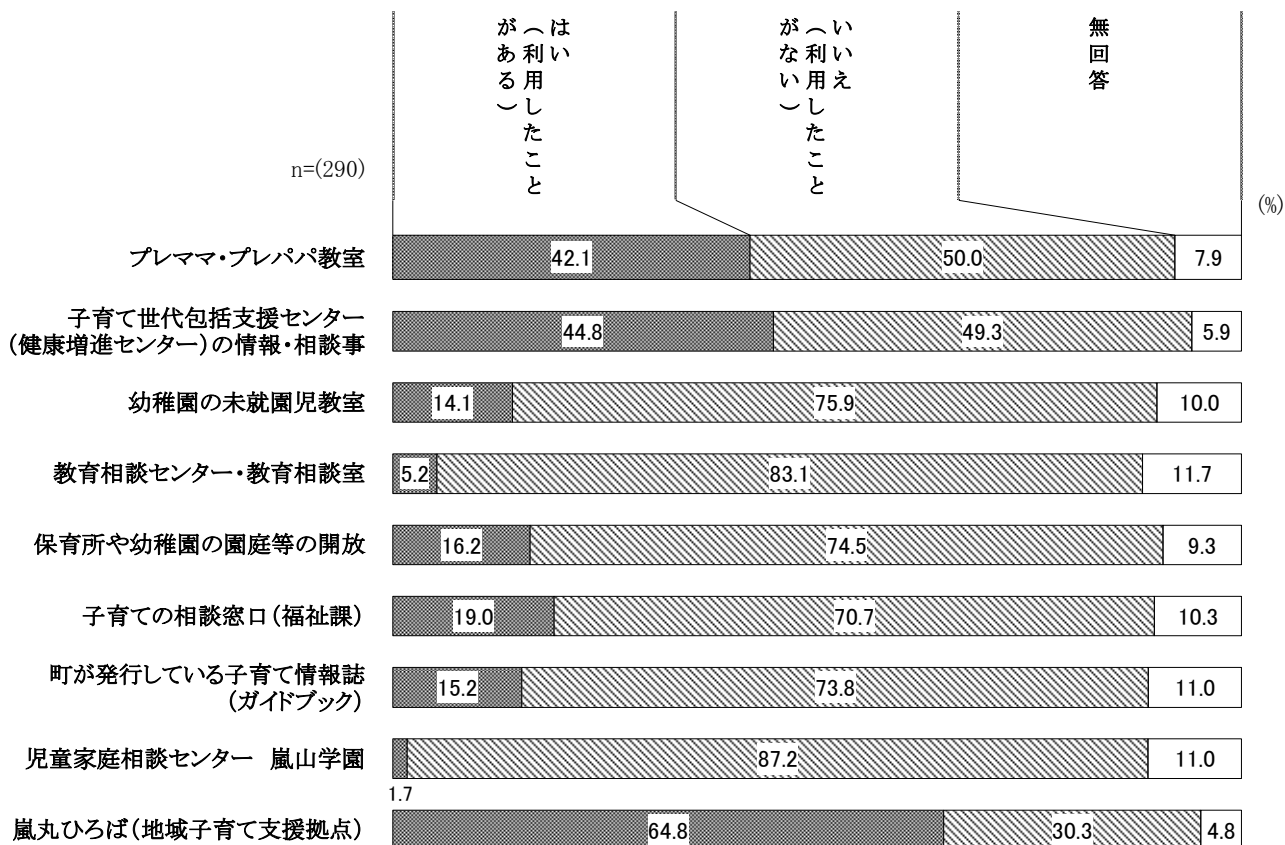


※下記の事業については、前回調査時から事業名称や所管課が下記のとおり変更になっています。

前回調査時（平成30年度）	今回調査
①父親母親学級、あかちゃん教室等	①プレママ・プレパパ教室
②健康増進センターの情報・相談事業	②子育て世代包括支援センター（健康増進センター）の情報・相談事業
⑥子育ての相談窓口（子育て支援課）	⑥子育ての相談窓口（福祉課）
⑪子育て支援拠点「嵐丸ひろば」	⑨嵐丸ひろば（地域子育て支援拠点）

B【利用経験】

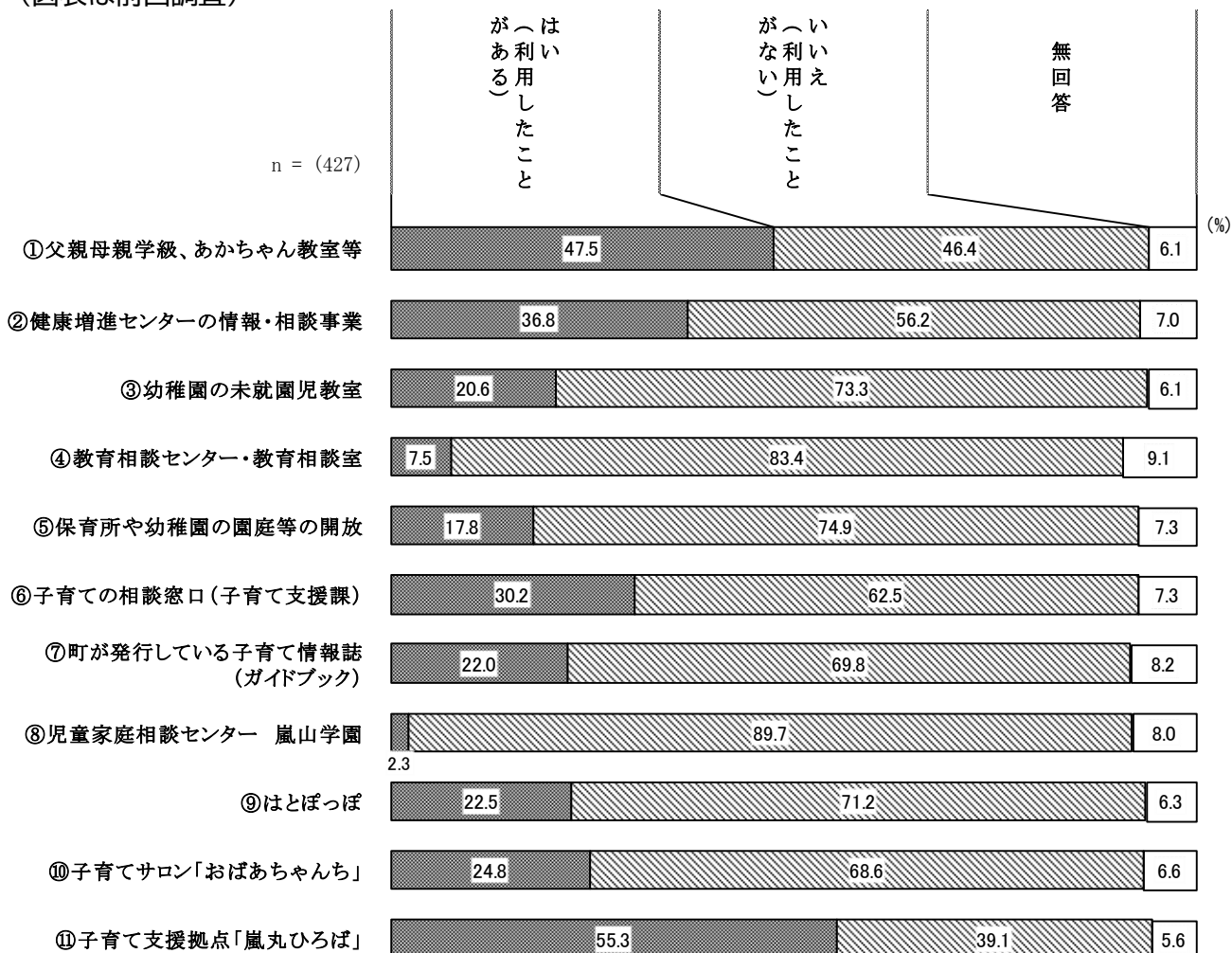
子育て支援事業の利用経験は、「嵐山ひろば（地域子育て支援拠点）」が64.8%で最も高く、次いで「子育て世代包括支援センター（健康増進センター）の情報・相談事」（44.8%）、「プレママ・プレパパ教室」（42.1%）が4割台が続いています。



B 【利用経験の前回調査との比較】

子育て関連事業の利用経験を前回調査と比べてみると、多くの事業で利用経験度が下降していますが、「嵐山ひろば（地域子育て支援拠点）」（55.3%→64.8%）が9.5ポイント、「子育て世代包括支援センター（健康増進センター）の情報・相談事」（63.0%→77.6%）が8.0ポイントそれぞれ上昇しています。

（図表は前回調査）

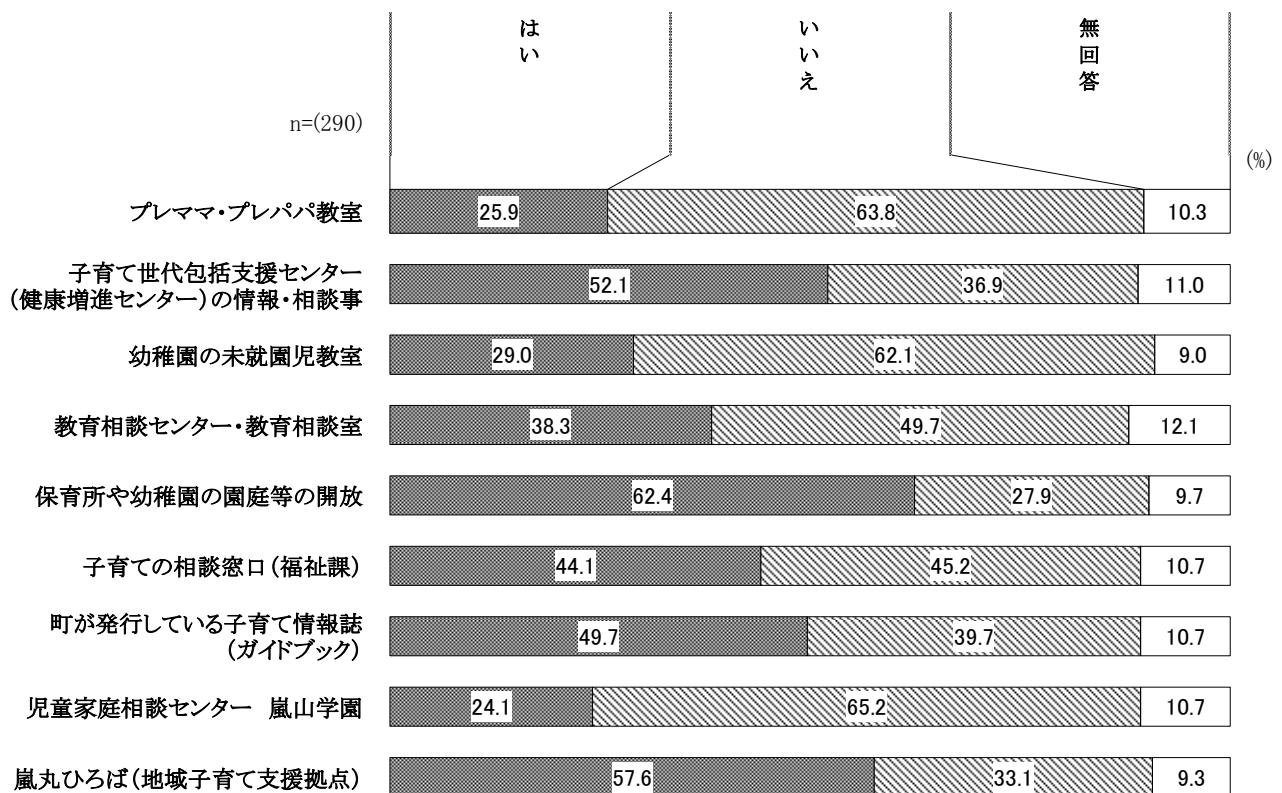


※下記の事業については、前回調査時から事業名称や所管課が下記のとおり変更になっています。

前回調査時（平成30年度）	今回調査
①父親母親学級、あかちゃん教室等	①プレママ・プレパパ教室
②健康増進センターの情報・相談事業	②子育て世代包括支援センター（健康増進センター）の情報・相談事業
⑥子育ての相談窓口（子育て支援課）	⑥子育ての相談窓口（福祉課）
⑪子育て支援拠点「嵐丸ひろば」	⑨嵐丸ひろば（地域子育て支援拠点）

C【利用意向】

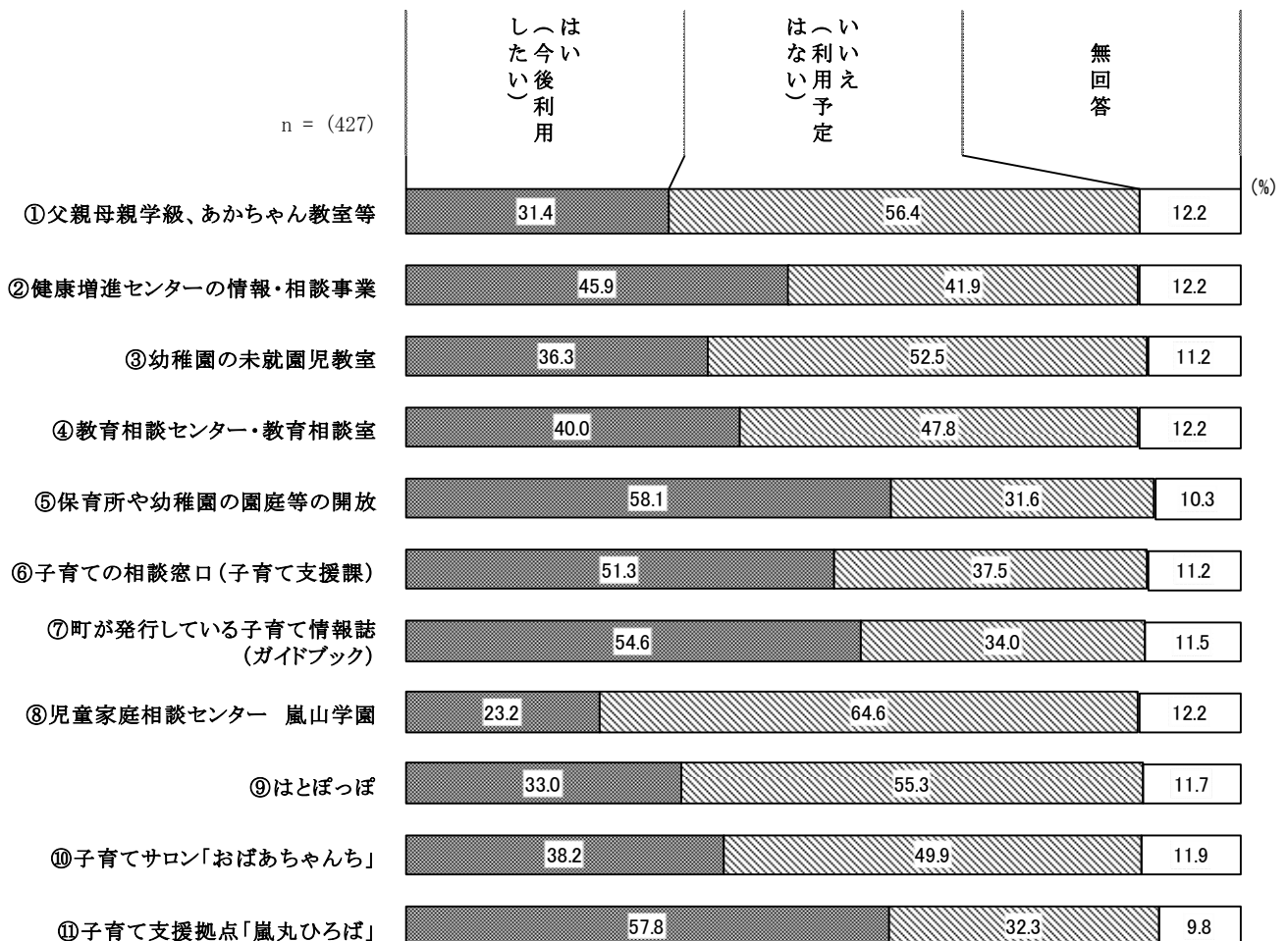
今後利用したいと思う子育て支援事業については、「保育所や幼稚園の園庭等の解放」が62.4%で最も多く、「嵐山ひろば（地域子育て支援拠点）」（57.6%）と「子育て世代包括支援センター（健康増進センター）の情報・相談事」（52.1%）が5割台で続き、「町が発行している子育て情報誌（ガイドブック）」（49.7%）と「子育ての相談窓口（福祉課）」（44.1%）が4割台となっています。



C 【利用意向の前回調査との比較】

子育て関連事業の利用意向を前回調査と比べてみると、多くの事業で利用意向度が下降していますが、「嵐山ひろば（地域子育て支援拠点）」（45.9%→52.1%）が6.2ポイント、「保育所や幼稚園の園庭等の開放」（58.1%→62.4%）が4.3ポイント、「児童家庭相談センター 嵐山学園」（23.2%→24.1%）が0.9ポイントそれぞれ上昇しています。

（図表は前回調査）



※下記の事業については、前回調査時から事業名称や所管課が下記のとおり変更になっています。

前回調査時（平成30年度）	今回調査
①父親母親学級、あかちゃん教室等	①プレママ・プレパパ教室
②健康増進センターの情報・相談事業	②子育て世代包括支援センター（健康増進センター）の情報・相談事業
⑥子育ての相談窓口（子育て支援課）	⑥子育ての相談窓口（福祉課）
⑪子育て支援拠点「嵐丸ひろば」	⑨嵐丸ひろば（地域子育て支援拠点）

7 土曜・休日や長期休暇中の定期的な教育・保育事業の利用希望について

(1) 土曜日と日曜日・祝日の定期的な教育・保育事業の利用希望

問20 宛名のお子さんについて、土曜日と日曜日・祝日に、定期的な教育・保育の事業の利用希望はありますか（一時的な利用は除きます）。希望がある場合は、利用したい時間帯を、(例)09時～18時のように24時間制でご記入ください(数字は一枠に一字)。

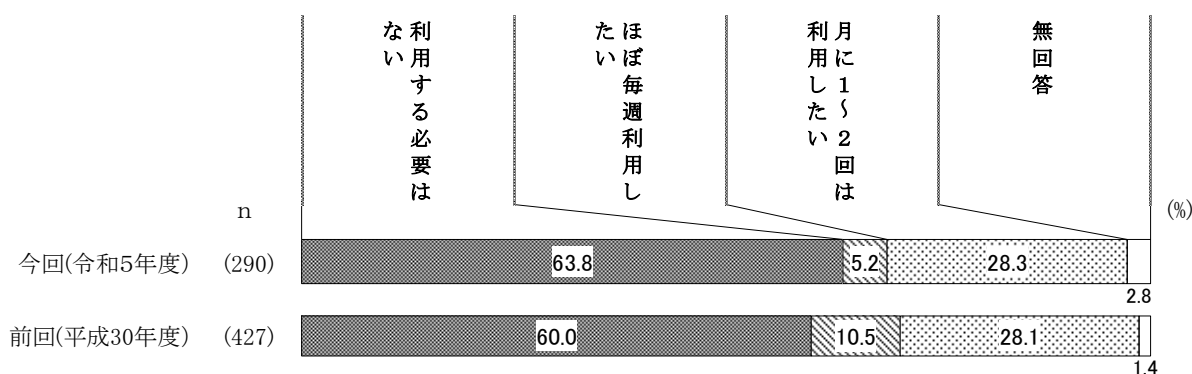
※保育・教育事業とは、幼稚園、保育所、認可外保育施設などの事業を指しますが、親族・知人による預かりは含みません。

教育・保育事業の土曜日の利用希望は、「利用する必要はない」が63.8%で最も高く、次いで「月に1～2回は利用したい」が28.3%、「ほぼ毎週利用したい」が5.2%で、《利用希望》は33.5%となっています。

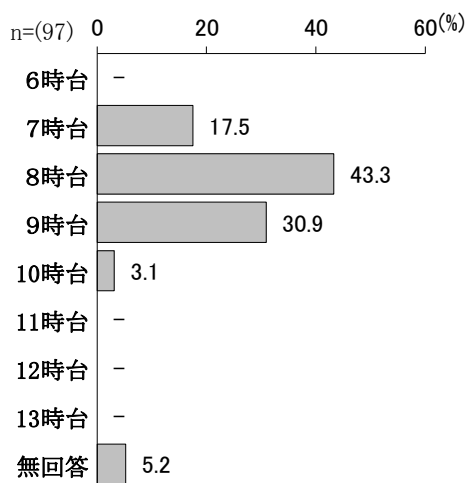
希望する利用開始時刻は、「8時台」が43.3%で最も高く、次いで「9時台」(30.9%)、「7時台」(17.5%)となっています。

希望する利用終了時刻は、「18時台」が27.8%で最も多く、次いで「17時台」(19.6%)、「12時台」(11.3%)、「13時台」(11.3%)の順となっています。

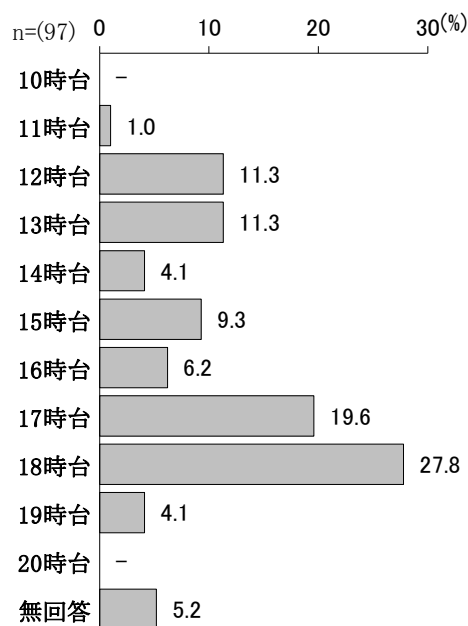
■土曜日の利用希望



【利用開始時刻】



【利用終了時刻】

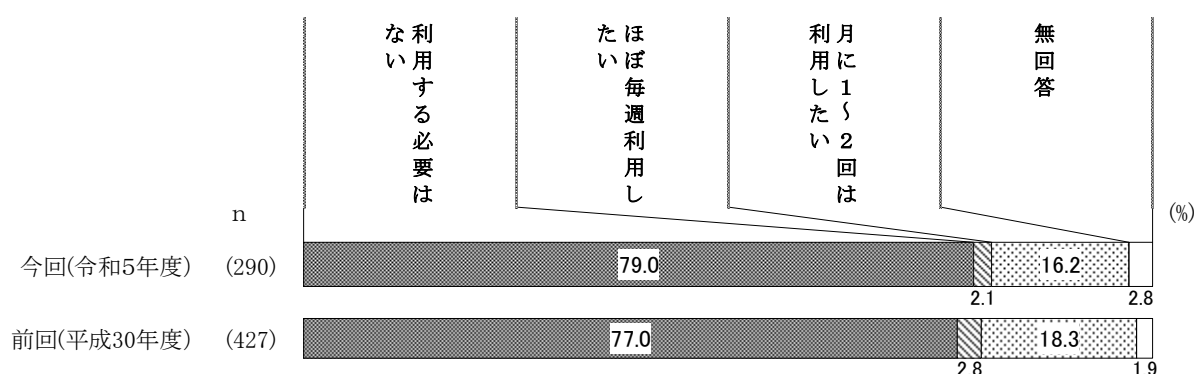


教育・保育事業の日曜・祝日の利用希望は、「利用する必要はない」が79.0%を占めています。「月に1～2回は利用したい」が16.2%、「ほぼ毎週利用したい」が2.1%で、《利用希望》は18.3%となっています。

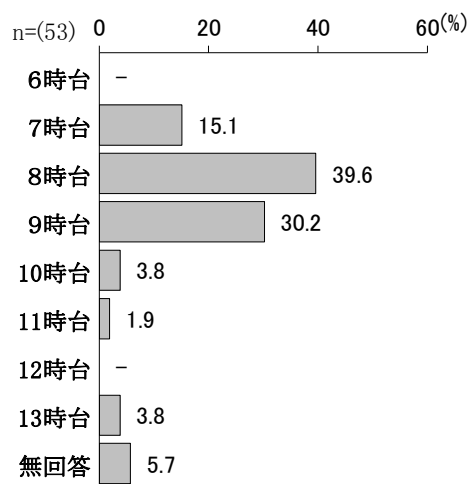
希望する利用開始時刻は、「8時台」が39.6%で最も多く、次いで「9時台」(30.2%)、「7時台」(15.1%)の順となっています。

希望する利用終了時刻は、「17時台」と「18時台」がともに24.5%で最も高く、次いで「14時台」、「15時台」、「16時台」(各9.4%)の順となっています。

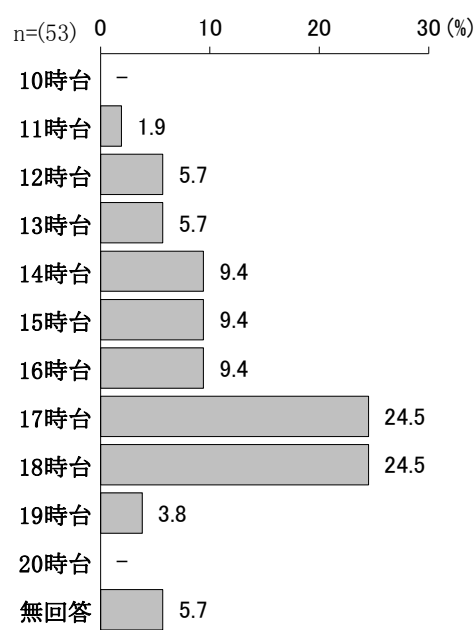
■日曜・祝日の利用希望



【利用開始時刻】



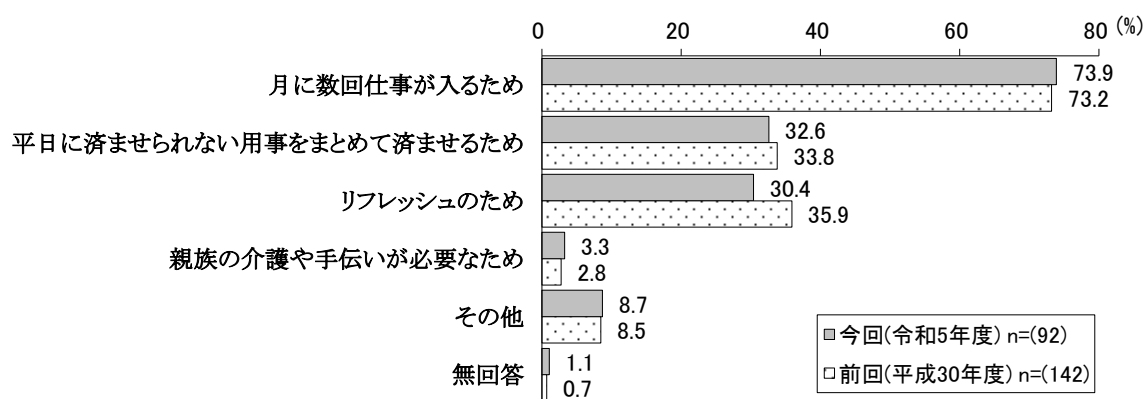
【利用終了時刻】



(2) 定期的な教育・保育事業をたまに利用したい理由

問20-1 問20の(1)もしくは(2)で、「3.月に1～2回は利用したい」に○をつけた方にかがいます。毎週ではなく、たまに利用したい理由はなんですか。当てはまる番号すべてに○をつけてください。

毎週ではなく、たまに利用したい理由は、「月に数回仕事が入るため」が73.9%で最も高く、次いで「平日に済ませられない用事をまとめて済ませるため」(32.6%)、「リフレッシュのため」(30.4%)の順となっています。



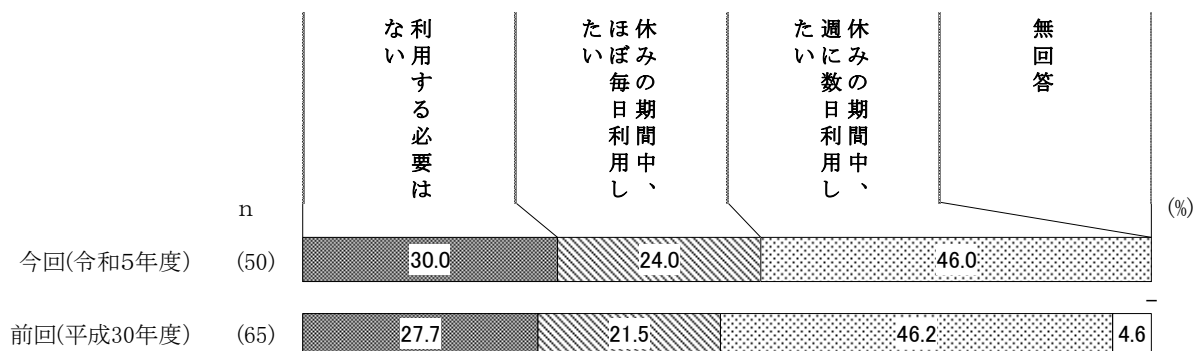
(3) 長期休暇中の教育・保育事業の利用希望

問21 「幼稚園」を利用されている方にうかがいます。宛名のお子さんについて、夏休み・冬休みなど長期の休暇期間中の教育・保育の事業の利用を希望しますか。希望がある場合は、利用したい時間帯を、(例)09時～18時(例)のように24時間制でご記入ください(数字は一桁に一字)。

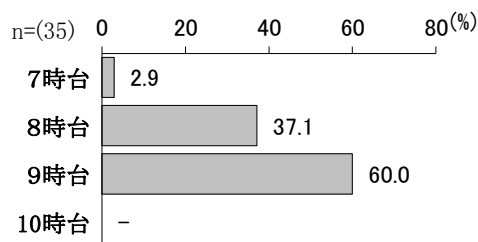
幼稚園の利用者における夏休み・冬休みなど長期休暇中の教育・保育事業の利用希望は、「休みの期間中、週に数日利用したい」が46.0%で最も高く、これに「休みの期間中、ほぼ毎日利用したい」(24.0%)を合わせた《利用を希望する》は70.0%となっています。一方、「利用する必要はない」は30.0%となっています。

希望する利用開始時刻は、「9時台」が60.0%で最も高く、次いで「8時台」(37.1%)、「7時台」(2.9%)となっています。

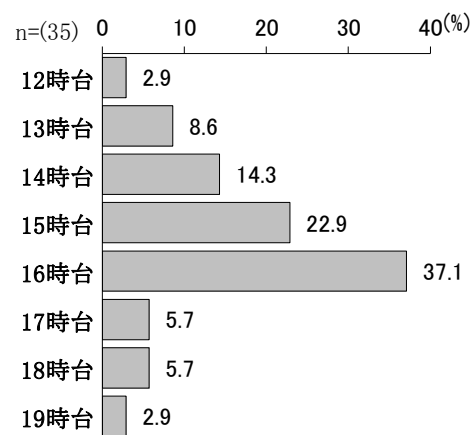
希望する利用終了時刻は、「16時台」が37.1%で最も高く、次いで「15時台」(22.9%)、「14時台」(14.3%)、「13時台」(8.6%)の順となっています。



【希望する利用開始時刻】



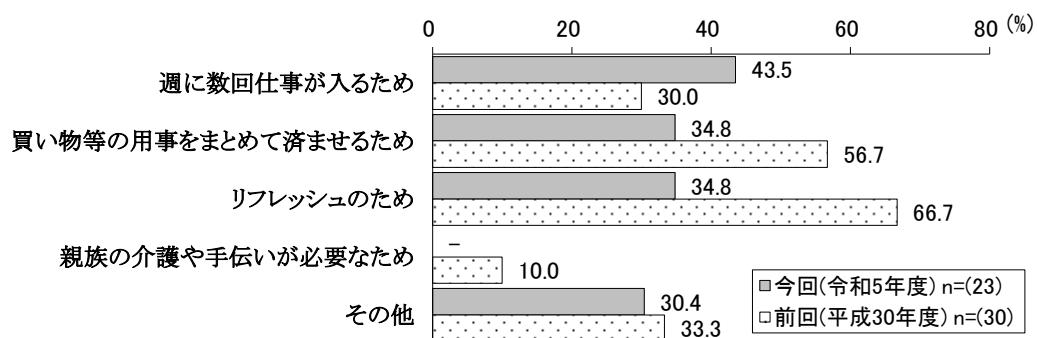
【希望する利用終了時刻】



(4) 長期休暇中の教育・保育事業をたまに利用したい理由

問21-1 問21で、「3.週に数日利用したい」に○をつけた方にうかがいます。毎日ではなく、たまに利用したい理由はなんですか。当てはまる番号すべてに○をつけてください。

土曜日や日曜・祝日の教育・保育事業を、毎週ではなくたまに利用したい理由は、「週に数回仕事が入るため」が43.5%で最も高く、次いで「買い物等の用事をまとめて済ませるため」と「リフレッシュのため」（各34.8%）となっています。



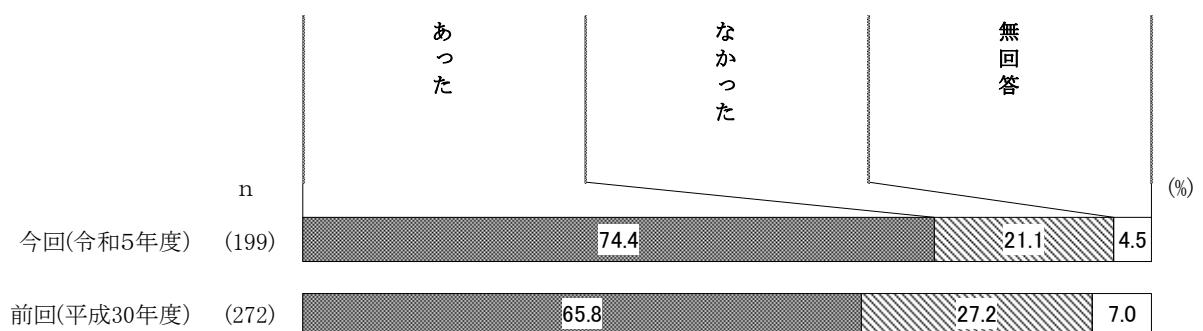
8 子どもの病気の際の対応について

(1) 病気やケガで通常の事業が利用できなかった経験

問22 平日の定期的な教育・保育の事業を利用していると答えた保護者の方（問15で1に○をつけた方）にうかがいます。利用していらない方は、問23にお進みください。

この1年間に、宛名のお子さんが病気やケガで通常の事業が利用できなかったことはありますか。

この1年間に病気やケガで通常の事業が利用できなかったことが「あった」人は74.4%で、「なかった」の21.1%を大きく上回っています。



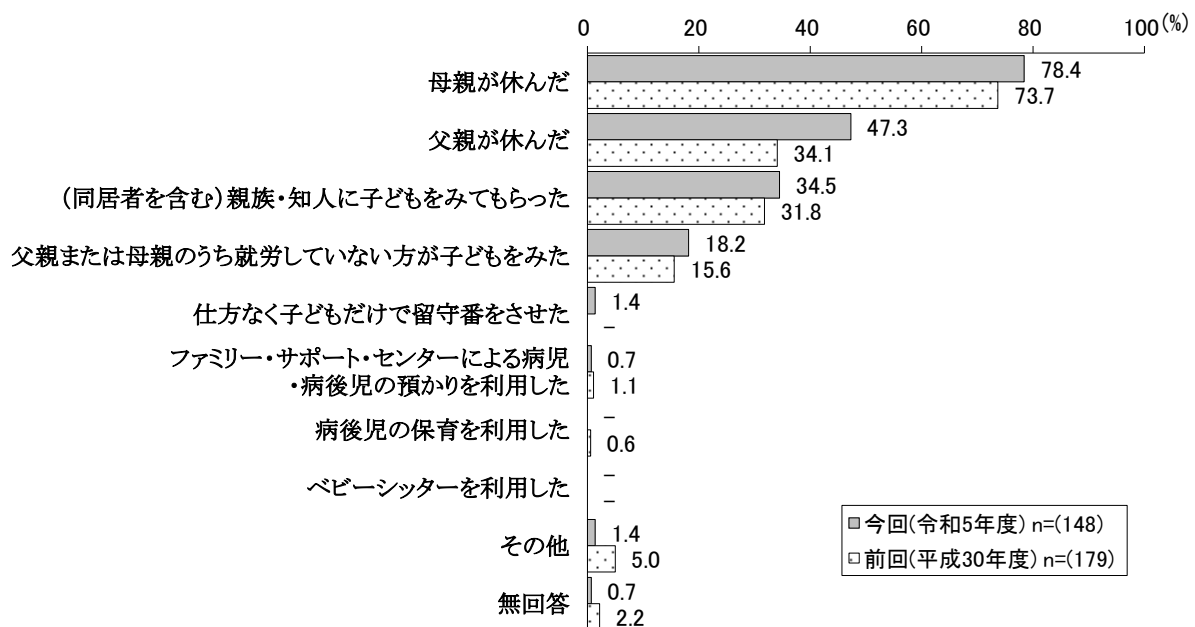
(2) 病気やケガで事業が利用できなかった場合の対処方法

問22-1 宛名のお子さんが病気やけがで普段利用している教育・保育の事業が利用できなかった場合に、この1年間に行った対処方法として当てはまる記号すべてに○をつけ、それぞれの日数も□内に数字でご記入ください（半日程度の対応の場合も1日とカウントしてください。数字は一枠に一字）。

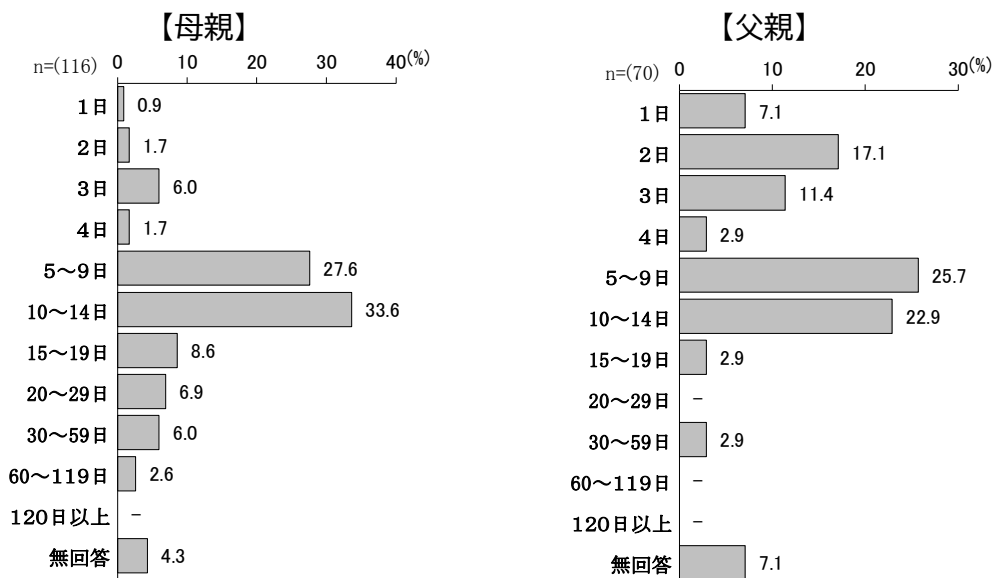
この1年間に病気やケガで事業が利用できなかった場合の対処方法は、「母親が休んだ」が78.4%で最も高く、次いで「父親が休んだ」(47.3%)、「(同居者を含む)親族・知人に子どもをみてもらった」(34.5%)、「父親または母親のうち就労していない方が子どもをみた」(18.2%)などとなっています。

父親が休んだ日数は、「5～9日」が25.7%で最も高く、「10～14日」が22.9%、「2日」が22.9%となっています。

母親が休んだ日数は、「10～14日」が33.6%で最も高く、「5～9日」が27.6%となっています。

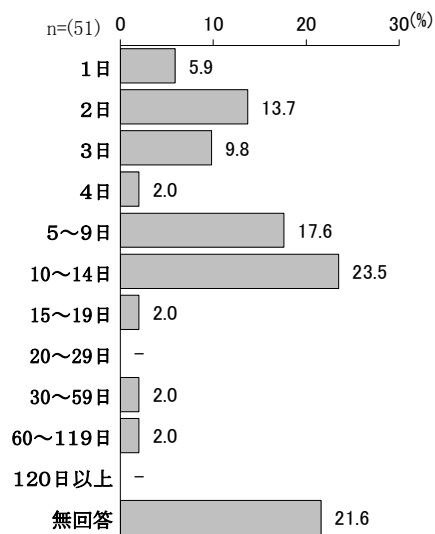


■この1年間に休んだ日数



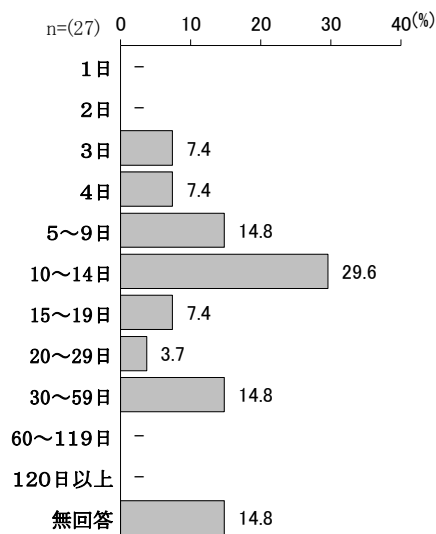
■この1年間の対処日数

【親族・知人】

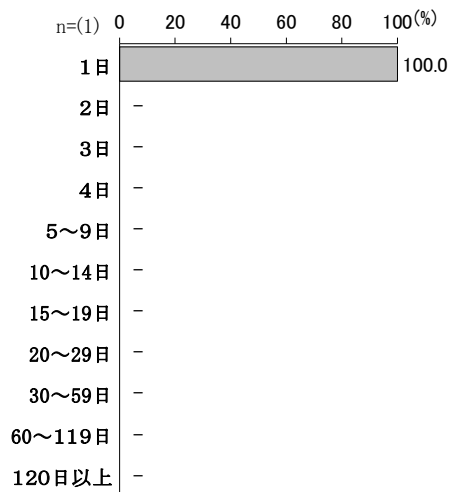


【就労していない方の保護者

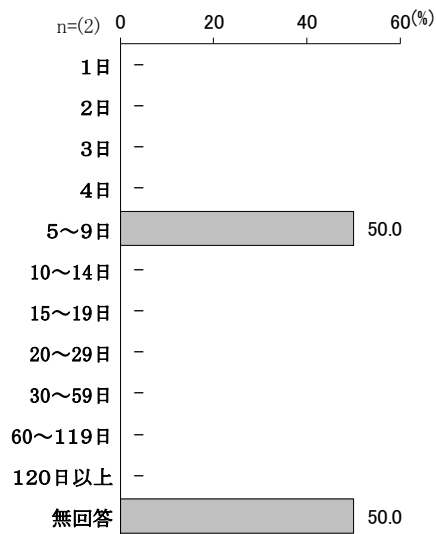
(父親または母親)】



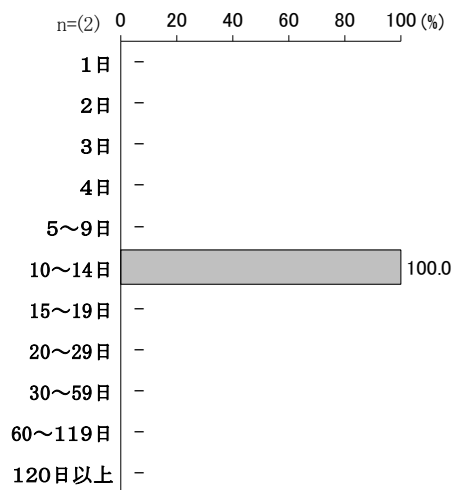
【ファミリー・サポート・センター】



【子どもだけで留守番】



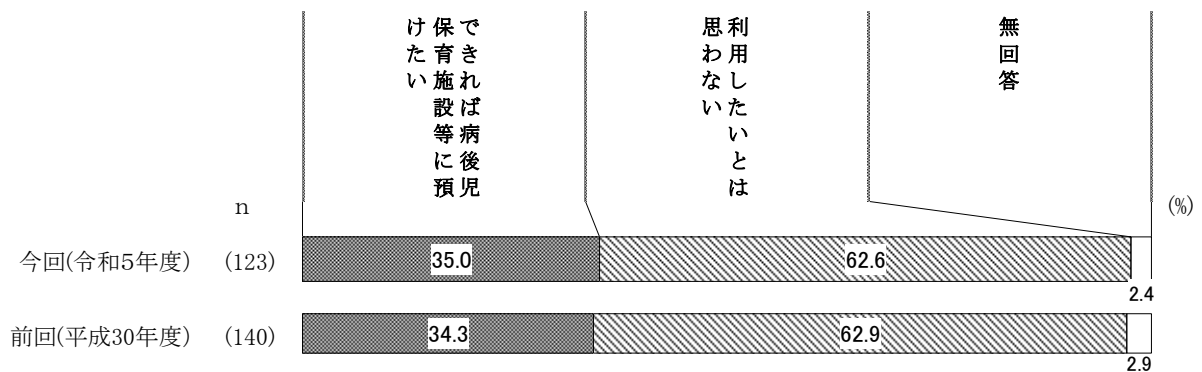
【その他】



(3) 父親・母親が休んだ際に病後児のための保育施設等を利用したいと思ったか

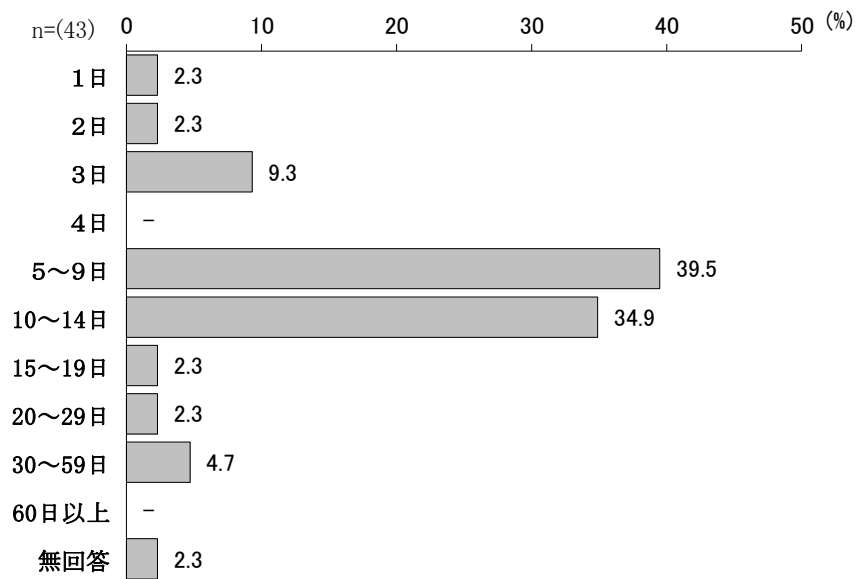
問22-2 その際、「できれば病後児のための保育施設等を利用したい」と思われましたか。当
てはまる番号1つに○をつけ、日数についても□内に数字でご記入ください(数字は一
枠に一字)。なお、病後児のための事業等の利用には、一定の利用料がかかり、利用前
にかかりつけ医の受診が必要となります。

父親または母親が休んだと回答した人に、できれば病後児のための保育施設等を利用したいと
思ったかをたずねたところ、「利用したいとは思わない」が62.6%で、「できれば病後児保育施設
等に預けたい」(35.0%)を上回っています。



【利用希望日数】

その際の利用希望日数は、「5～9日」が39.5%で最も高く、次いで「10～14日」(34.9%)、「3日」(9.3%)などとなっています。



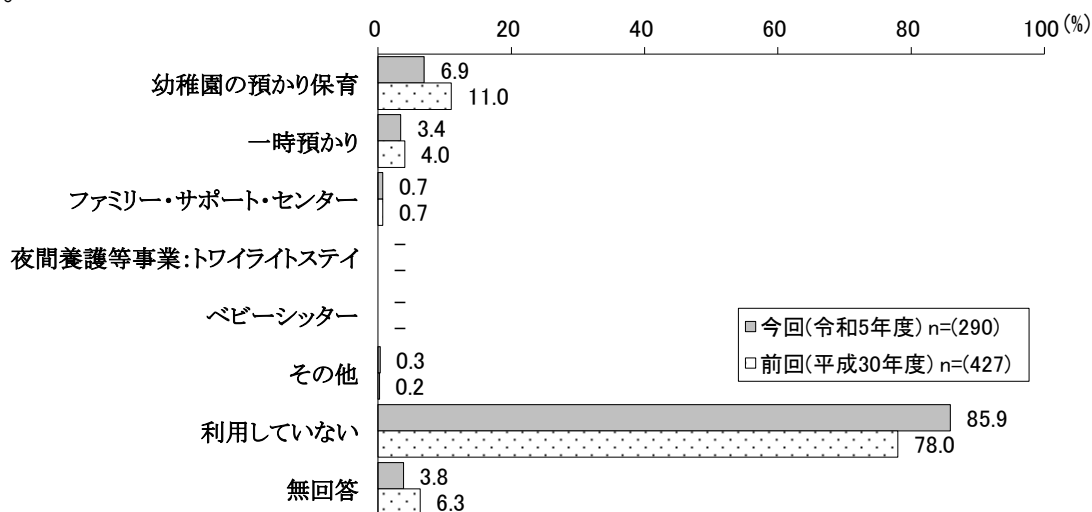
9 不特定の教育・保育事業や宿泊を伴う一時預かり等の利用について

(1) 不特定の教育・保育事業の利用状況

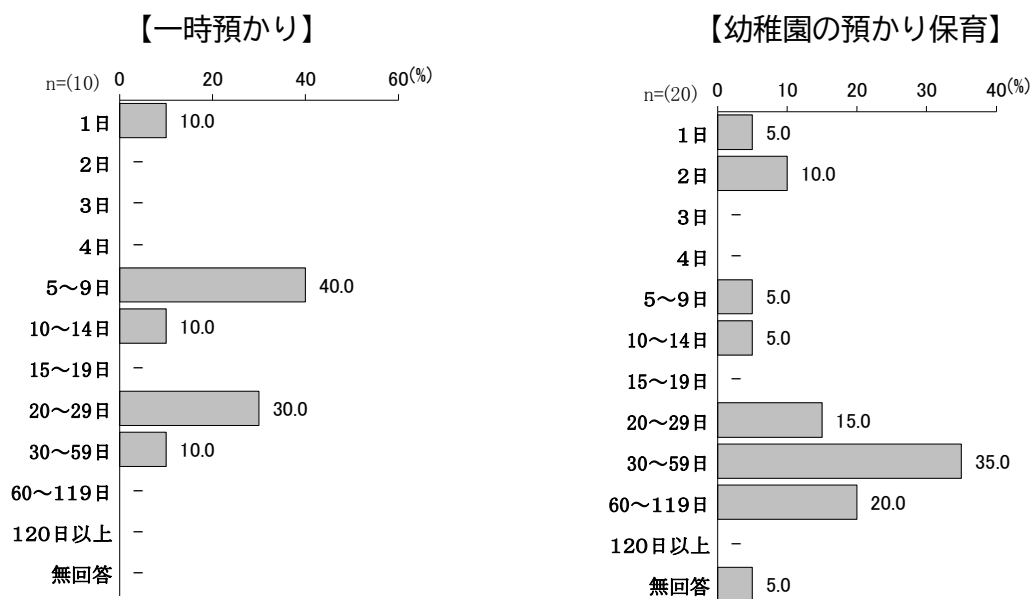
問23 宛名のお子さんについて、日中の定期的な保育や病気のため以外に、私用、親の通院、不特定の就労等の目的で不定期に利用している事業はありますか。ある場合は、当てはまる番号すべてに○をつけ、1年間の利用日数（おおよそ）も□内に数字でご記入ください（数字は一桁に一字）。

不特定の一時預かり等の利用状況は、「利用していない」が85.9%で、「利用している」が10.3%となっています。

利用している事業では、「幼稚園の預かり保育」が6.9%、「一時預かり」が3.4%などとなっています。



■ 1年間の利用日数



【ファミリー・サポート・センター】回答2件:「1日」「10～14日」各1件

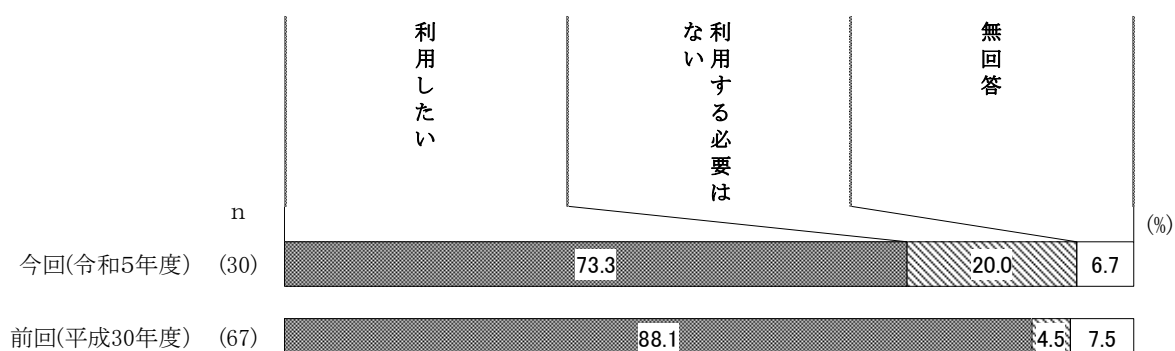
【その他】回答1件:「60～119日」1件

【トワイライトステイ、ベビーシッター】回答なし

(2) 一時預かり等の事業の利用希望と利用目的

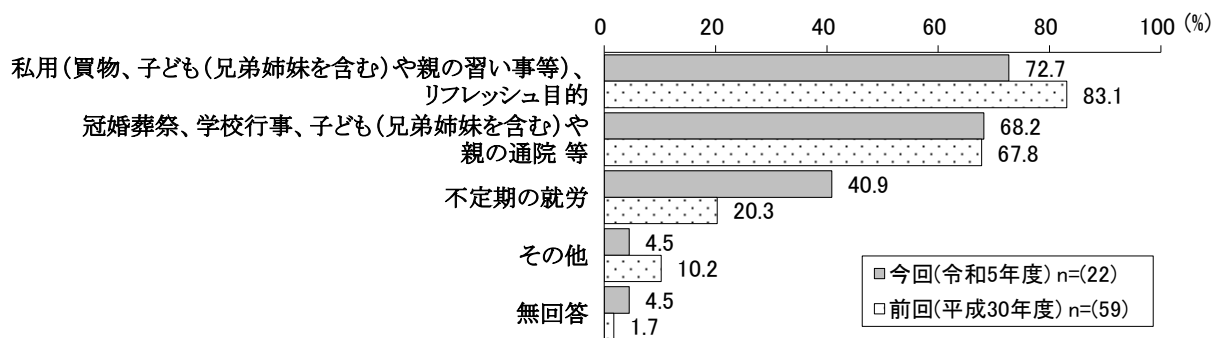
問24 宛名のお子さんについて、私用、親の通院、不定期の就労等の目的で、年間何日くらい一時預かり等の事業を利用する必要があると思いますか。利用希望の有無について当てはまる番号・記号すべてに○をつけ、必要な日数をご記入ください（利用したい日数の合計と、目的別の内訳の日数を口内に数字でご記入ください。数字は一桁一字。）

私用、親の通院、不定期の就労等の目的で一時預かり等事業の利用希望については、「利用したい」が73.3%で、「利用する必要はない」（20.0%）を大きく上回っています。



【一時預かりの利用目的】

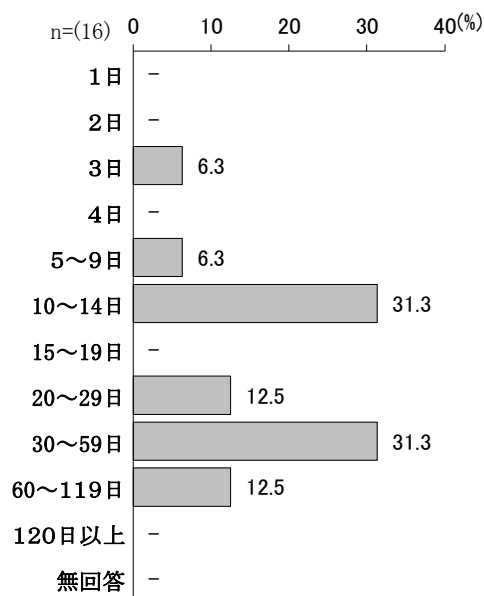
利用したい人の利用目的としては、「私用（買物、子ども（兄弟姉妹を含む）や親の習い事等）、リフレッシュ目的」が72.7%で最も高く、次いで「冠婚葬祭、学校行事、子ども（兄弟姉妹を含む）や親の通院等」（68.2%）、「不定期の就労」（40.9%）などとなっています。



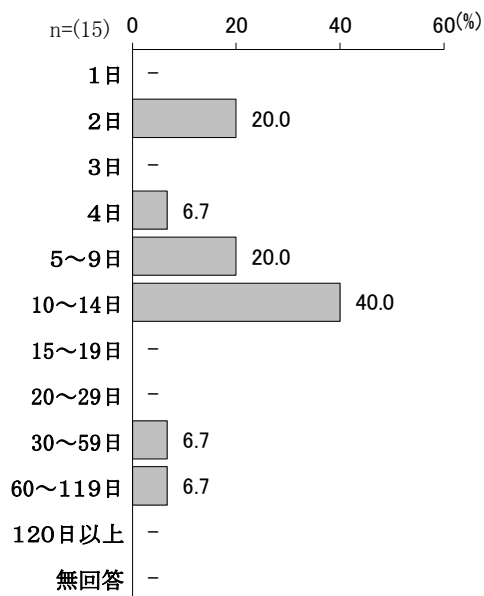
■ 1年間の利用希望日数

各利用目的の回答数が少数のため、参考として図示にとどめています。

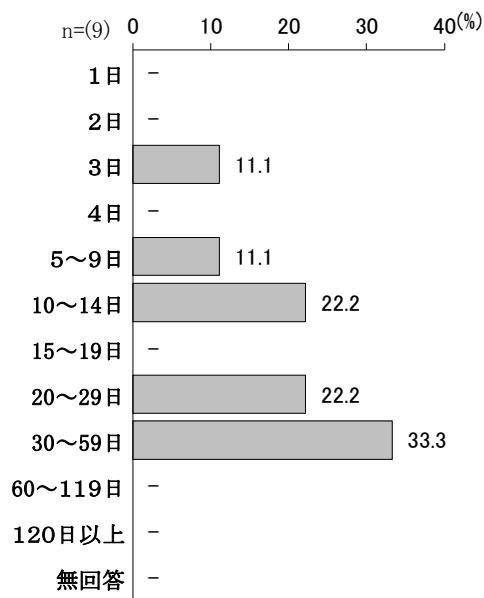
【私用、リフレッシュ目的】



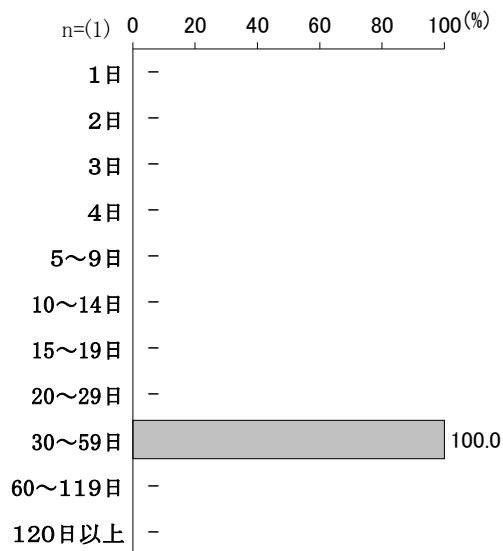
【冠婚葬祭、学校行事、子どもや親の通院等】



【不定期の就労】



【その他】



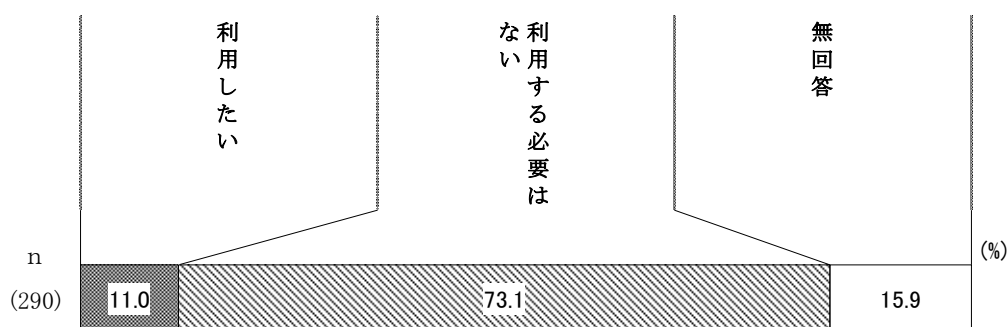
(3) 子どもを泊りがけで家族以外に預ける必要性

問25 宛名のお子さんについて、保護者の用事（冠婚葬祭、保護者・家族（兄弟姉妹含む）の育児疲れや育児不安、病気など）により、泊りがけで年間何日ぐらい家族以外に預ける必要があると思いますか。

短期入所生活援助事業（ショートステイ）（児童養護施設等で一定期間、子どもを保護する事業）の利用希望の有無について当てはまる番号・記号すべてに○をつけ、必要な泊数をご記入ください（利用したい泊数の合計と、目的別の内訳の泊数を口内に数字でご記入ください。数字は一桁に一字。）。

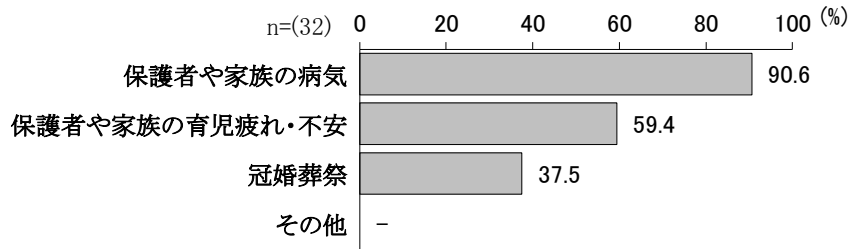
なお、事業の利用に当たっては、一定の利用料がかかります。

保護者の用事（冠婚葬祭、保護者・家族の病気など）により、家族以外に泊りがけで預ける必要がある場合の、短期入所生活援助事業の利用希望は、「利用したい」は11.0%で、「利用する必要はない」が73.1%となっています。



【利用目的（理由）】

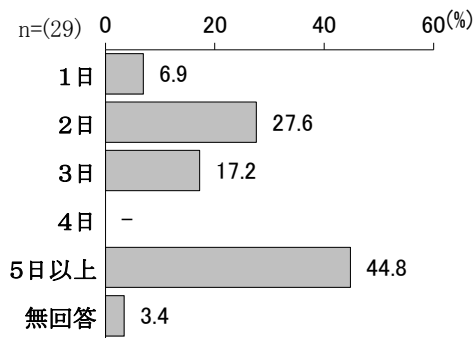
子どもを泊りがけで家族以外に預ける際の利用目的（理由）は、「保護者や家族の病気」が90.6%で最も高く、次いで「保護者や家族の育児疲れ・不安」（59.4%）、「冠婚葬祭」（37.5%）となっています。



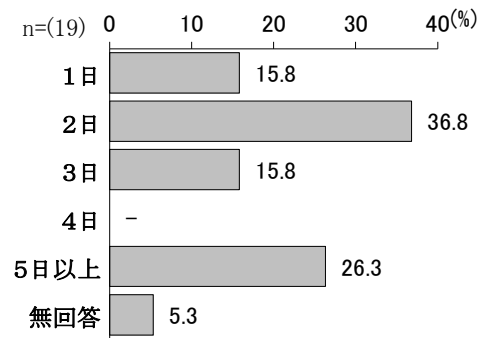
■利用希望泊数

保護者や家族の病気が理由で、子どもを泊りがけで家族以外に預ける際の利用希望泊数は、「5日以上」が44.8%で最も高く、「2日」（27.6%）、「3日」（17.2%）、「1日」（6.9%）を合わせた《3日以内》が51.7%となっています。

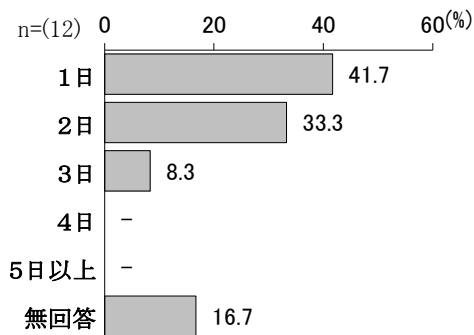
【保護者や家族の病気】



【保護者や家族の育児疲れ・不安】



【冠婚葬祭】



10 小学校就学後の放課後の過ごし方について

(1) 小学校低学年（１～３年生）のうちの放課後を過ごさせたい場所

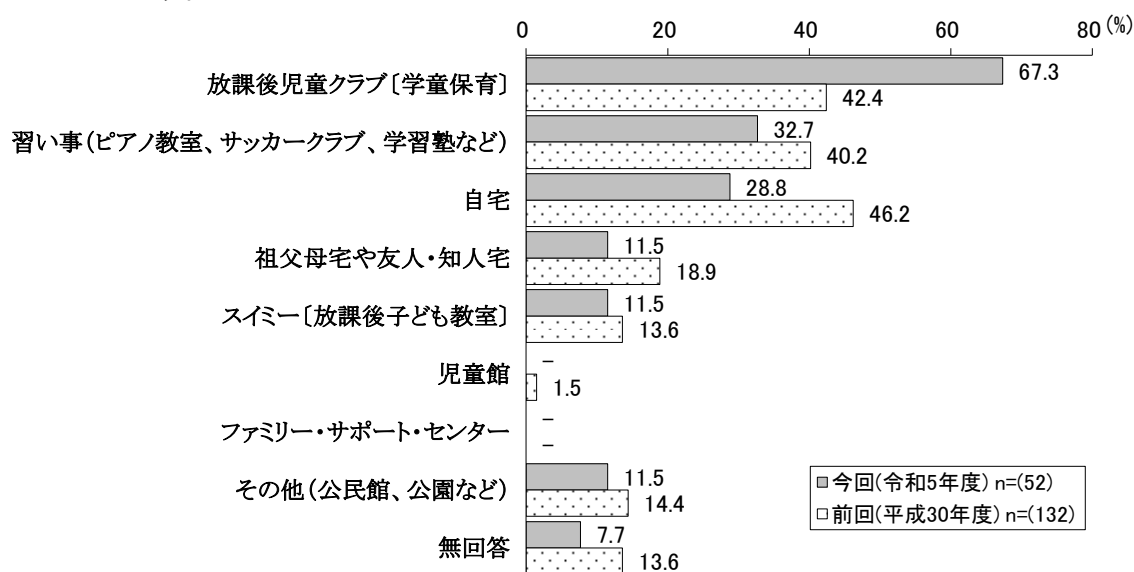
問 26 宛名のお子さんについて、小学校低学年（１～３年生）のうちは、放課後（平日の小学校終了後）の時間をどのような場所で過ごさせたいと思いますか。当てはまる番号すべてに○をつけ、それぞれ希望する週あたり日数を数字でご記入ください。また、「放課後児童クラブ」の場合には、利用を希望する時間も□内に数字でご記入ください。時間は必ず（例）１８時 のように２４時間制でご記入ください。

（数字は一枠に一字）。

「放課後児童クラブ」…地域によって学童保育などと呼ばれています。保護者が就労等により昼間家庭にいない場合などに、指導員の下、子どもの生活の場を提供するものです。〔平均利用料（月額）：１１、０００円程度〕

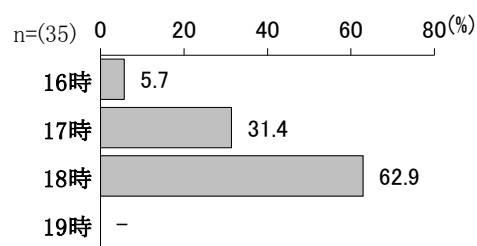
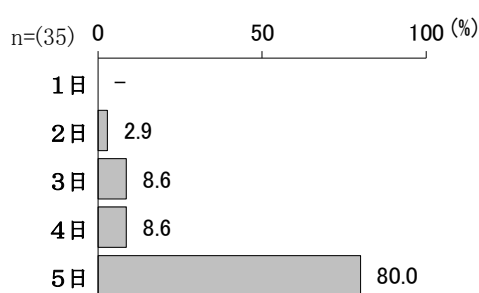
「放課後子ども教室」…地域の方々の協力を得て、放課後や週末に小学校や公民館で学習・スポーツ・文化芸術活動などを体験する取組です。保護者の就労の有無に関わらず、すべての小学生が利用できます。

小学校低学年のうちの放課後を過ごさせたい場所は、「放課後児童クラブ〔学童保育〕」が67.3%で最も高く、次いで「習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など）」（32.7%）、「自宅」（28.8%）、「祖父母宅や友人・知人宅」と「スイミー〔放課後子ども教室〕」（各11.5%）などとなっています。

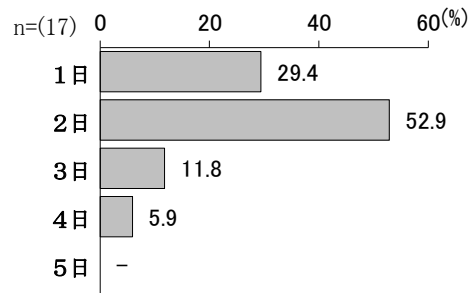


■場所別の希望日数（週間）

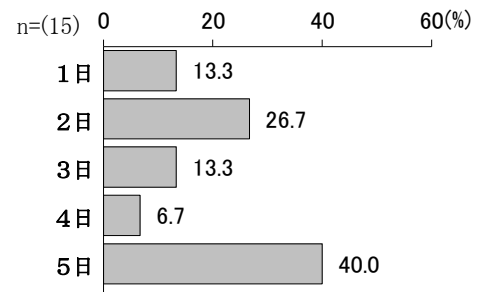
【放課後児童クラブ／週間日数】 → 【放課後児童クラブ／退所時間】



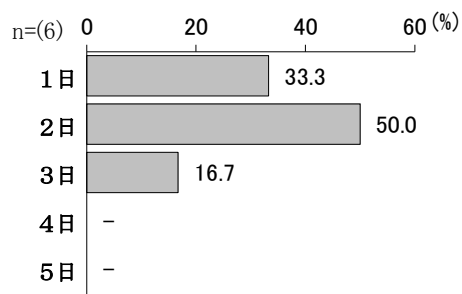
【習い事】



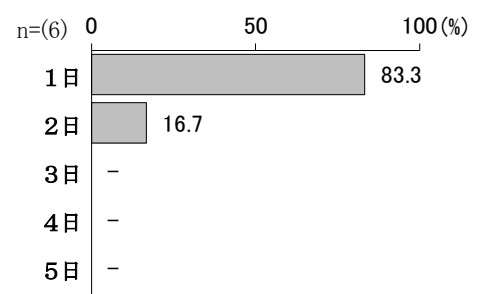
【自宅】



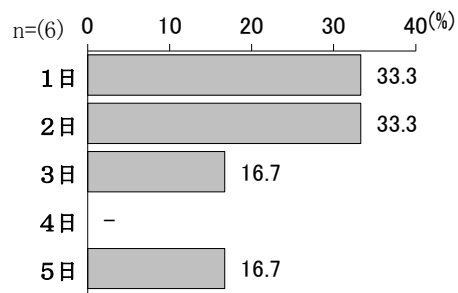
【祖父母宅や友人・知人宅】



【スイミー（放課後子ども教室）】



【その他】

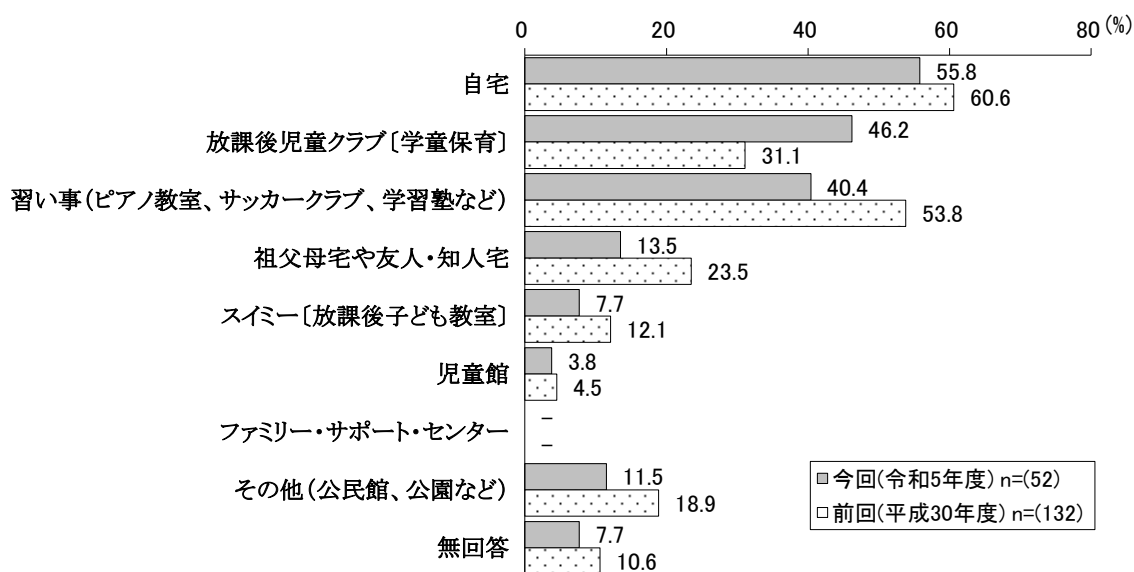


(2) 小学校高学年時の放課後を過ごさせたい場所

問27 宛名のお子さんについて、小学校高学年（4～6年生）になったら、放課後（平日の小学校終了後）の時間をどのような場所で過ごさせたいと思いますか。当てはまる番号すべてに○をつけ、それぞれの週あたり日数を数字でご記入ください。また、「放課後児童クラブ」の場合には利用を希望する時間も□内数字でご記入ください。時間は、必ず（例）18時のように24時間制でご記入ください。（数字は一桁に一字）。

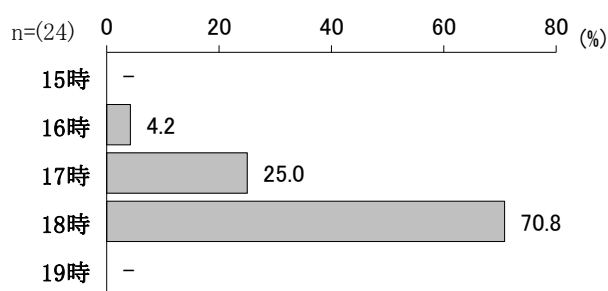
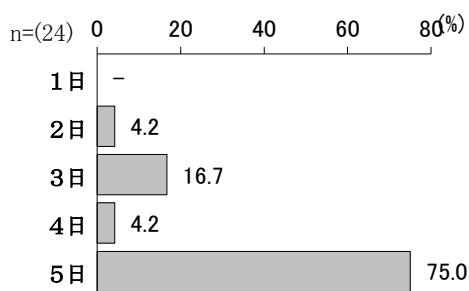
※先のことになりますが、現在お持ちのイメージでお答えください。

小学校高学年になったら放課後を過ごさせたい場所は、「自宅」が55.8%で最も高く、次いで「放課後児童クラブ〔学童保育〕」（46.2%）、「習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など）」（40.4%）、「祖父母宅や友人・知人宅」（13.5%）などとなっています。

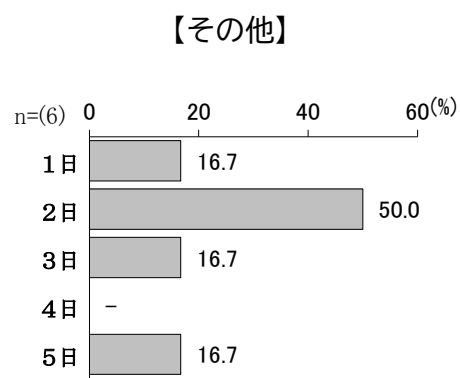
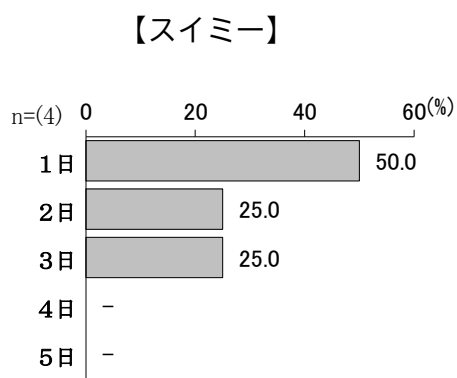
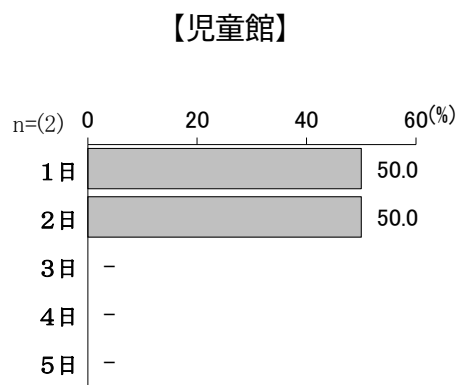
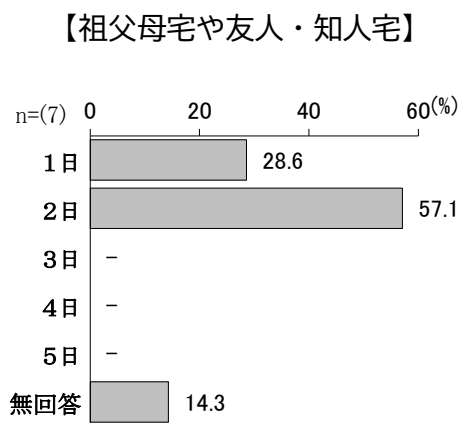
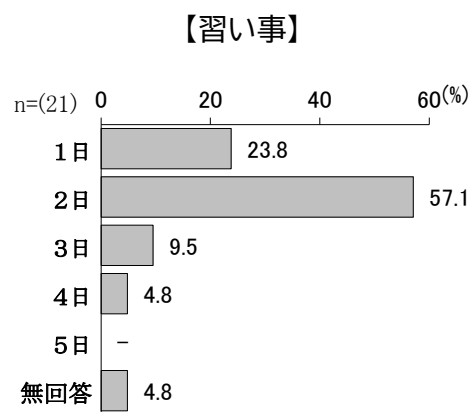
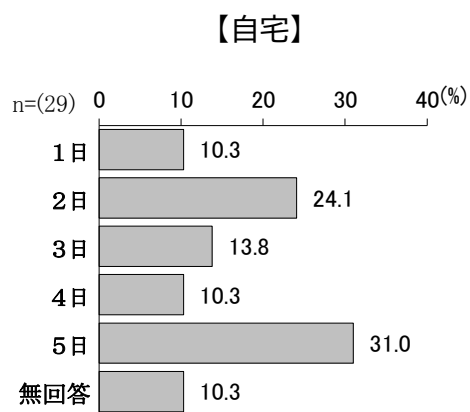


■場所別の希望日数（週間）

【放課後児童クラブ／週間日数】 → 【放課後児童クラブ／退所時間】



■場所別の希望日数（週間）



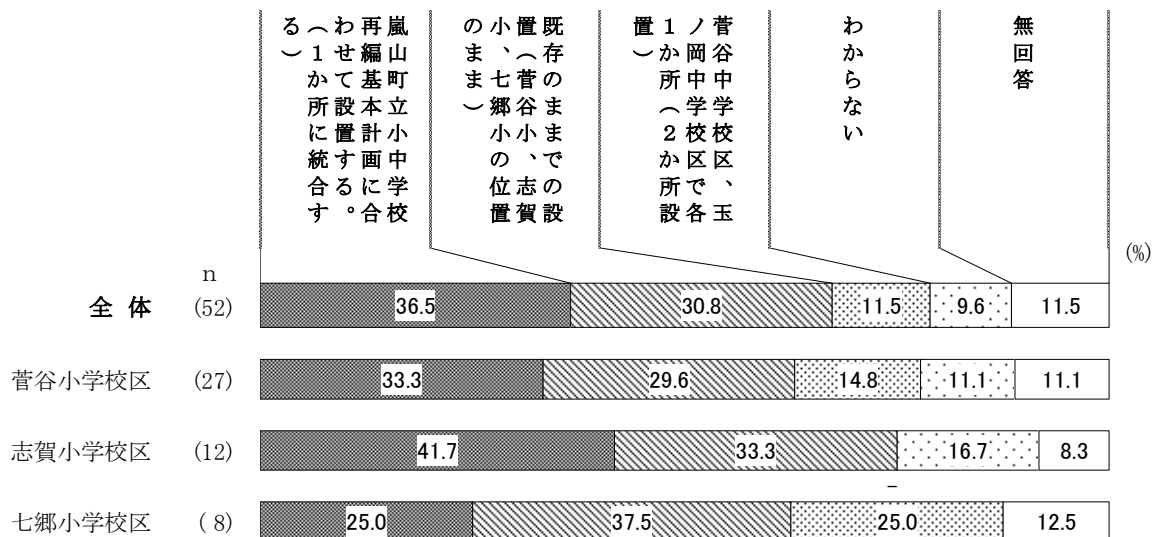
(3) 町立小中学校再編後の放課後児童クラブの設置に対する希望

問28 嵐山町立小中学校再編基本計画により、今後「放課後児童クラブ」においても再編が検討されるところです。宛名のお子さんが「放課後児童クラブ」を利用する場合、どのような設置が良いと思いますか。

※新築・改築等は考慮せず、単に設置場所のみでご回答ください。

町立小中学校再編後の放課後児童クラブの設置に対する希望は、「嵐山町立小中学校再編基本計画に合わせて設置する。(1か所に統合する)」が36.5%で最も高く、「既存のままで設置(菅谷小、志賀小、七郷小の位置のまま)」(30.8%)、「菅谷中学校区、玉ノ岡中学校区で各1か所(2か所設置)」(11.5%)、「わからない」(9.6%)の順となっています。

小学校区別に見ると、3小学校区のうち2小学校区でサンプル数が少ないため、参考として図表を掲載するにとどめます。



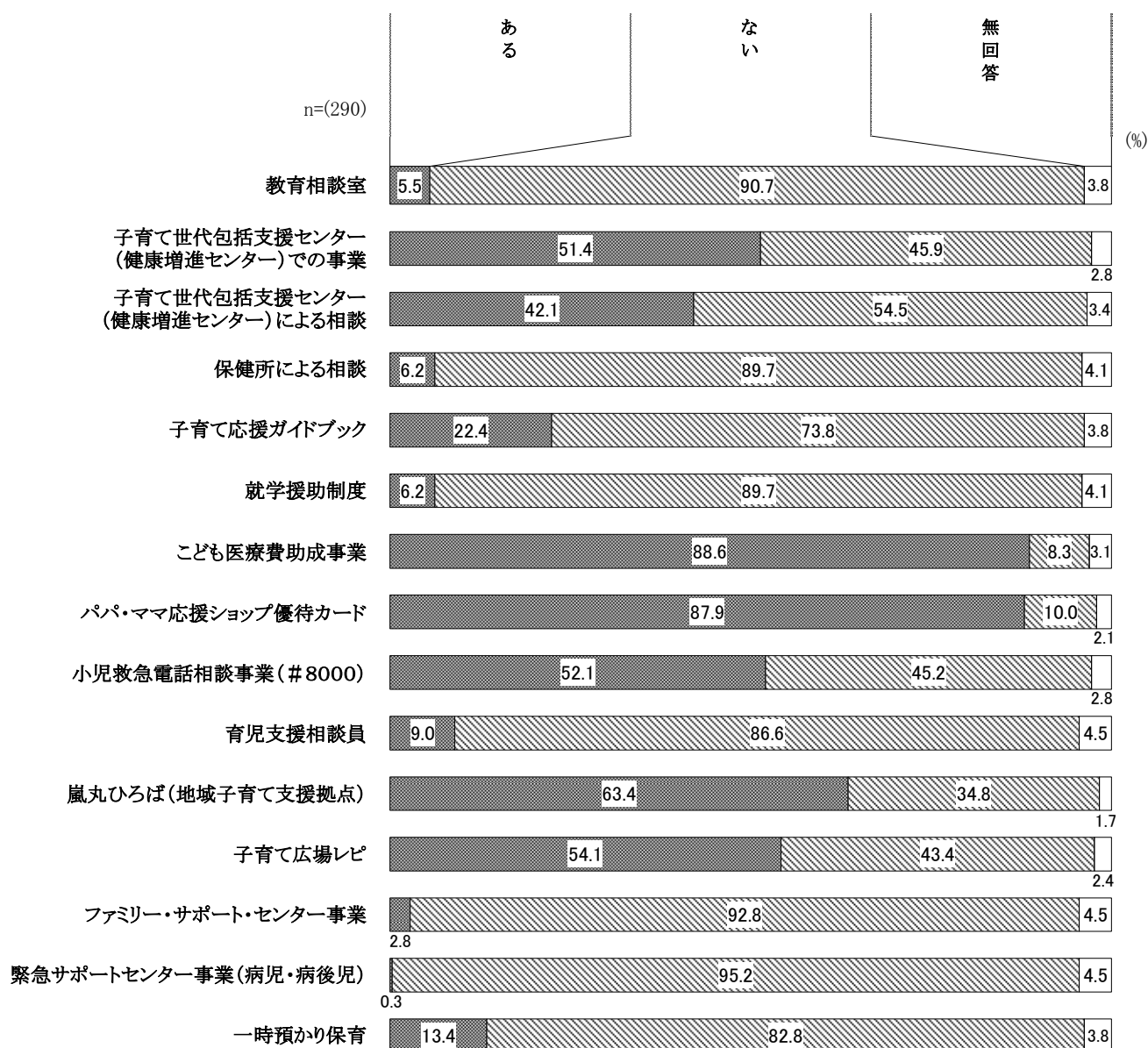
11 子ども・子育て全般について

(1) 町・県の各サービスの利用状況、満足度

問29 嵐山町・埼玉県の下記のサービスを利用したことがありますか。「A. 利用状況」で「①ある」と回答した方は、「B. 満足度」の利用したことがあるサービスについて、当てはまる番号1つに○をつけてください。

嵐山町・埼玉県のサービスの利用については、「こども医療費助成事業」が88.6%で最も高く、僅差で「パパ・ママ応援ショップ優待カード」(87.9%)となっています。以下、「嵐丸ひろば(地域子育て支援拠点)」(63.4%)、「子育て広場レピ」(54.1%)、「小児救急電話相談事業(＃8000)」(52.1%)、「子育て世代包括支援センター(健康増進センター)での事業」(51.4%)が5割以上で続いています。

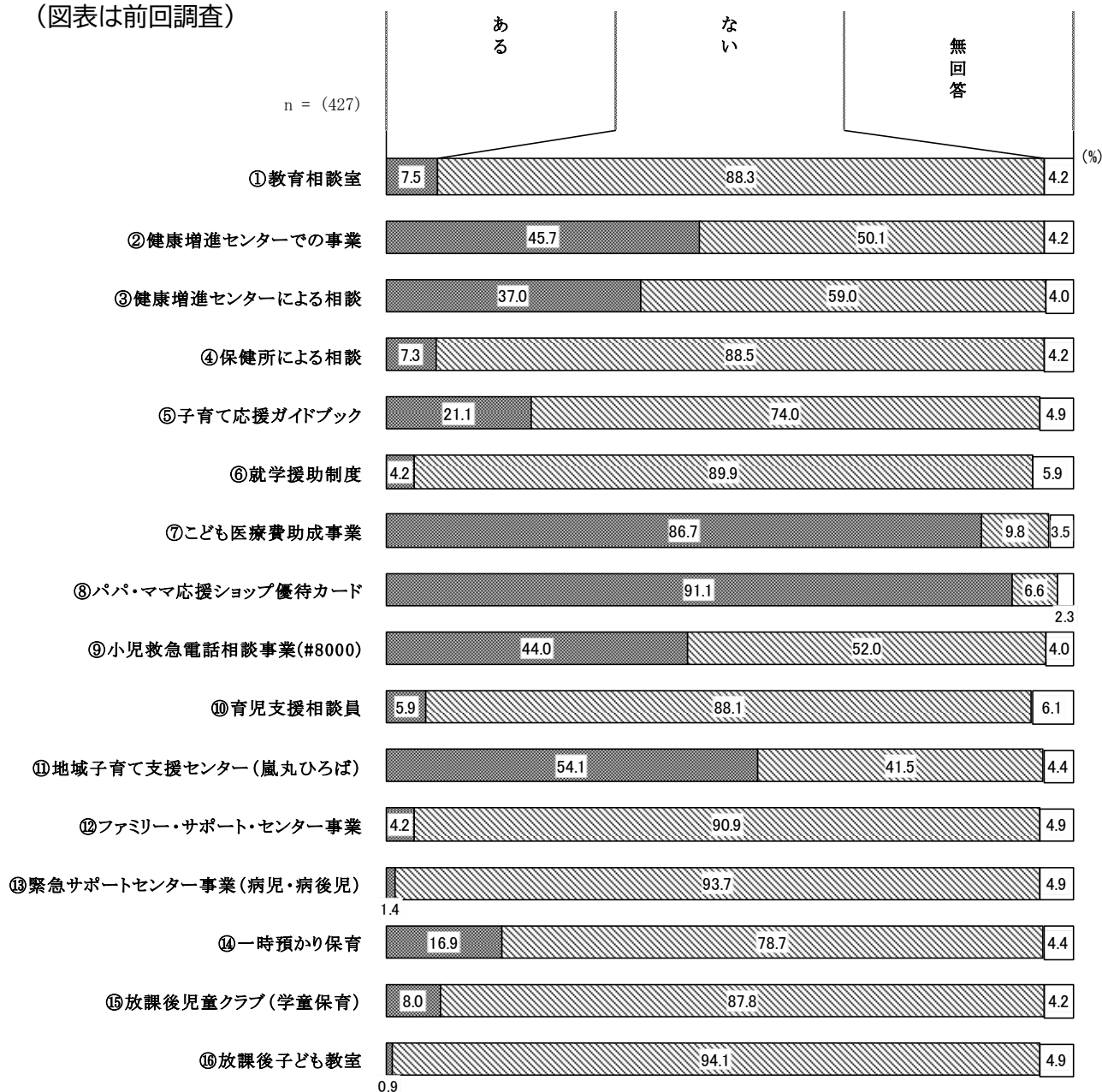
A【町・県のサービス利用状況】



A 【町・県のサービス利用状況の前回調査との比較】

嵐山町・埼玉県の各サービスの利用状況について前回調査と比較すると、8ポイント以上の増加が2サービスあり、3ポイント台の減少が2サービスとなっています。増加サービスは、「嵐山ひろば（地域子育て支援拠点）」（54.1%→63.4%）が9.3ポイント、「小児救急電話相談事業（#8000）」（44.0%→52.1%）が8.1ポイントの増加となっており、一方、「一時預かり保育」（16.9%→13.4%）が3.5ポイント、「パパ・ママ応援ショップ優待カード」（91.1%→87.9%）が3.2ポイントの減少となっています。

（図表は前回調査）

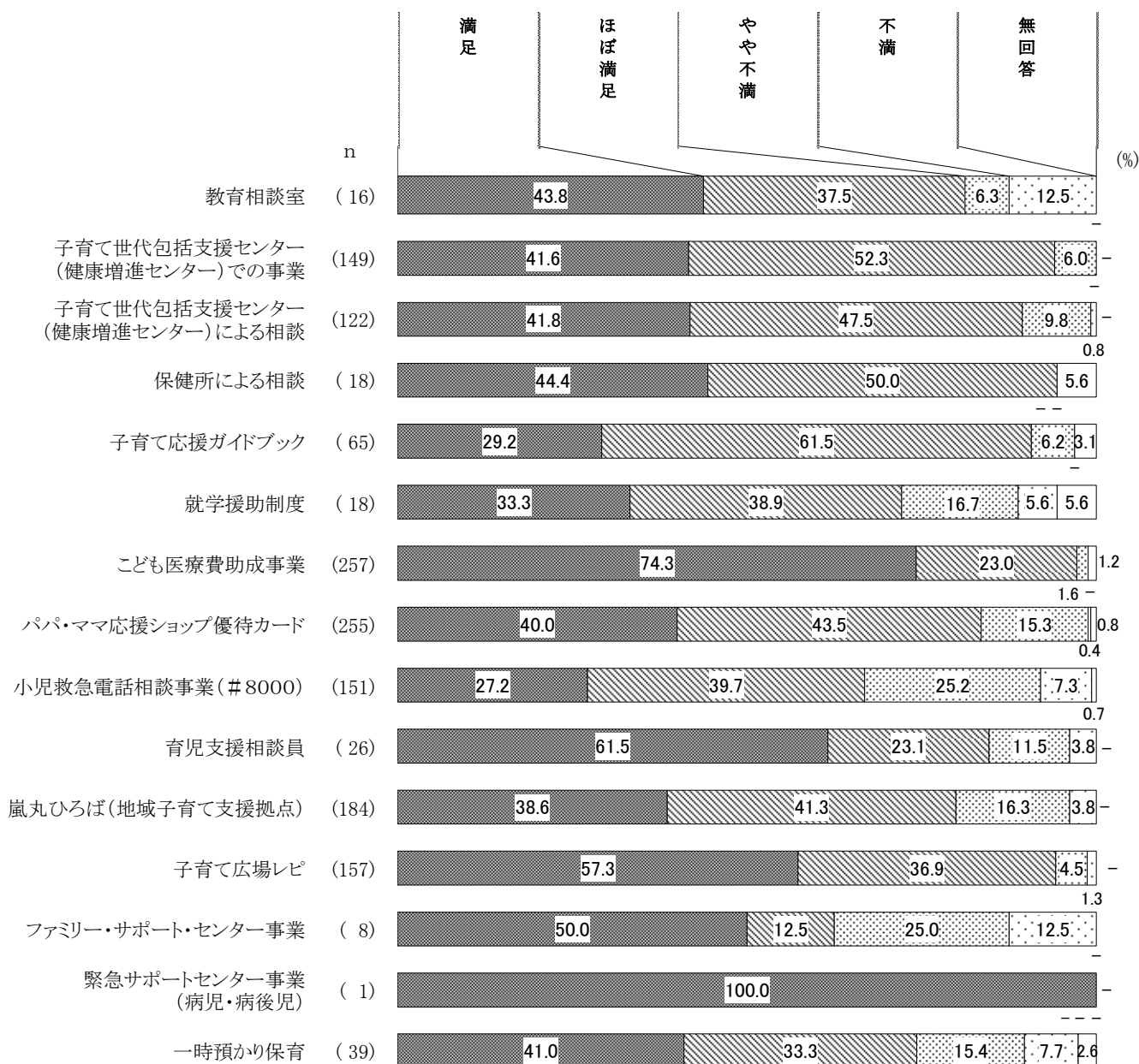


※下記のサービスについては、前回調査時から所管名が下記のとおり変更になっています。

前回調査時（平成30年度）	今回調査
②健康増進センターでの事業	②子育て世代包括支援センター（健康増進センター）での事業
③健康増進センターによる相談	③子育て世代包括支援センター（健康増進センター）による相談
⑪嵐丸ひろば（地域子育て支援拠点）	⑪地域子育て支援センター（嵐丸ひろば）

B【町・県のサービス満足度】

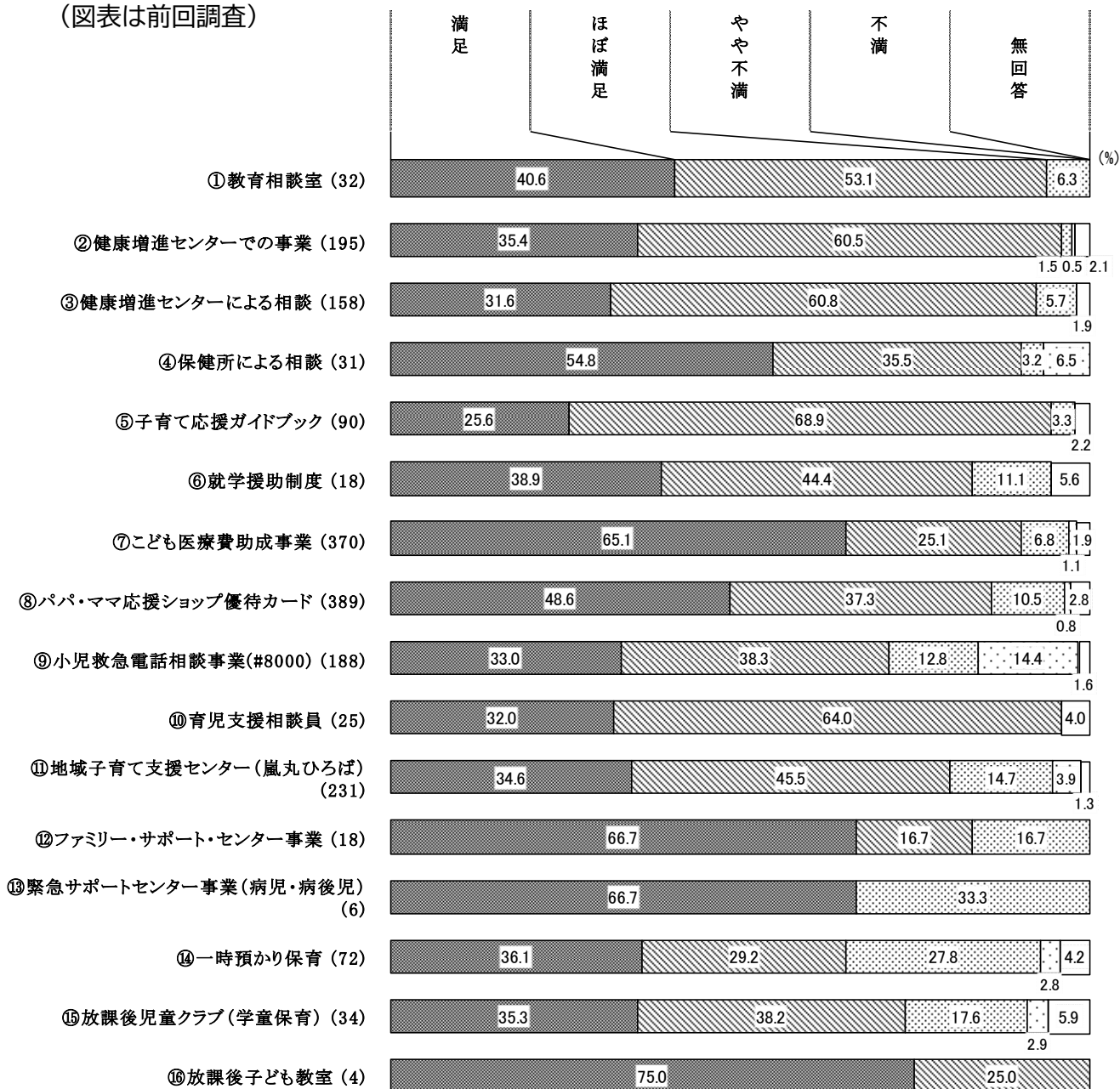
嵐山町・埼玉県のサービスの満足度を見ると、「満足」は「子ども医療費助成事業」が74.3%で最も高く、次いで、「育児支援相談員」(61.5%)、「子育て広場レピ」(57.3%)などとなっています。また、「満足」と「ほぼ満足」を合わせた《満足》でも「子ども医療費助成事業」が97.3%で最も高くなっています。次いで、「子育て広場レピ」(94.2%)、「子育て世代包括支援センター（健康増進センター）による相談」(93.9%)、「子育て応援ガイドブック」(90.7%)が9割台で続いています。



B【町・県のサービス満足度の前回調査との比較】

嵐山町・埼玉県の各サービスの満足度について前回調査と比較すると、ほとんどのサービスで割合が増加しており、特に「育児支援相談員」（32.0%→61.5%）が29.5ポイント、「子育て世代包括包括支援センター（健康増進センター）による相談」（31.6%→41.8%）が10.2ポイントそれぞれ大幅な増加となっています。一方、「一時預かり保育」（16.9%→13.4%）が3.5ポイント、「パパ・ママ応援ショップ優待カード」（48.6%→40.0%）が8.6ポイント、「小児救急電話相談事業（＃8000）」（33.0%→27.2%）が5.8ポイントの減少となっています。

（図表は前回調査）



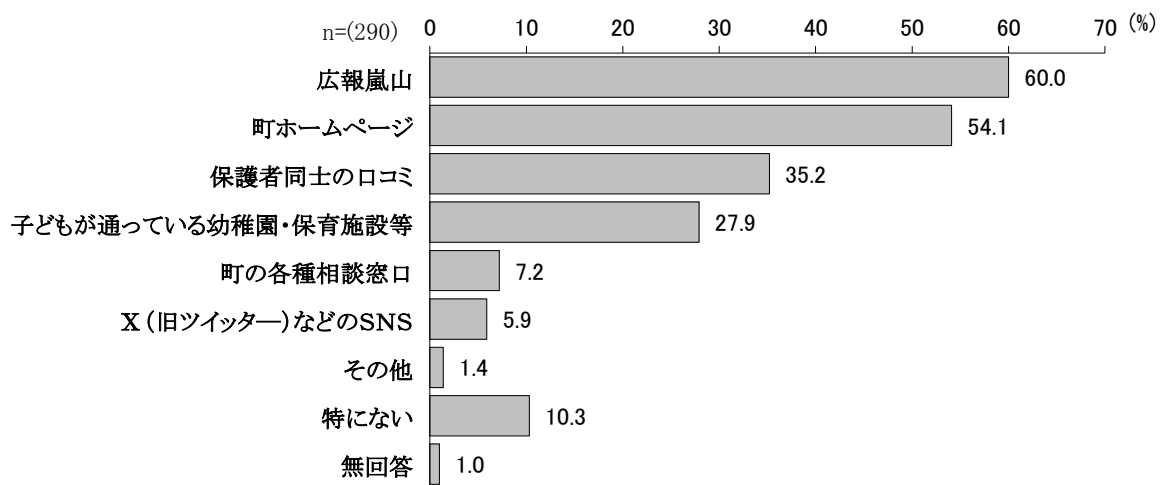
※下記のサービスについては、前回調査時から所管名が下記のとおり変更になっています。

前回調査時（平成30年度）	今回調査
②健康増進センターでの事業	②子育て世代包括支援センター（健康増進センター）での事業
③健康増進センターによる相談	③子育て世代包括支援センター（健康増進センター）による相談
⑪嵐丸ひろば（地域子育て支援拠点）	⑪地域子育て支援センター（嵐丸ひろば）

(2) 相談窓口・サービス等に関する情報の入手方法

問30 町内の相談窓口・サービス等に関する情報は、どのような方法で入手していますか。
当てはまる番号すべてに○をつけてください。

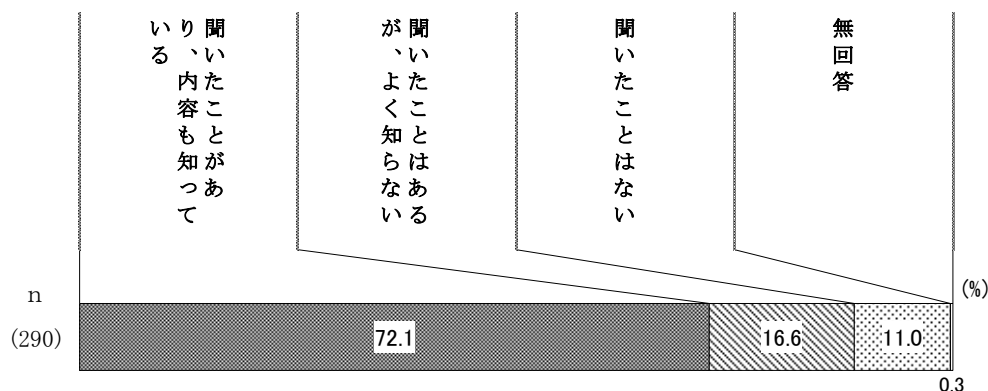
町内の相談窓口・サービス等に関する情報の入手方法は、「広報嵐山」が60.0%で最も高く、次いで「町ホームページ」(54.1%)、「保護者同士の口コミ」(35.2%)、「子どもが通っている幼稚園・保育施設等」(27.9%)となっています。



(3) ヤングケアラーという言葉の認知度

問31 ヤングケアラーという言葉のをこれまでに聞いたことがありましたか。当てはまる番号
1つに○をつけてください。

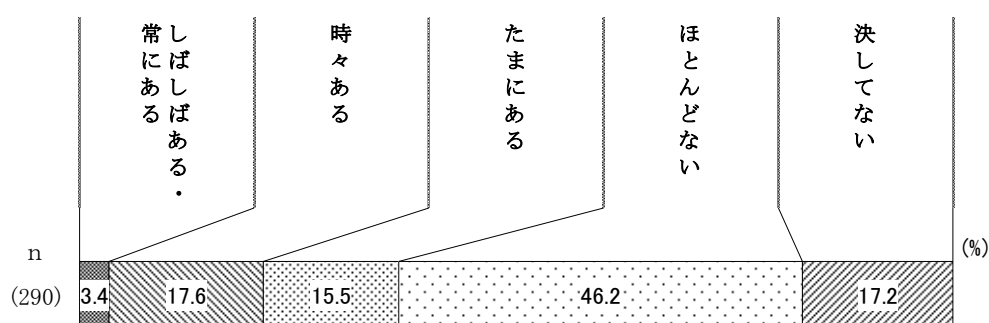
ヤングケアラーの認知度は、「聞いたことがあり、内容も知っている」が72.1%を占めており、「聞いたことはあるが、よく知らない」が16.6%、「聞いたことはない」が11.0%となっています。



(4) 子育てに関して孤立感を感じた経験

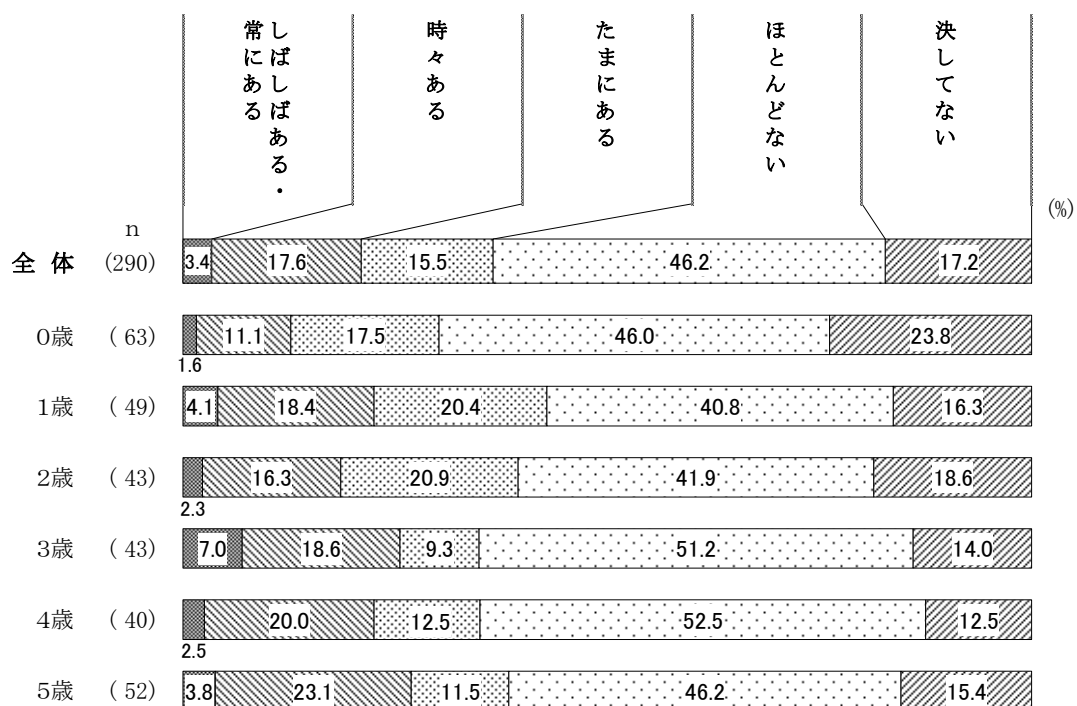
問32 あなたは子育てに関して孤立感を感じることはありますか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

子育てに関して孤立感を感じることは、「ほとんどない」が46.2%で最も高く、これに「決してない」(17.2%)を合わせた《孤立感を感じることはない》は63.4%となっています。一方、「しばしばある・常にある」(3.4%)、「時々ある」(17.6%)、「たまにある」(15.5%)を合わせた《孤立感を感じることもある》は36.5%となっています。



【年齢別】

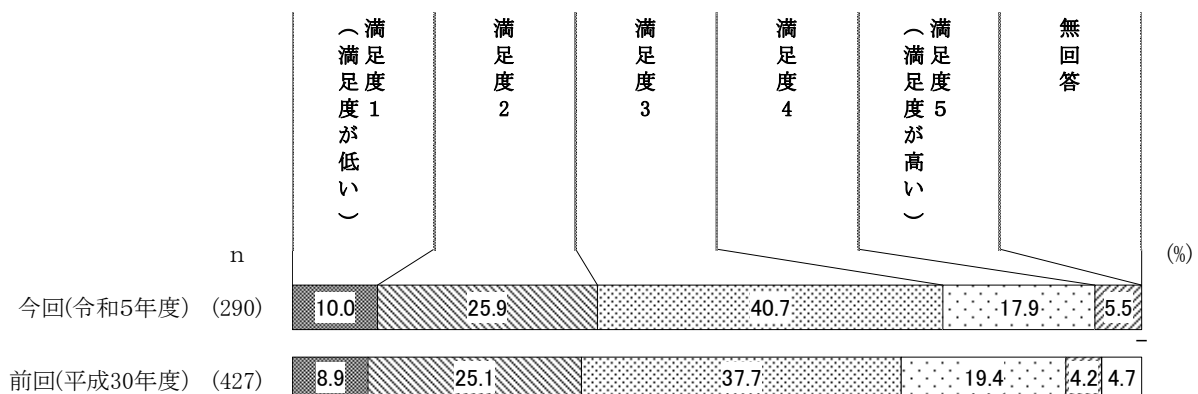
《孤立感を感じることもある》について、お子さんの年齢別に見ると、「0歳」で30.2%と最も低く、「1歳」で42.9%と最も高く、《2歳以上》では3割台となっています。



(5) 町の子育て環境や支援全般の満足度

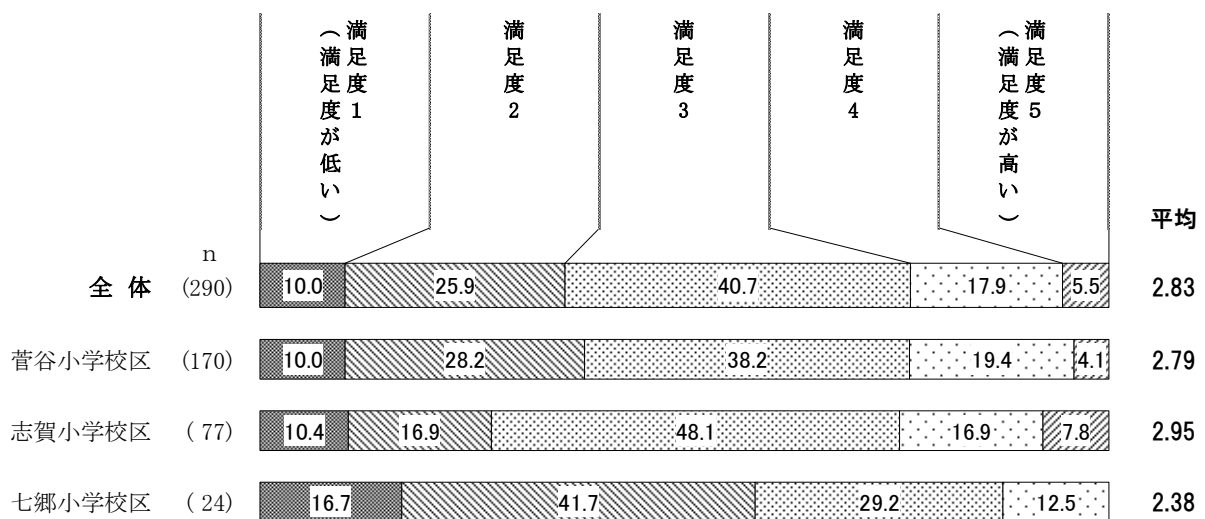
問33 嵐山町における子育ての環境や支援全般の満足度について、当てはまる番号1つに○をつけてください。

嵐山町における子育ての環境や支援全般の満足度を5段階でたずねたところ、「満足度3」が40.7%で最も高く、以下「満足度2」(25.9%)、「満足度4」(17.9%)、「満足度1」(10.0%)、「満足度5」(5.5%)の順となっており、平均は2.83点となっています。



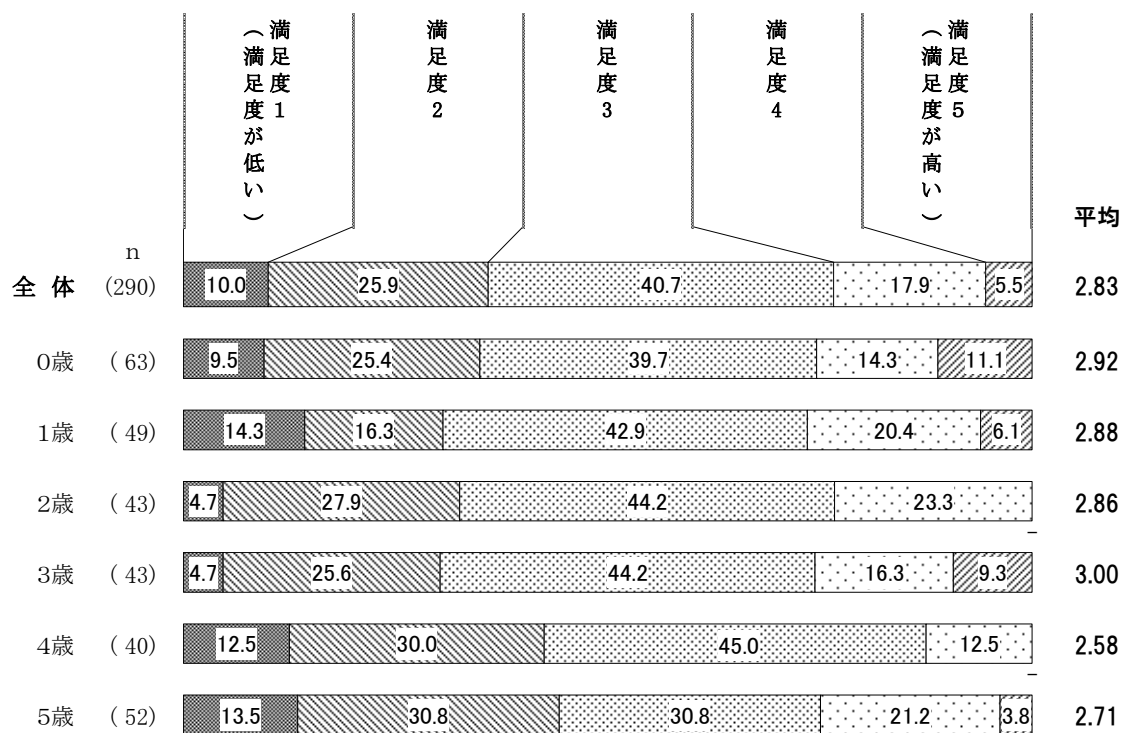
【小学校区別】

子育ての環境や支援全般の満足度を小学校区別で見ると、菅谷小学校区(38.2%)と志賀小学校区(48.1%)では「満足度3」が最も高く、七郷小学校区では「満足度2」(41.7%)が最も高くなっています。平均点では、志賀小学校区(2.95点)、菅谷小学校区(2.79点)、七郷小学校区(2.38点)の順となっています。



【年齢別】

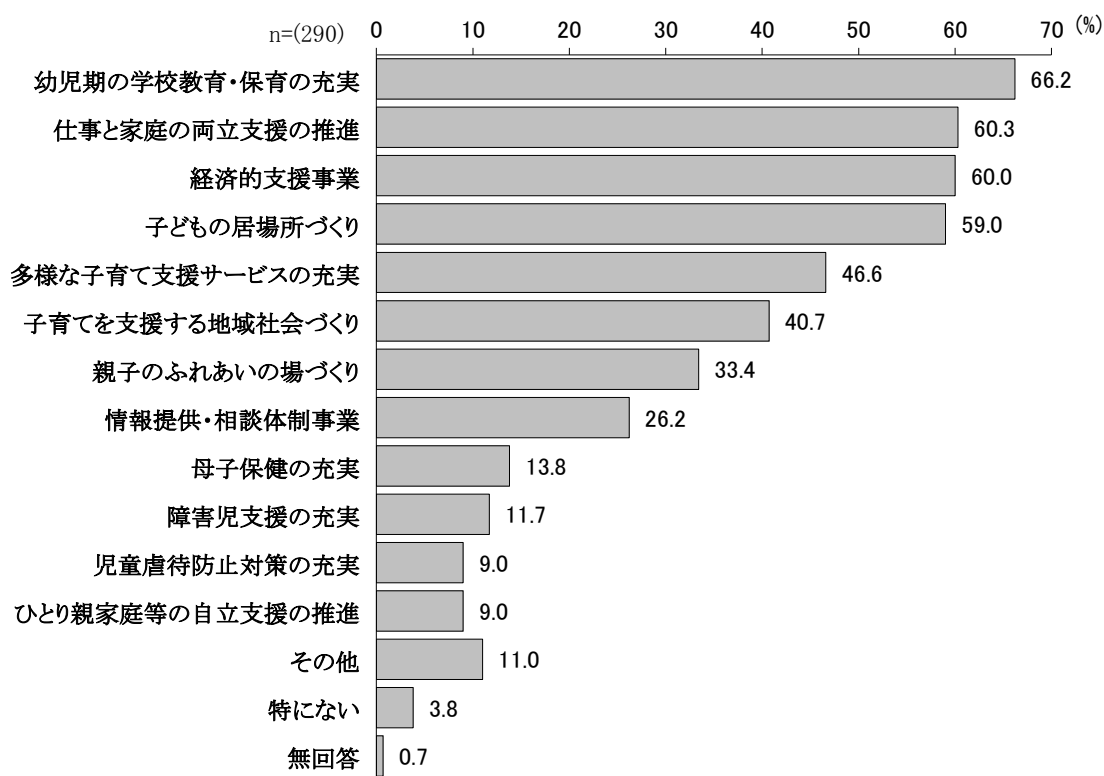
子育ての環境や支援全般の満足度をお子さんの年齢別で見ると、全ての年齢で「満足度3」が最も高くなっています。平均点では、3歳（3.00点）、0歳（2.92点）、1歳（2.88点）の順となっています。



(6) 子ども・子育て支援で充実を希望すること

問34 今後、子ども・子育て支援で充実を希望することは何ですか。当てはまる番号すべてに○をつけてください。

子ども・子育て支援で充実を希望することは、「幼児期の学校教育・保育の充実」が66.2%で最も高く、次いで「仕事と家庭の両立支援の推進」(60.3%)、「経済的支援事業」(60.0%)、「子どもの居場所づくり」(59.0%)、「多様な子育て支援サービスの充実」(46.6%)などの順となっています。



(7) 教育・保育環境の充実など子育ての環境や支援に関して（自由記述）

問35 最後に、教育・保育環境の充実など子育ての環境や支援に関してご意見がございましたら、ご自由にご記入ください。

最後に、教育・保育環境の充実など子育ての環境や支援に関するご意見を、自由記述でたずねたところ、132人の保護者から述べ220件のご意見をいただきました。

いただいたご意見を分野別にまとめたところ、「公園・広場について」が51件で最も多く、次いで、「子育て関連施設について」（37件）、「教育・学校施設やシステムについて」（20件）、「経済的な支援・手当の拡充」（19件）、「保育サービスについて」（17件）などとなっています。

分 野	件 数
公園・広場について	51 件
子育て関連施設について	37 件
教育・学校施設やシステムについて	20 件
経済的な支援・手当の拡充	19 件
保育サービスについて	17 件
保育所や幼稚園について	13 件
子育て・教育に関する情報提供や相談窓口について	11 件
児童・学童クラブのサービス拡大・充実	10 件
安全・安心について	9 件
子育てしやすい就労環境	6 件
施設へのアクセスについて	5 件
地域の活性化	2 件
保健・医療について	2 件
町への感謝・評価	6 件
その他	12 件

以下に、それぞれの分野でいただいた具体的なご意見を抜粋して掲載します。

●公園・広場について（51件）

- ・子育てをする環境としては、公園の整備や遊具が少なく、町内で遊ぶことはほとんどありません。公園で見かける子どもも少なく、残念に思います。もっと広くて、整備された公園があれば、町外からも人が集まり、公園だけではなく、周りの店等も活性化するのではと思います。今後、子どもがどんどん減っていくこと（他の町外へ転出してしまうことなどにより）が不安です。
- ・駅前の公園の整備等、子ども達のために環境を整えてくださりありがとうございます。嵐山町内にはまだまだ公園があるのに、遊具が古かったり雑草が生えていて小さい子を遊ばせるのが厳しい公園がいくつもあるので、少しずつで良いので、みて頂けたらと思います。
- ・越畑地区に公園がありません。遊具が欲しいです。老朽化で撤去されてしまいました。子どもが少ないので、設置は難しいかもしれませんが。

●子育て関連施設について（37件）

- ・レピや嵐丸ひろばはとても良いのですが、月齢ごとに遊べる日を月に1、2回程度、機会を作ってくださると遊びに行きやすいです（例：第1月曜は0歳児のみなど）。これからもっと子育てしやすくなることを願っております！
- ・レピをほぼ毎週利用しています。小学生になると利用できなくなるため、せめて長期休暇のどこか一日でもいいので、小学生の兄弟がいる家庭も利用ができる枠を作って頂けたら嬉しいなと思います。嵐丸ひろばもありますが、1歳頃からずっとレピに通っており、レピの保育士さんの方が相談しやすいです。
- ・年齢に合わせた公園やかっこ教室、料理教室など、年に数回、子ども向けの教室があると体験でき嬉しいです。

●教育・学校施設やシステムについて（20件）

- ・小中学校再編の計画を早く進めて欲しいです。少人数でも良い事もありますが、多い同級生の中で学べる事の方が多いと思います。より多くの経験ができるよう、統合を早くして欲しいです。
- ・子どもが少ないという理由で、選べる部活や習い事が少なくなってしまうことがないか不安です。子どもがやりたいと思う事、興味のある事を大人の都合で奪ってしまうことだけはしたくないので、様々な選択肢を用意してあげられる様な環境を整えて頂けるよう切に願います。
- ・学校統合をいち早く進めてほしい。雨漏り、トイレづまり、ひどい環境の小学校に通わせることに不安である。世界一の教育の町を目指しているといっていたのだから、素晴らしい学校を急いでつくって下さい。良いものができれば、学校目的に転入してくる人も増えます。制度設計に時間をかけず、運用に注力するほうが効果が高いです。

●経済的な支援・手当の拡充（19件）

- ・ひとり親が両親共にいる家庭と同等に生活できるような支援策を充実させて欲しい。保育所の質を町全体で向上させて欲しい。小学校に上がった後も不安なく通学させられるよう、支援等を充実させて欲しい（学童料金の見直しなど）。
- ・保育園の0～2歳児クラスも保育料を免除している地域が増えてきていると耳にしました。嵐山町も将来的に無料になってくれると助かる家庭が増えると思います。

●保育サービスについて（17件）

- ・来年度の4月より、町外の認定こども園から町内の幼稚園に入学する予定です。私自身パートとして就労を続ける予定です。町内の幼稚園は平日預かり保育があり、そちらを利用したいと思っていますが、夏休み等の長期休み時は預けられず、両親に日中見てもらう必要があります。長期休み時も、週に数回幼稚園で預かり保育ができたなら非常にありがたいです。
- ・出産後、0ヶ月、2ヶ月で保健師さんが訪問してくれるのには驚きました。お話を聞いて頂いたり、子どもの体重を測定して頂いたり、心強く、行政の人と関わることで、ちょっとした安心を感じました。
- ・保育の一時預かりを増やして欲しい。母親（育児をする人）の食事環境を把握し、安価に育児者同士で食事をしながら子どもを見られる場所が週一くらいで欲しい。こういった所でファミリーサポーターとのマッチングとかできれば利用しやすくなるのではないのでしょうか。

●保育所や幼稚園について（13件）

- ・最近、嵐山町に引っ越して来ました。子どもが1歳になったら保育園に入れたいのですが、人数的に入園できるのか不安があります。嵐山町でのびのびと子育てできることを今後期待しております。

- ・女性が働くことが当たり前の社会で、就学前の保育園（特に3歳以下）を増やして欲しいです。0歳で20名弱しか入れない環境が疑問です。
- ・嵐山町の自然を活かした保育施設が欲しい。早期教育をするのではなく、五感を使ってたくさん遊べる保育所。

●子育て・教育に関する情報提供や相談窓口について（11件）

- ・近所に我が子と同年代の子がいないため、小学校、中学校の時の登下校が少し不安に思っている。子どもが少ないとパパ・ママとの交流をする機会が少ないと思うので（特に働いている親）、町で何かイベントみたいなのをやって、同年代の子・親が交流できる機会を作って欲しい。嵐山町出身でもないため友達もいなく、なかなか町の情報などを知ることができない。
- ・健診等の子ども達の様子を見ていただく際に、発達の遅れで心配事を相談したことがあったが、まだ小さい年齢だと「もう少し様子見で」と言われてしまう。早い段階で相談施設や療育施設等の情報が欲しい。
- ・転入してきた者なので、恐らく妊娠中から町内に在住している方と情報量が違うと思う。転入者への子育て情報の発信（提供）方法を充実させてもらえると助かります。病院名等の一覧は見ることもできて、おおよその場所がわかっただけでも良いのかなとか。ネットで調べられる昨今ではありますが、土地勘が有る無いは大きく変わってくると思うので。

●児童・学童クラブのサービス拡大・充実（10件）

- ・学童保育の充実です。現在、再編が検討されている最中だとは思いますが、今後子どもの預け先が無いとなると、生活に支障をきたすと思うので、是非、学童に入れなかった子どもがでることの無いように再編を考えて頂きたいと思います。
- ・学童ですが、答えになかったのでここに記載します。私は菅谷校区ですが、できたら鎌形地域にも放課後に子どもが過ごせる場所があったらいいなと思います（大蔵・將軍沢方面の人にも使えるようなもの）。又、学童以外の預かり形態も統合に併せて考えてみてほしいのかなとも思います。いつも調整していただいてありがとうございます。よろしくお願いします。

●安全・安心について（9件）

- ・歩道・自転車道の整備を行って欲しい。歩道と車道の線引きの無い道など、幼い子どもを連れて歩くには危険な箇所がたくさんあります。道路側溝のコンクリートが古く、つまづくことがある。コンクリートが無く、一歩踏み外せば転びそうになる箇所もあるので整備をして欲しい。

●子育てしやすい就労環境（6件）

- ・ひとり親家庭ですが、フルで働くと児童扶養手当の対象から外れてしまい、働きたいけど損だなあと思ってしまいます。国で決まっていることなので、仕方ない部分はあると思いますが。
- ・働きたいと思っても、どうしても長期休みのカベにあたってしまうので、夏休みや冬休みの保育環境があるととてもありがたいです。

●施設へのアクセスについて（5件）

- ・妊娠中にタクシーチケットをいただけたのが、ペーパードライバーの私にはとてもありがたかったです。第一子は別の県でまあまあ大きい市での妊娠でしたが、そのようなものはなかったのが感動しました。ただ、今は地元である嵐山に住んで、子育てをしてみて感じることは、バスがもう少し普及していればなあと思います。駅まではコミュニティバスを利用していますが、町民のためのバスなら役場までもバスで行けるのに、レピにも行きたいと思うのですが、なかなか行けません。

●地域の活性化（2件）

- ・もともと地元である嵐山町ですが、最近は駅でやっているらんざんマーケットや菅谷公園でもイベントをやっているようで、子どもも楽しめるイベントが増えて嬉しいです。以前、県外の他の市に住んでいた時は、おしゃれな移住者の人が多いからか、色んなマーケットやマルシェが多かったのですが、楽しんでいたのですが、嵐山もそんな感じのイベントをやっていて嬉しかったです。でも、夏祭りはしょぼくなってしまい残念です。子どもにお神輿も見せたかったのですが、春のさくら祭りや秋の紅葉祭りなど、楽しいイベントも最近は昔に比べて多いので、嵐山暮らしも楽しいなと思っています。

●保健・医療について（2件）

- ・現在は2ヶ月に1回乳児相談が役場ですが、1ヶ月に1回にして欲しい。もっと気軽に優しく、最新の知識で対応して欲しいです。乳児相談に行った際、曖昧な答えや理解していない事などが見受けられ、不審に思いました。

●町への感謝・評価（6件）

- ・いつも大変お世話になっております。福祉課の皆様にはすばらしい子育ての環境を提供していただき感謝しています。子どもが小さい頃から嵐丸ひろば、レピ、図書館、公園など、町の施設を利用させていただきましたが、いつもスタッフの方々に声を掛けていただき、励まされてきました。お蔭さまで子ども達も順調に大きくなりました。地域の力で育てていただいたと感じております。この場をお借りしてお礼を申し上げたいと思います。ありがとうございます。

嵐 山 町
子ども・子育て支援事業計画に係るニーズ調査
報 告 書

発行：令和6年5月
編集：嵐山町 福祉課
